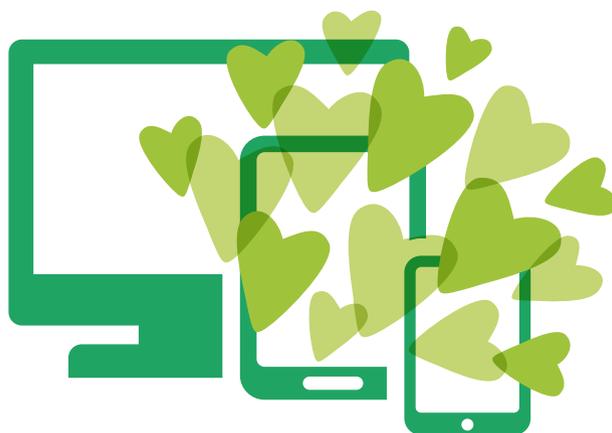


学校図書館における 電子書籍の利用モデルの構築 報告書

公益財団法人 図書館振興財団
平成 28 年度振興助成事業



平成 29 年 3 月 31 日

一般社団法人 電子出版制作・流通協議会
専修大学 電子書籍研究プロジェクト



学校図書館における電子書籍利用モデルの構築 報告書

公益財団法人 図書館振興財団
平成 28 年度振興助成事業

平成 29 年 3 月 31 日

一般社団法人 電子出版制作・流通協議会
専修大学 電子書籍研究プロジェクト

目次

第1章 本事業の目的と背景	1
1.1 事業の目的及び意義.....	1
1.1.1 目的.....	1
1.1.2 事業についての概要.....	1
1.1.3 事業の具体的な実施内容.....	2
1.1.4 期待される成果・効果.....	3
1.2 学校図書館をめぐる情報環境の変化.....	3
1.2.1 はじめに.....	3
1.2.2 学校図書館とは何か.....	4
1.2.3 学校図書館に求められる機能.....	4
1.2.4 学校図書館整備調査会議での検討.....	5
1.2.5 学校図書館や児童生徒が利用する端末利用状況.....	6
1.2.6 学校図書館における電子書籍利用の問題点.....	7
1.4 事業スケジュール.....	8
1.4.1 学校図書館実証実験.....	8
1.4.2 研修プログラム策定.....	9
1.4.3 成果公表.....	9
1.5 構築モデルの概要と提供電子書籍.....	11
第2章 本事業の結果と考察	12
2.1 予備的調査.....	12
2.1.1 概要.....	12
2.1.2 調査結果.....	12
2.2 各学校における利用環境とシステム.....	16
2.2.1 概要.....	16
2.2.2 工学院大学附属中学校・高等学校における実施状況.....	16
2.2.3 玉川聖学院における実施状況.....	17
2.2.4 品川女子学院における実施状況.....	17
2.2.5 かえつ有明中学校・高等学校における実施状況.....	17
2.2.6 神奈川学園中学校・高等学校における実施状況.....	17
2.2.7 渋谷区立千駄谷小学校における実施状況.....	18

2.2.8	渋谷区立富谷小学校における実施状況	18
2.2.9	渋谷区立神宮前小学校における実施状況	18
2.2.9	古河市立三和東中学校における実施状況	18
2.2.10	古河市立上大野小学校における実施状況	18
2.2.11	古河市立古河第五小学校における実施状況	19
2.3	クラウド型におけるログイン回数の分析	20
2.3.1	概要	20
2.3.2	工学院大学附属中学校・高等学校における各学年別のログイン回数	20
2.3.3	玉川聖学院における各学年別のログイン回数	21
2.3.4	品川女子学院における各学年別のログイン回数	21
2.3.5	かえつ有明中学校・高等学校におけるログイン回数	22
2.3.6	神奈川学園中学校・高等学校におけるログイン回数	22
2.3.7	渋谷区立神宮前小学校における各学年別のログイン回数	22
2.3.8	古河市立上大野小学校における各学年別ログイン回数	23
2.3.9	古河市立古河第五小学校における各学年別のログイン回数一覧	23
2.4	クラウドサーバー型システムにおける時間別ログイン分析	24
2.4.1	工学院大学附属中学校・高等学校における時間別ログイン	24
2.4.2	玉川聖学院における時間別ログイン	25
2.4.3	品川女子学院における時間別ログイン	25
2.4.4	かえつ中学高等学校における時間別ログイン	26
2.4.5	神奈川学園中学校・高等学校における時間別ログイン	26
2.4.6	渋谷区立神宮前小学校における時間別ログイン	27
2.4.7	古河市立上大野小学校における時間別ログイン	27
2.4.8	古河市立古河第五小学校における時間別ログイン	28
2.5	コンテンツ閲覧状況	29
2.5.1	トップページでの紹介と閲覧回数の相関	29
2.5.2	各出版社のコンテンツとページの相関	30
2.6	教職員に対するアンケート結果の分析	35
2.6.1	電子書籍の利用について	35
2.6.2	電子書籍の学校図書館への導入や活用について	37
2.6.3	実証実験に対する教職員の考え	41
2.7	児童生徒に対するアンケート結果の分析	42
2.7.1	「学校読書調査」との比較	42
2.7.2	1か月間の読書量	45
2.7.3	1日当たりの読書時間	48

2.7.4	学校図書館利用頻度.....	49
2.7.5	電子書籍の利用経験.....	50
2.7.6	利用経験のある電子書店・電子書籍サービス（複数回答可）.....	51
2.7.7	スタンドアロン型への評価.....	53
2.7.8	クラウド型への評価.....	55
2.7.9	電子書籍の利用意向.....	57
2.8	「1 か月間の読書量」と「電子書籍の利用意向」のクロス分析.....	60
2.8.1	概要.....	60
2.8.2	高校.....	60
2.8.3	中学.....	61
2.8.4	小学校高学年.....	62
2.9	何を「電子書籍」と認識しているのか.....	63
2.10	「電子書籍」サービス利用者の普段の読書量.....	64
2.10.1	「小説家になろう」の利用者（読者）の不読率.....	64
2.10.2	電子コミックサイト利用者のコミックス読書量.....	64
第3章	本事業をふまえての提案	66
3.1	電子書籍の活用を促す制度のあり方.....	66
3.2	学校図書館における電子書籍利用環境の可能性について.....	67
3.2.1	クラウド型の提供.....	67
3.2.2	スタンドアロン型の提供.....	68
3.2.3	共通する意見から見えてくるもの.....	69
3.2.4	システムや機器から見える環境構築の可能性について.....	71
3.3	教職員の電子書籍活用を支える研修カリキュラム.....	72
3.4	電子書籍活用のあり方.....	73
3.4.1	実践を検討する上での前提.....	73
3.4.2	個人利用における電子書籍活用のあり方.....	73
3.4.3	授業利用における電子書籍活用のあり方.....	74
3.5	電子書籍概念の拡張と「新たな読書空間」の出現.....	76
3.5.1	紙の書籍より電子書籍の方が読みやすい.....	76
3.5.2	デジタルコンテンツを読むことは「読書」なのか.....	76
	終わりにかえて.....	78
	資料編.....	79

第1章 本事業の目的と背景

1.1 事業の目的及び意義

1.1.1 目的

一般社団法人電子出版制作・流通協議会（以下、電流協）では電子図書館部会を設け、電子図書館の普及状況や課題について会員社や関連団体と連携して調査研究を行っている。2015年度より「学校図書館における電子書籍利用モデル」を研究テーマとして、専修大学と連携し活動を進めてきた。その理由として、大学図書館および公共図書館を中心に電子書籍の図書館利用が進展する中、学校および学校図書館でも電子書籍利用への期待が高まってきていることと、その一方でデジタル教科書以外には具体的な電子書籍導入への展開が見られないことがあげられる。

今回の実証事業は、こうした状況を打開するために学校図書館で電子書籍が利用できる環境を試験的に構築することと、事業を通じて学校図書館関係者への利用研修プログラムの設計を行うことを目的とした。

本事業を実施することで、期待と実態の乖離を正確に把握し、かつ関係者への意識づけを行い、学校図書館での電子書籍利活用への道筋を作る。また、未来の良質な読者となりうる児童生徒の電子書籍体験の場を提供することを目指す。さらに、ニーズや期待を再確認することで出版社において継続的な電子書籍提供を促進する意義もあると考える。

1.1.2 事業についての概要

本事業は、以下の3点の取り組みを柱とする。

- ①学校図書館向け電子書籍利用の実証的検討
- ②学校図書館関係者（司書教諭等）向け電子書籍利用の研修プログラムの検討
- ③出版社を対象に学校図書館向け電子書籍コンテンツ提供スキームの検討

①については、専修大学文学部の図書館情報学・出版学研究室（野口武悟・植村八潮）が先行調査を行っている¹。これによると現状の学校図書館では、電子機器・端末の有無にかかわらず、その設置や整備が不十分であること、担当者の知識・スキルの不足などが課題と

¹ 西澤優花、植村八潮、野口武悟「学校図書館における電子資料・電子情報資源の現状と課題～全国の小・中・高等学校を対象とした調査をもとに～」『学校図書館』第788号、2016年

第1章 本事業の目的と背景

して明らかとなった。また、「パソコン室があるためそちらで行えばよい」など、学校図書館の情報化に対する認識・理解が十分でないことも問題点として指摘できる。一方で、読書環境における電子資料の普及に伴い、回答者自身の利用に対する積極性とは関係なく、電子書籍の利用を「読書」として捉えつつあることがわかった。実際に学校図書館の電子書籍導入実態は皆無に近いものの、学校の取り組みとして電子書籍導入を積極的に進める必要がある、とした意見が過半数を占めている。

この調査を踏まえ、具体的に学校図書館で運用できる電子書籍利用環境を構築し、児童生徒および教職員に期間を限って利用してもらった上で利用状況の検討を行うこととした。

②については、電子書籍利用の実証実験を通じ学校図書館関係者へアンケートを実施する。その分析を踏まえ、現時点での啓蒙活動として司書教諭などが学校図書館内で電子書籍をどのように扱っていくのが望ましいか、またどのようにその利用に必要となるリテラシーを向上していくかについて実践的な研修プログラムを検討、策定していく。

③については、初等・中等教育の要となる学校図書館の存在が子どもたちの読育の場となることを訴求し、そうした読書に合致するタイトルについての電子書籍化、電子書籍提供を出版社や権利者へ依頼する。経産省・コンテンツ緊急電子化事業（緊デジ）で電子化済みの相当数タイトルがあり、これらのうちから学校図書館への提供が適当なものを選定する。その選定例を元に、出版社に協力を依頼する。

1.1.3 事業の具体的な実施内容

前項に挙げた①～③について以下の通り実施する。

電子書籍利用の実証的検討については、公共図書館で既に実績のある電子図書館の仕組みを流用するなどして、電子書籍を実践的に利用できる環境を整える。予備的調査を行った上で、実証事業の協力校に対して、具体的に児童生徒らにより電子図書館システムを利用し、資料利用の観点から電子書籍と学校図書館の相互関係について調査分析する。

電子書籍利用の研修プログラム検討については、学校図書館関係者（司書教諭等）のリテラシー向上を狙い上記実証で教員に対してアンケート調査やヒアリングにより、課題抽出を行う。さらに調査結果から研修プログラム案をまとめる。

電子書籍コンテンツ提供スキームの検討では、電子書籍の利用状況について、得られた知見を出版社に提供する。

1.1.4 期待される成果・効果

2015（平成27）年度から2016（平成28）年度にかけて開催されている文部科学省「学校図書館の整備充実に関する調査研究協力者会議」（以下、「学校図書館整備調査会議」）では、電子書籍が検討議題のひとつに挙がり、本事業は絶好のタイミングを迎えた。しかし学校図書館における電子書籍導入には予算と人材の問題がある。

今回の実証事業を行うなかで、現状予算措置が充分とはいえない教育事業領域における政策提言的なアプローチや、市場創生の視点での成果獲得を目指す。また学校図書館側でも受皿になるべく自らが市場価値や役割を発揮するなどが期待される。学校図書館は、小中高・特別支援含め約4万校と市場規模は小さくない。

また司書教諭などの関係者にとっては、あまり実践機会に恵まれなかった電子書籍関係の話題を主体的に取り組めることで個々人のリテラシー向上に繋がる。実体験の結果がまとめられることで成果物として研修プログラム案を提示し、これにより今後実証を重ねるための研修環境の整備に資することになる。

電子書籍コンテンツの充実も同様であり、既に点在するデータをニーズに沿って整理していくことで利活用機会が格段に保証される。出版社側の意識改善や継続したデータ制作・提供にも繋がる成果が期待できる。

実際には、読者としての子どもたちが読書機会を享受できる環境づくりこそ最大の成果と言える。こうした活動を通じ、本事業に関わる業界団体や企業、有識者等においては、各々が発信するステートメントの価値が上昇し、引いては公正かつ前向きなたちで企業競争が活発化するなど、健全な市場創生・育成を導くことができる。

1.2 学校図書館をめぐる情報環境の変化

1.2.1 はじめに

電子書籍が一般に普及し、大学図書館は言うに及ばず公共図書館でも電子書籍貸出システムが導入されつつある。一方、「学校図書館整備調査会議」において論点として取り上げられたものの、十分に議論されたとはいいがたい状況である。

また、利用以前の問題として、パソコンなどの電子機器・端末の導入率は低く、後述するようにインターネット環境は大半の学校図書館で未整備である。しかしながら、学校図書館

が学習・情報センターとして機能していくためには、電子書籍・電子情報資源の利用についてもしっかりとした方向性を持つべきであり、現場においても経験を積み、知見をためていく必要がある。

そこで、本節では筆者らが2015年来取り組んできた調査結果を紹介しながら、学校図書館における電子書籍利用の現状と導入のための課題について検討することにする。なお、本節は、植村八潮・野口武悟・電子出版・制作流通協議会編『電子図書館・電子書籍貸出サービス調査報告2016』（印刷学会出版部、2016）の第4章「学校教育における電子書籍利用の現状と課題」の一部を加筆・修正して報告するものである。

1.2.2 学校図書館とは何か

学校図書館は、小学校・中学校・高等学校（いずれも義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校を含む）に設けられた図書館で、主たる根拠法は学校図書館法である。学校図書館法第2条によると、学校図書館は、「図書、視覚聴覚教育の資料その他学校教育に必要な資料を収集し、整理し、及び保存し、これを児童又は生徒及び教員の利用に供することによって、学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童又は生徒の健全な教養を育成すること」を目的とした学校の設備とある。

1.2.3 学校図書館に求められる機能

児童生徒が時代の変化の激しい現代を生きていくためには、主体的に学んでいくことが重要であり、学校図書館を読書センターとしてだけでなく、学習・情報センターとして機能させていかなければならない。そのためには学校図書館では図書だけでなく視聴覚資料や電子資料・電子情報資源などの多種多様なメディアが必要となる。

このような学校図書館における学習・情報センターとしての機能については、情報化社会の到来が喧伝され始めた90年代半ば頃から検討されてきた。1999年告示の高等学校学習指導要領で教科「情報」が新設されたことが契機となって、生徒に対するコンピュータリテラシー教育だけでなく、教師がコンピュータを利用した授業についても、積極的な取り組みが始まった。その一方で、コンピュータの取り扱い部署については、情報担当教員の管理する「コンピュータ室」が主となっていき、学校図書館での環境構築は後れをとってきた。

しかしながら、この前年に発表された「情報化の進展に対応した教育環境の実現に向けて」（情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議 最終報告）²の中では、「第II章-3(2)学校における情報通信ネットワークの整備について」に、学校図書館の整備・充実について、「学校図書館については、コンピュータやインターネット利用環境を整え、司書教諭の適切な指導の下に子供たちの主体的な学習を支援し、読書センターとしての機能に加えて、「学習情報センター」³として機能を強化していく必要がある」としている。必ずしも実体を伴っていないものの、これ以降、学校図書館の「学習・情報センター」としての機能は、報告書や答申案で、たびたび言及されるようになる。

最近では、文部科学省の「教育の情報ビジョン化～21世紀にふさわしい学びと学校の創造を目指して～」(2011年)の中で、「多様なメディアを活用した学習・情報センターとしての学校図書館の機能を、司書教諭を中心に一層強化していくことも求められる」と言及し、学校図書館が電子資料・電子情報資源を含めた多様なメディアの利用拠点となるビジョンを示している。

しかし、20年近い時間経過の中で、社会におけるインターネット利用、児童生徒を囲むデジタル情報の急速な増大にも関わらず、学校図書館における電子書籍の具体的な利用環境モデルが提示されたことはなく、また現場において、時代の変化に対応した努力がなされたとは言いがたい。

1.2.4 学校図書館整備調査会議での検討

「学校図書館整備調査会議」では、初回資料「考えられる主な論点について(案)」の中で、論点の一つとして電子書籍の扱いを掲げている。しかし、関係団体のヒアリングのなかで、「デジタル資料」や「電子資料」に触れた発言があったものの、議論の俎上に上がることはなく、さらに報告案をみる限りでは、図書館資料の一つとして明記されたにすぎない。

2016年10月に公表された報告書である『これからの学校図書館の整備充実について(報告)』では、学校図書館における図書館資料として、「電子資料(CD-ROM、ネットワーク情報資源(ネットワークを介して得られる情報コンテンツ)等)」と整理されたにとどまり、

² http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/002/toushin/980801.htm

³ 引用ママ。本稿の表記は「学習・情報センター」で統一。

導入に向けて整備すべきこと、利用環境の構築に求められること、さらに司書教諭・学校司書など現場のための研修カリキュラムや児童生徒へのリテラシー教育のあり方など、まったく手つかずのままである。そもそもどのような課題あるのか、抽出されていないのが現状である。

これでは、学校図書館が「学習・情報センター」としての機能を発揮できるようとなったところで、実態が見えてこないのである。

1.2.5 学校図書館や児童生徒が利用する端末利用状況

文部科学省「学校図書館の現状に関する調査」⁴によると、「学校図書館内に、児童生徒が、検索・インターネットによる情報収集に活用できる情報メディア機器が整備されている」学校は、小学校 10.6%、中学校 12.5%、高等学校 47.6%にすぎない。これでは学習・情報センターとしての機能が十分に発揮できる環境になっているとは言い難い。このように学校図書館に求められる機能・将来像に対して現状が乖離していることがうかがえる。

一方で、児童生徒のインターネット利用やスマートフォン利用は、高い比率を示している。総務省「平成 28 年度情報通信白書」⁵によると、2015 年末における年齢階層別インターネット利用率は、13 歳～59 歳の年齢層で 9 割を超えて横ばいとなっている。一方、小学生にあたる 6～12 歳の年齢階層の利用率は、全体の中では低いとはいえ 7 割を超えており、その伸び率は 2014 年末の 71.6%に対し、2015 年末で 74.8%と他の年齢層に比較して最も高い 4.5%を示している。

さらに、「平成 26 年 情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」⁶によると、10 代のモバイル機器利用率は、スマートフォンが 2012（平成 24）年の 36.7%から 68.6%と急増し、タブレット端末も、11.5%から 28.6%と増加傾向にある。また、10 代のスマートフォン利用者のうち 94.8%がソーシャルメディアを利用しているという。さらに「平成 27 年版」⁷によると、10 代のモバイル機器によるインターネット利用時間が突出し

⁴ 文部科学省「平成 28 年度『学校図書館の現状に関する調査』結果について」2016 年 10 月公表

⁵ <http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/h28.html> p. 302

⁶ 総務省情報通信政策研究所と東京大学大学院情報学環橋元研究室との共同研究
http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01iicp01_02000028.html

⁷ 情報通信政策研究所

http://www.soumu.go.jp/iicp/chousakenkyu/data/research/survey/telecom/2016/02_160825mediariyou_houkokusho.pdf

て長く、ソーシャルメディアの平均利用時間及び行為者率も最も高いと指摘している。モバイルネット平均利用時間は、平日で、94.7分、休日で172.1分となっている。

現状において、小・中学校では児童生徒による携帯電話やスマートフォンの校内持ち込み、利用を禁じている学校が大半であろう。また、高等学校における教科「情報」が、SNSやスマートフォンなど最新の情報環境について対応できているとは言いがたい。つまり、児童生徒は学校教育の外で、インターネットによる情報収集、SNSなどのコミュニケーション、情報端末の利用スキルを習得していることになる。しかし、SNSの情報取得においては、真偽の怪しい情報や悪質なデマ、ヘイトスピーチなどがあふれた情報源にアクセスすることもなく、誤った認識をもちかねない、さらに、情報発信する際にも著作権の侵害行為をしたり、個人的な発言やプライベートの写真をネット公開するなど、取り返しのつかない事件に巻き込まれる危険にさらされている。

一方、一般に販売されている電子書籍は、印刷書籍を元にしたレプリカ版が多く、著者や出版社によって信頼性が担保されていると言ってよい。電子端末の利用時間が増えることで読書時間が減少し、良質な作品に出会うチャンスも失われていると考えられる。そうであるならば、電子書籍による読書を広めていくことを積極的に検討すべきである。

1.2.6 学校図書館における電子書籍利用の問題点

以上、学校図書館における電子書籍利用について現状を述べた。これらをまとめると、次のような問題が浮かび上がってくる。

- ・学校図書館におけるインターネット接続可能なコンピュータ端末の導入率が極めて低く、求められる機能・将来像と現状の間で乖離している。
- ・学校図書館の電子書籍の利用にあたって、問題点や課題抽出ができていない。このため、求められる機能やインターフェースが不明である。
- ・司書教諭・学校司書における電子書籍に対する理解度調査が行われていないため、具体的な導入に向けての研修カリキュラムが確立できていない。
- ・児童生徒の学校外でのスマートフォンの利用、SNSによる情報収集が高まる一方で、学校図書館は未だ紙の書籍主体にとどまっている。
- ・学校においては、デジタル教科書などを児童生徒用にタブレット端末で利用するモデルは示されているものの、それらの電子書籍を学校内でどのように蓄積・共有・提供するのかについては十分に検討されていない。

- ・図書館資料の会計処理の問題(電子書籍をモノとして処理できるのかどうか)、その判断根拠となる法律上の不備(現行「学校図書館法」上の図書館資料の定義に電子書籍が明確に位置づけられていない)が指摘できる。
- ・学校図書館の電子書籍の導入や利用が進まない一方で、大学図書館では電子書籍、電子ジャーナル、データベースなどの多様な電子資料が整備され、講義においても学生の積極的な利用が推奨されている。高校と大学の図書館利用に断絶がある。

1.4 事業スケジュール

表 1-1 に本事業の全体スケジュールを「学校図書館実証実験」「研修プログラム策定」「成果公表」に分けて記載した。

1.4.1 学校図書館実証実験

本事業の中心を占める学校図書館実証実験としては、次の4項目に分けて運用した。

- ①「全体設計」として、以下の4点を初期段階で行った。
 - ・協力校募集のための依頼書作成
 - ・児童生徒が学校図書館で電子書籍を利用できるモデル(クラウドサーバー型とスタンドアロン型)の設計と確定
 - ・実証実験中、あるいはその後に児童生徒、教職員に対して行うアンケート項目の確定
 - ・電子書籍利用モデルとアンケート項目の妥当性を確かめるために予備的調査の実施と検証
- ②「調査先対応」として、小学校と中学校・高等学校に分け、それぞれ次の3点を行った。
 - ・実証事業に参加する協力校の候補選定と説明会の実施
 - ・実証実験は、10月・11月頃に実施
 - ・アンケート調査および必要に応じて教職員、児童生徒に対するヒアリングを11月から12月にかけて実施
- ③「コンテンツ収集」では、実証実験で利用する電子書籍を出版社から提供いただくための準備を行っている。
 - ・出版社へ協力の打診を行い、幸い、当初予定した出版社すべてから賛同を得た
 - ・電子図書として出版され、かつ、電子図書館サービスに提供している図書リストから、学校図書館で収集するにふさわしい図書を選定し、著作権者の許諾を求めた

第1章 本事業の目的と背景

- ・コンテンツ制作・配信準備として各社の電子図書を集め、配信サーバーへの格納や、スタンドアロン型電子書籍専用端末に格納を行った
- ④「集計・分析」で、アンケートを実施し、集計を行った。
- ・アンケート集計
 - ・アンケート集計結果やヒアリング分析に加えログの解析などを行って実証実験をとりまとめた

1.4.2 研修プログラム策定

次に、研修プログラム策定としては、主に次の2点を行った。

- ・アンケート結果やヒアリング結果を踏まえ、研修プログラムに求められる要件の抽出
- ・抽出した要件を元に、研修プログラム案の策定

1.4.3 成果公表

最後に、「成果公表」については次の通りである。

- ・報告書作成(本報告書)
- ・研究報告発表(2017年5月頃の予定)

第1章 本事業の目的と背景

表 1-1 学校図書館における電子書籍利用モデル構築事業スケジュール

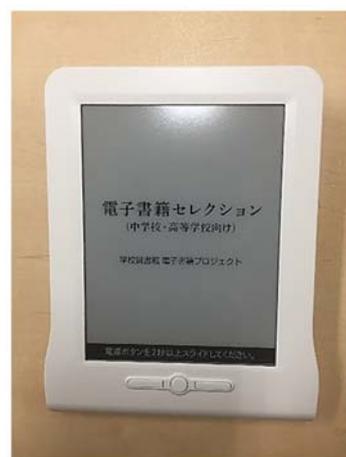
		2016年						2017年					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
中項目	小項目												
全体設計	依頼書作成	↔											
	システム概要の確定		↔										
	アンケート項目確定			↔									
調査先対応 (小学校)	予備的調査												
	学校選定	↔											
	実証実験実施								↔				
	アンケート実施/ヒアリング								↔	↔			
調査先対応 (中学校・高校)	学校選定	↔											
	実証実験実施								↔				
	アンケート実施/ヒアリング								↔	↔			
コンテンツ収集	出版社への打診	↔											
	作品の選定と許諾		↔										
	コンテンツ収集			↔									
	コンテンツ制作・配信準備				↔								
集計・分析	アンケート集計												
	実証実験報告書作成												
要件の抽出													
研修プログラム開発													
報告書作成													
研究報告発表													

1.5 構築モデルの概要と提供電子書籍

学校図書館における電子書籍の利用モデルを図 1-1 に示す。具体的には、商用電子書籍貸出サービスをベースとした「クラウド型」と電子書籍専用端末を用いた「スタンドアロン型」の2通りを準備した。本実証事業に参加する協力校の環境や要望にあわせて、両者、あるいはどちらかだけのモデルを利用した。巻末の資料編【資料 7】（補足資料）を参照されたい。



(a) クラウド型



(b) スタンドアロン型

図 1-1 電子書籍利用環境構築モデル

また、出版社 8 社の協力を得て、著作権者の許諾と理解のもと、実証事業用の電子書籍を集めることができた。実証事業の予算の制約もあり、すべての作品を扱うことができないので、同じようなタイトルなどを中心に調整した結果、789 点となった。

提供いただいた電子書籍は、講談社が 198 点（提供数 200 点）、偕成社が 88 点、学研が 100 点（提供数 158 点）、岩崎書店が 35 点、KADOKAWA が 121 点、ポプラ社が 21 点（提供数 36 点）、小学館 219 点（提供数 807 点）、ポット出版 7 点である。リストを巻末の資料編に【資料 10】として掲載した。

第2章 本事業の結果と考察

2.1 予備的調査

2.1.1 概要

児童生徒が学校図書館で利用できることを前提に設計した電子書籍利用モデル（クラウドサーバー型とスタンドアロン型）と実証実験中、あるいはその後に児童生徒や教職員に対して行うアンケート項目の妥当性を確かめるために予備的調査を実施した。この結果を踏まえ、本事業における利用モデルの整備とアンケート項目を確定した。

- ・調査期間：2016年8月27日～28日
- ・実施場所：工学院大学「第23回わくわくサイエンス祭・科学教室」における同大学附属中学校・高等学校
- ・回答数：60人（10歳未満：7人、10代：23人、20代：2人、30代：4人、40代：19人、50代：1人、年齢不明：4人）

2.1.2 調査結果

以下、質問ごとに回答結果を示す。

質問1：あなたは普段（1か月に）どのくらい紙の本を読みますか。

表 2-1 年代別の読書冊数の平均（単位：冊）

	①書籍	②雑誌	③マンガ
10歳未満	15.71	2	5.71
10代	2.43	1	4.86
20代	0.5	7.5	1
30代	7	3.25	1.5
40～50歳	3	0.75	1.35
不明	1	0.75	0
合計	4.55	1.15	3.33

質問2：あなたはインターネットに接続できる以下の機器を何台所有していますか(家族と共有のものも含みます)。それぞれの台数をお答えください。また、それらの機器を1日あたりにどのくらい利用するかもお答えください。

表 2-2 年代別の平均所有数（単位：台）と1日当たりの平均利用時間（単位：時）

	①スマートフォン	②タブレット端末	③パソコン	④携帯電話（ガラパゴスケータイ）	⑤電子書籍専用リーダー	⑥その他	1日当たりの平均利用時間
10歳未満	0.85	0.71	0.71	0.14	0.28	0.14	0.42
10代	0.73	0.6	0.65	0.08	0.26	0	3.67
20代	1	0.5	1.5	0	0	0	8.5
30代	1.5	1	1.75	0.25	0	0	2
40～50歳	1	0.95	1.5	0.5	0.05	0	2.6
不明	1.25	0.5	0.75	0.5	0	0	0.75
全年齢	0.93	0.75	1.05	0.26	0.05	0.11	2.85

その他の回答としては、PS VITA、ニンテンドー3DS といった Wi-Fi 接続機能を持った携帯型ゲーム機が挙げられた。

質問3：あなたは電子書籍を読んだことがありますか。当てはまる番号を〈丸〇〉で囲んでください。

表 2-3 電子書籍の世代別読書体験の有無

	①ある	②ない
10歳未満	4	3
10代	11	11
20代	0	2
30代	4	0
40～50歳	9	11
不明	2	1
合計	30	28

質問4：あなたは以下のサービスを利用したことがありますか。当てはまるサービスについて、番号を〈丸〇〉で囲んでください。また、特に利用する頻度の高いものには〈二重丸◎〉で囲んでください。

表 2-4 回答のあったサービスと利用人数

人数	サービス名
9人	③pixiv
7人	⑤kindle
6人	⑩comico、⑪小説家になろう
5人	⑬yahoo!ブックス、⑭d マガジン
4人	④honto、⑮めっちゃコミック、⑯LINE マンガ
3人	⑥DMM 電子書籍、⑦iBookstore、⑧コミックシーモア、⑨Renta!、⑫まんが王国
2人	②Booklive!、⑦Reader Store、⑩ニコニコ静画（マンガ）、⑭マンガボックス、⑮ハーメルン、⑯その他（ベネッセ、スマートパス）
1人	①ebookjapan、⑥楽天 kobo、⑧BOOK WAIKER、⑩GALAPAGOS STORE、⑮ソク読み、⑯パピレス、⑰楽天マンガ、⑱Arcadia、⑳E★エブリスタ

質問5：あなたが今回利用した機器はどちらですか。当てはまる番号を〈丸〇〉で囲んでください。

表 2-5 利用した機器

①iPad : 27人	②honto pocket : 2人	③どちらも使った : 31人
-------------	--------------------	----------------

質問6：あなたが今回閲覧した作品は何ですか。タイトル名をお答えください。

表 2-6 よく読まれた作品（上位5作品のみ抜粋）

12人	グレッグのダメ日記シリーズ
10人	おしりたんてい
9人	精霊の守り人
3人	母を尋ねて三千里
3人	ミルキー探偵

質問7：あなたが今回利用したサービスについてお聞きします。今回のサービスは使いやすかったですか？それとも使いにくかったですか。また、よろしければその理由もお答えください。

表 2-7 電子書籍端末の使いやすさ

①使いやすかった点	②使いにくかった点
・文字の縮小・拡大が出来ること	・目が疲れる
・コンテンツ数の多さ	・反応が遅い
・携帯性のよさ	・操作が難しい
・操作の手軽さ	
・見やすい	

質問8：あなたは今後、電子書籍を利用したいと思いますか。当てはまる番号を〈丸〇〉で囲んでください。また、よろしければその理由もお答えください。

表 2-8 年代別の回答人数と主な回答理由

	①思う	主な理由	②思わない	主な理由
10歳未満	7	◎場所をとらない	0	◎紙が好き
10代	18	◎携帯性の良さ	4	◎紙で読みたい
20代	1	◎どこでも読める	1	・電子機器になれない
30代	4	・コンテンツの多さ	0	
40～50歳	12	・文字・画像の拡大・縮小	7	
不明	2	ができる	1	
			14	

質問9：今日の感想を自由にご記入ください。

今回の実証で初めて電子書籍を利用したという感想が多く、今後も利用したいという意見と紙で読みたいという意見は同程度見られた。

2.2 各学校における利用環境とシステム

2.2.1 概要

表 2-9 に各学校における実施状況を示す。

表 2-9 各学校における実施状況

学校名	使用システム				実証期間
	クラウドサーバー型 (789点)		スタンドアロン型		
	小学校	中高向け	小学校 (97点)	中高向け (111点)	
工学院大学附属中学校・高等学校	×	職員・生徒全員 1,300ID	×	20台	10/3～12/22
玉川聖学院中等部・高等部	×	職員・生徒分 300ID	×	10台	10/7～12/9 (スタンドアロン型は10/17～)
品川女子学院	×	1・2年生徒 500ID	×	15台	10/3～12/3
かえつ有明中学校・高等学校	×	職員・生徒一部 500ID	×	15台	10/26～12/末
神奈川学園中学校・高等学校	×	固定PC+職員 200ID	×	10台	10/24～12/末
渋谷区千駄谷小学校	×	×	50台	×	10/18～12/16
渋谷区富谷小学校	60 ID	×	×	×	11/18～12/16
渋谷区神宮前小学校	350 ID	×	×	×	10/24～12/22
古河市立三和東中学校	×	×	×	37台	11/7～12/20
古河市立上大野小学校	200 ID	×	×	×	11/7～12/20
古河市立古河第五小学校	200 ID	×	×	×	11/7～12/20

2.2.2 工学院大学附属中学校・高等学校における実施状況

実施対象は、中学1年99名、中学2年94名、中学3年91名、高校1年329名、高校2年312名、高校3年329名であった。中学校と高等学校を合わると千名を超える大規模

校である。利用システムとしては、クラウドサーバー型に加え、スタンドアロン型電子書籍専用端末を20台、図書館で貸出した。

実証期間は2016年10月3日から12月22日である。IDは1,300を学年ごとに供与している。

2.2.3 玉川聖学院における実施状況

玉川聖学院は中等部、高等部から構成される女子一貫校である。実施対象は、高校1年172名に加え、高校2年13名、高校3年8名の希望者と、中学3年生の図書委員5名も参加利用した。300IDを供与した。利用モデルとしては、クラウド型に加え、スタンドアロン型10台を供与し、図書館で貸出可能とした。

実証期間はクラウド型が2016年10月7日から12月9日で、スタンドアロン型は10月17日から貸出した。

2.2.4 品川女子学院における実施状況

実施対象生徒数は、中学1年227名、中学2年224名、中学3年203名、高校1年229名、高校2年214名、高校3年224名である。IDは希望者のみに配布し中学1～2年生徒に500IDを供与した。クラウド型は、高校1～2年の443人に対して、10月2日から12月3日に実施し、中学1～3年の654人に対して、11月2日から12月3日に実施した。一方、スタンドアロン型は15台を、中学1～2年の1097人を対象に10月2日から12月3日に貸出した。

2.2.5 かえつ有明中学校・高等学校における実施状況

クラウド型500IDを供与し、高校2年5クラスの生徒172名に配布した。実施対象生徒数は、131名で、スタンドアロン型15台を供与した。実証期間は2016年10月26日から12月20日である。

2.2.6 神奈川学園中学校・高等学校における実施状況

クラウド型の85IDを供与し、生徒が自由に図書館に設置したパソコンで利用する方法をとった。全学年の生徒が利用可能で、中学1年213名、中学2年184名、中学3年207名、高校1年179名、高校2年193名、高校3年163名である。また、スタンドアロン

型10台を供与し、図書館のカウンターで使用した。実証期間は2016年10月24日から12月末の冬期休業期間前までである。

2.2.7 渋谷区立千駄谷小学校における実施状況

利用システムはスタンドアロン型のみで50台を供与した。実証対象は、小学4年～6年の約210名（各学年約70名、2クラス）で、1クラスあたり1週間利用した。実証期間は2016年10月18日～12月16日である。

2.2.8 渋谷区立富谷小学校における実施状況

実施対象は3年～6年の約280名（各学年約70名ずつ）である。利用システムはクラウド型のみで、PC固定で60IDを発行した。実証期間は2016年11月18日～12月16日である。

2.2.9 渋谷区立神宮前小学校における実施状況

実施対象は、1年52名、2年59名、3年42名、4年60名、5年29名、6年29名に350IDを発行した。そのうち40IDが共通である。実証期間は2016年10月24日から12月22日である。

2.2.9 古河市立三和東中学校における実施状況

生徒数は、中学1年71名、中学2年90名、中学3年87名の学校規模で、このうち実施対象は、中学1年2クラスである。スタンドアロン型のみで37台を供与した。実証期間は2016年11月7日から12月20日のうち、前半と後半に分けてそれぞれ2～3週間である。

2.2.10 古河市立上大野小学校における実施状況

学年ごとに実施児童数は、1年13名、2年18名、3年16名、4年20名、5年17名、6年23名である。200IDを学年ごとに振り分け実施した。なお、アンケート回答は5・6年生に依頼した。利用システムとしては、クラウドサーバー型だけで、スタンドアロン型の供与はない。

実証期間は2016年11月7日から12月20日に行った。

2.2.11 古河市立古河第五小学校における実施状況

実施児童数は、1年25名、2年21名、3年20名、4年16名、5年18名、6年20名である。200IDを学年で振り分けて実施した。実証期間は2016年1月7日から12月20日である。

2.3 クラウド型におけるログイン回数の分析

2.3.1 概要

中学校と高等学校においては、高校生よりも中学生のログイン回数が多い結果となった。これは、「学校読書調査」における学校図書館の利用回数と同様な傾向であり、受験勉強が本格化するとともに読書が減る傾向にそった結果と言えよう。

2.3.2 工学院大学附属中学校・高等学校における各学年別のログイン回数

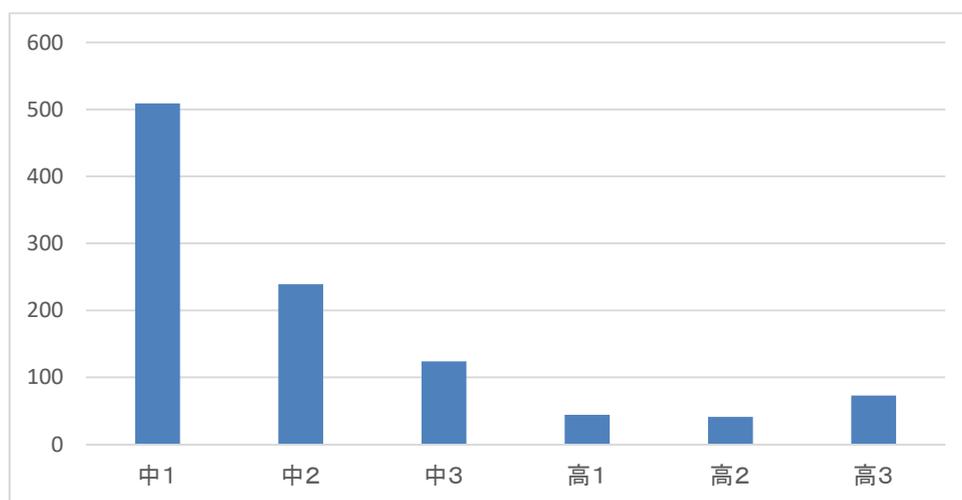


図 2-1 工学院大学附属中学・高等学校学年別ログイン回数

図 2-1 のグラフは、工学院大学附属中学校・高等学校における各学年別の全ログイン回数である。中学 1 年生のログイン回数が、他学年に比べ圧倒的に多いが、これは授業内で利用したため、回数増加に関係した結果である。

中学 2 年生、3 年生のログイン回数が少なかった要因として、個人タブレットに制限がかかっており、ブラウザを別タブで開いて読むことができない読書環境の差が存在し、大きく影響したとみられる。

高校生になると、ログイン回数が全体的に減少している。

2.3.3 玉川聖学院における各学年別のログイン回数

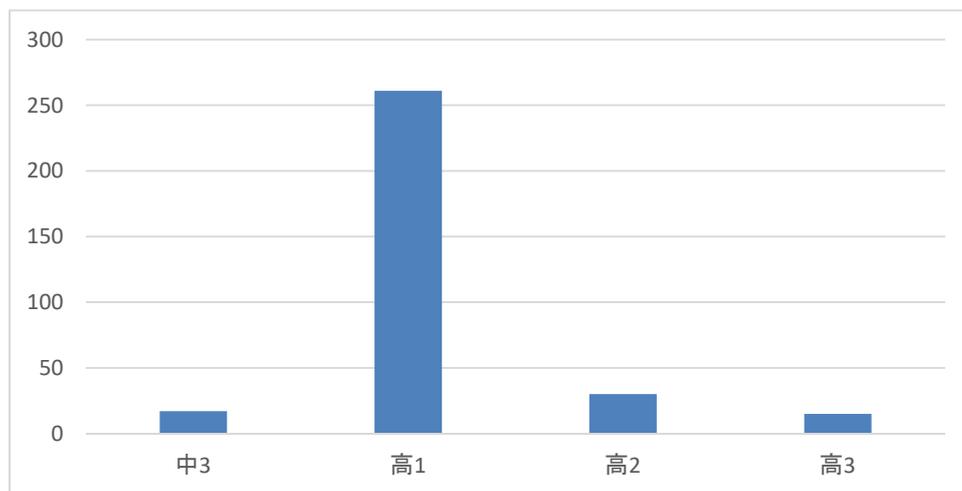


図 2-2 玉川聖学院の学年別ログイン回数

図 2-2 のグラフは、玉川聖学院における各学年のログイン回数である。

高校 1 年生から利用希望が多く寄せられ ID 配布が多かったため、それに比例しログイン回数も多い結果となった。ただし、一人あたりの平均ログイン回数は、中学 3 年生 3.4 回、高校 1 年 1.5 回、2 年 2.3 回、3 年生 1.9 回となる。また、過度に受験勉強に時間を割かなくてよい高校 1 年生の関心が高く、ID の発行を希望したことは事実だが、一方、少ないながらも ID 発行を希望した高校 2・3 年生や図書委員は積極的な利用をしたといえる。

2.3.4 品川女子学院における各学年別のログイン回数

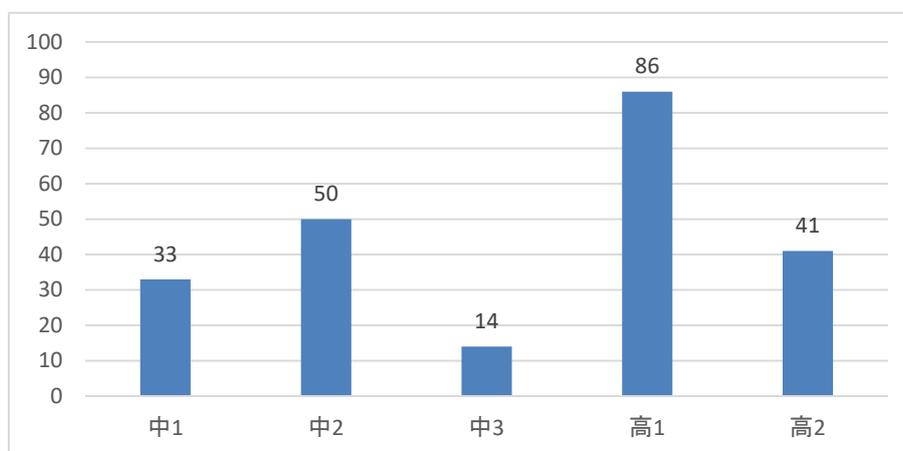


図 2-3 品川女学院学年別ログイン回数

図 2-3 に品川女子学院における各学年別のログイン回数のグラフを示す。
高校 1 年生のログイン回数が多い結果となった。

2.3.5 かえつ有明中学校・高等学校におけるログイン回数

かえつ有明中学校・高等学校のログイン回数は 303 回であった。高校 2 年生のみの実施となったが、同規模の他校同学年に比べ、ログイン回数は一番多い結果となった。

2.3.6 神奈川学園中学校・高等学校におけるログイン回数

神奈川学園中学校・高等学校におけるログイン回数は 42 回であった。

実証実験の方法は、85ID を供与し、生徒が自由に図書館に設置したパソコンで利用する方法をとった。このため、対象生徒は全学年で、うち使用生徒数は計測できない。スタンドアロン型電子書籍端末は 10 台供与し、図書館のカウンターで使用した。実証期間は 2016 年 10 月 24 日から 12 月末の冬期休業期間前までである。

2.3.7 渋谷区立神宮前小学校における各学年別のログイン回数

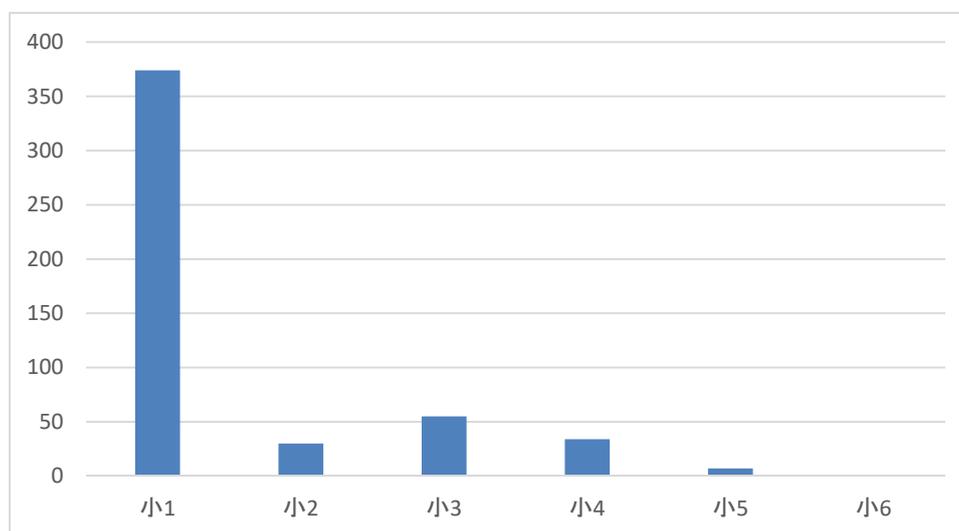


図 2-4 渋谷区立神宮前小学校のログイン回数

図 2-4 に神宮前小学校における学年別ログイン回数のグラフを示す。

小学 1 年生のログイン回数が圧倒的に多い。未確認であるが授業内での紹介があったことが考えられる。

2.3.8 古河市立上大野小学校における各学年別ログイン回数

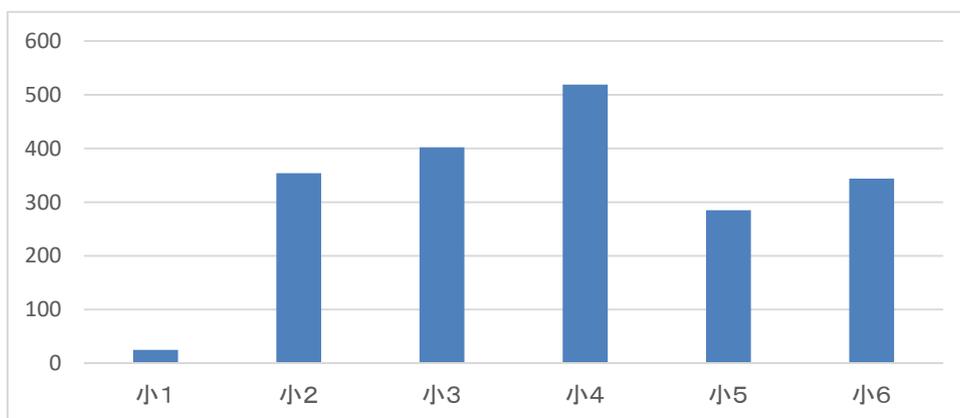


図 2-5 古河市立上大野小学校の学年別ログイン回数

図 2-5 に古河市立上大野小学校における各学年別のログイン回数グラフを示す。

クラウド型は、パソコン端末を利用することから、情報リテラシーを考慮すると低学年の利用回数が少ないことが予想された。その割には小学校 2 年生から積極的な利用があったと言えよう。

2.3.9 古河市立古河第五小学校における各学年別のログイン回数一覧

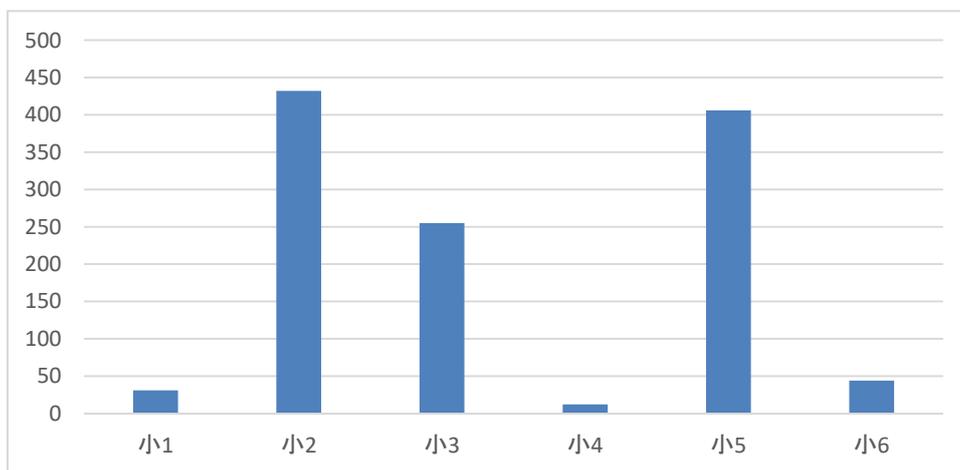


図 2-6 古河市立古河第五小学校の学年別ログイン回数

図 2-6 に古河市立古河第五小学校における各学年別のログイン回数のグラフを示す。

小学 2 年生と 5 年生が特に多い結果となった。授業ないで利用した可能性も考えられる。

2.4 クラウドサーバー型システムにおける時間別ログイン分析

2.4.1 工学院大学附属中学校・高等学校における時間別ログイン

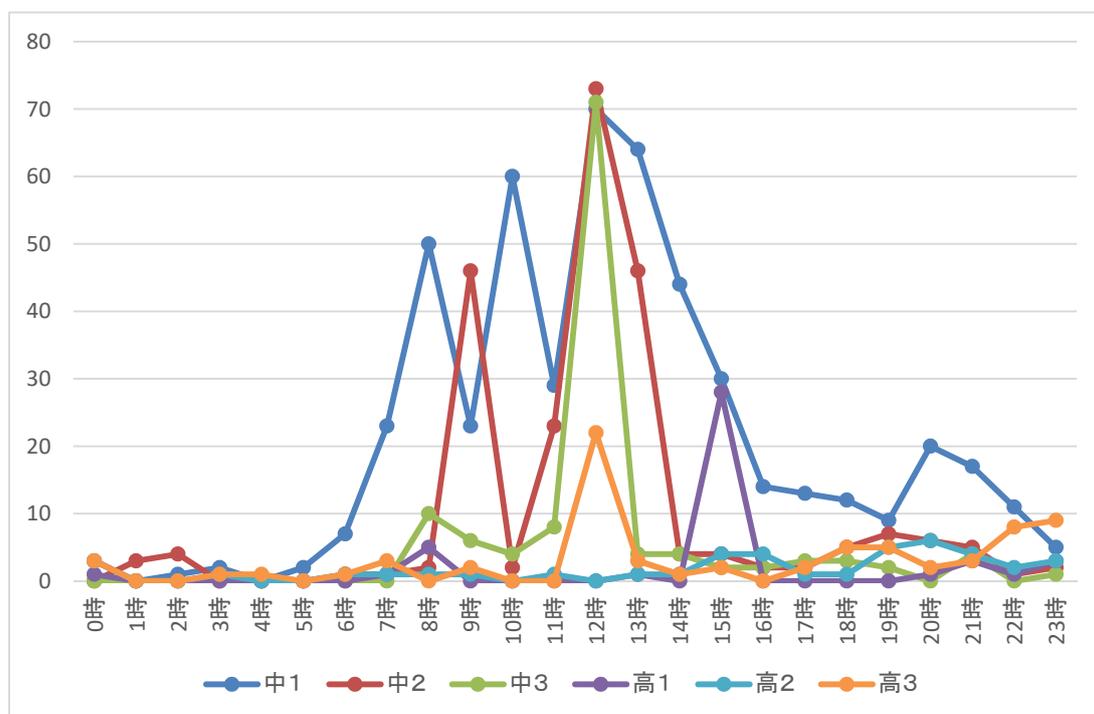


図 2-7 工学院附属中学・高等学校時間別ログイン回数

図 2-7 のグラフは、工学院大学附属中学校・高等学校における学年に分けた時間別ログインを表したものである。

同校では個人所有のタブレット端末も使えることもあって、ログイン時間の幅が広い。お昼の時間帯にログイン回数が一番多い結果となったものの、6~8 時台と夕方の時間にログイン回数が多いことは、登下校時のスクールバスの中で読んでいることが考えられる。夜、帰宅してからもログインされていることがある。夜中までログインがあったので、熱中して読んでいる生徒がいることがうかがえる。

なお、「朝の読書」は実施しておらず、朝の時間帯の利用は、自主的に電子書籍を利用した結果である。また、中学 1 年生における 10 時台の利用は授業利用した結果である。

2.4.2 玉川聖学院における時間別ログイン

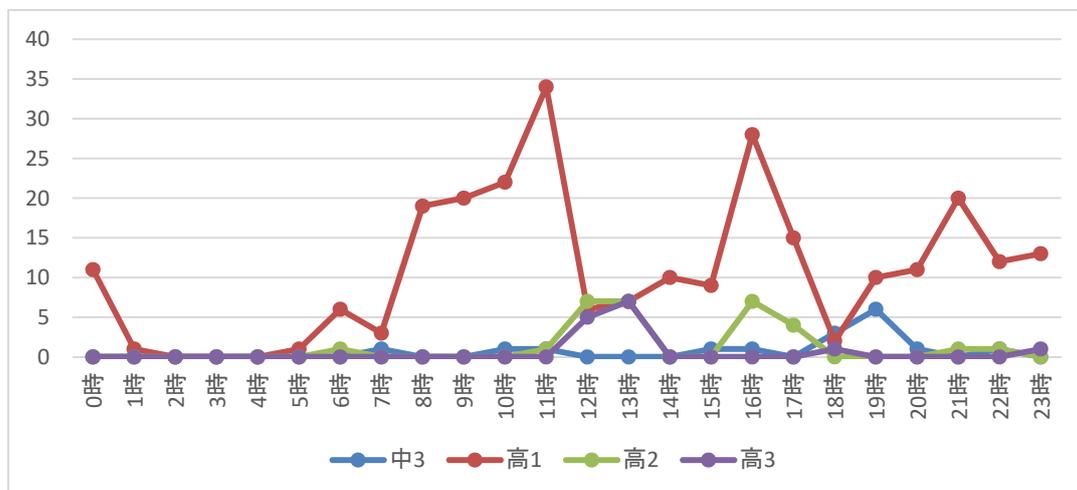


図 2-8 玉川聖学院の時間別ログイン回数

図 2-8 のグラフは玉川聖学院における学年・時間別のログイン回数を表したものである。高校生は夜中にも読んでいることがわかる。タブレットで読める学校とそうではない学校では顕著にログイン時間に差が出る。夜中までに読んでいる子は、もともと紙の書籍で読書していたのが、電子書籍にとってかわったのではないかという見方もできる。

2.4.3 品川女子学院における時間別ログイン

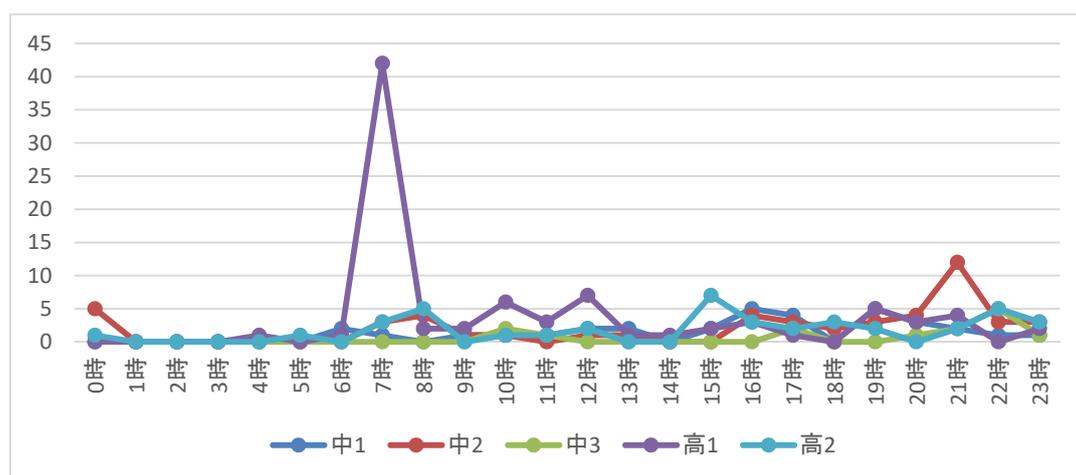


図 2-9 品川女学院時間別ログイン回数

図 2-9 のグラフは品川女子学院の学年・時間別ログイン回数を表したものである。

朝7時の通学時間帯のログイン回数が圧倒的で、1日を通してログインがあり、個人がタブレットを持っている影響が出ている。しかし、他校にくらべ、時間ごとのログインが少なく、朝の時間帯以外は特に変化がない。

2.4.4 かえつ中学高等学校における時間別ログイン

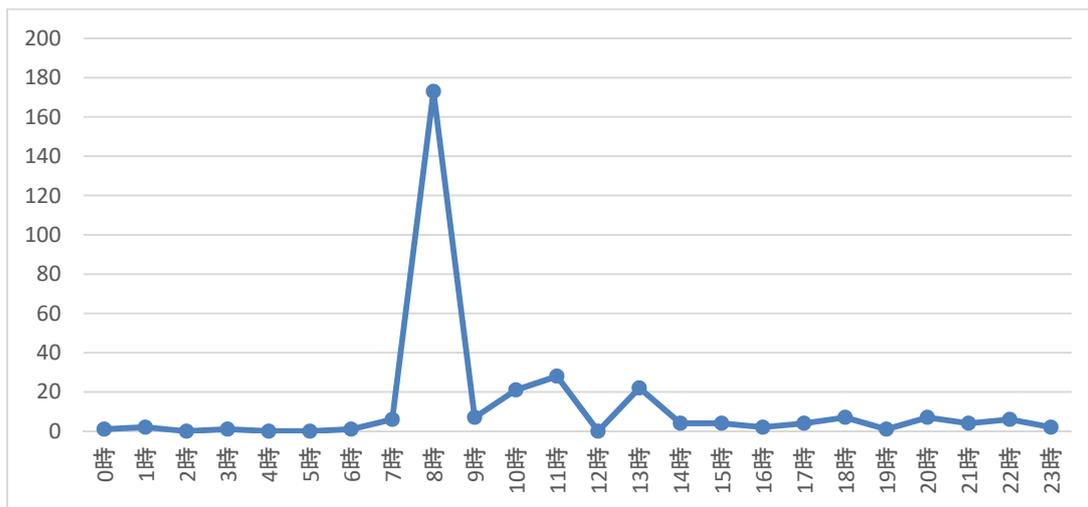


図 2-10 かえつ有明中学校・高等学校の時間別ログイン回数

図 2-10 のグラフはかえつの高校 2 年生の時間別のログインを表したものである。圧倒的に朝の時間帯のログインが多い。品川女子学院のグラフと近いものがある。

2.4.5 神奈川学園中学校・高等学校における時間別ログイン

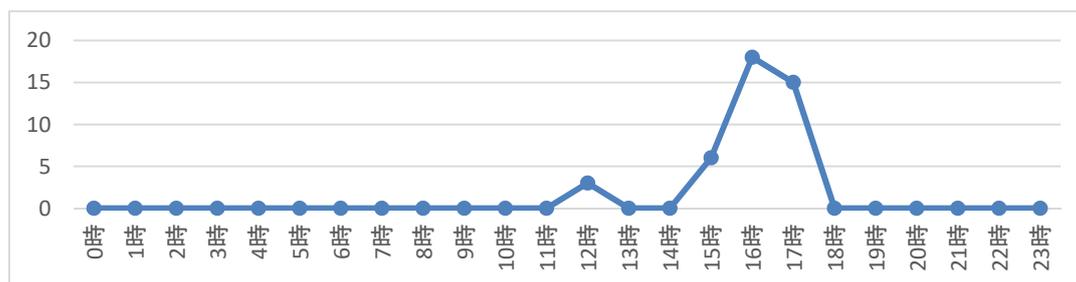


図 2-11 神奈川学園中学校・高等学校の時間別ログイン回数

図 2-11 のグラフは神奈川学園中学校・高等学校の時間別ログインを表したものである。他校と比べ、放課後の利用が多く、ログインは少ない回数である。これは、図書館のみで読めることが関係している結果と推測される。部活がある子は、放課後図書館でゆっくり読むことはできないこともあるだろう。

2.4.6 渋谷区立神宮前小学校における時間別ログイン

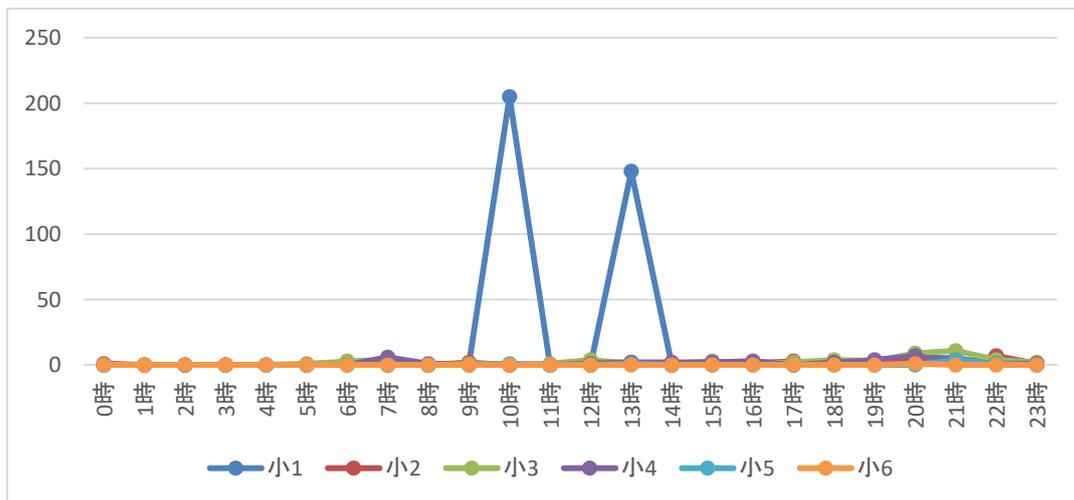


図 2-12 渋谷区立神宮前小学校の時間別ログイン回数

図 2-12 のグラフは、神宮前小学校における学年・時間別ログイン回数を表したものである。小学 1 年生の利用が高く、授業中の利用か、授業間の休み時間や昼休みに利用したという結果となった。

2.4.7 古河市立上大野小学校における時間別ログイン

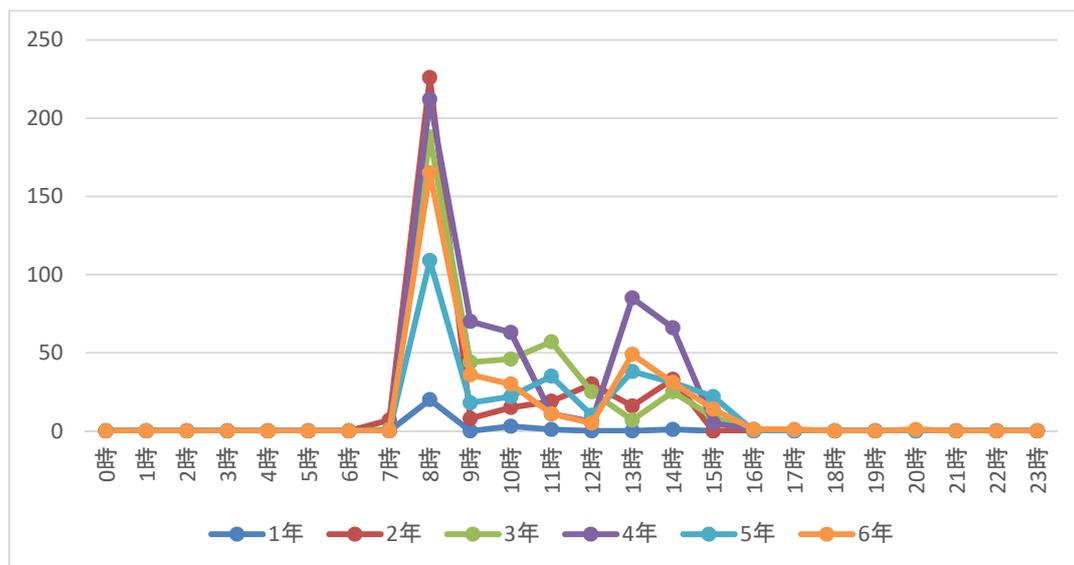


図 2-13 古河市立上大野小学校の時間別ログイン回数

図 2-13 は上大野小の学年・時間別ログイン回数を表したものである。朝 8 時にログイン回数が集中しているのは「朝の読書」が要因として考えられる。次に昼休み（13 時台）が多く、朝読で読み終わらなかったものを読んでいることも考えられる。

2.4.8 古河市立古河第五小学校における時間別ログイン

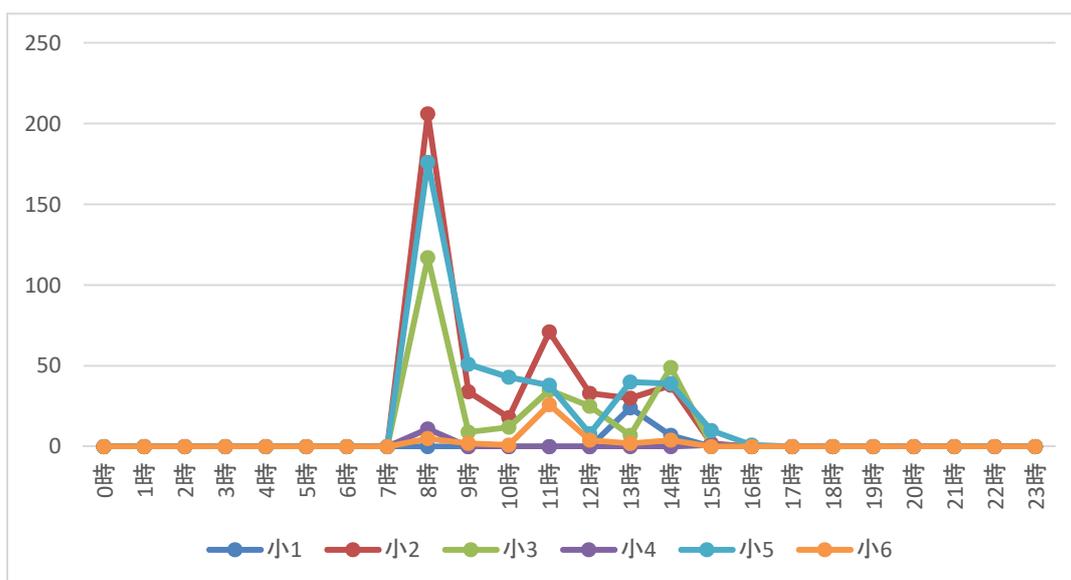


図 2-14 古河市立古河第五小学校の時間別ログイン回数

図 2-14 のグラフは古河第五小学校の学年・時間別ログイン回数を表したものである。朝の時間帯に特に利用が集中しており、こちらもやはり「朝の読書」の影響が強く出ていると考える。

2.5 コンテンツ閲覧状況

2.5.1 トップページでの紹介と閲覧回数の相関

表 2-9 におけるカラーは、表 2-10 に示すトップページでリコメンドした 5 分野を表している。ほとんど、トップページにあったタイトルがランクインする結果となった。

2位の『おしりたんてい』はトップページには表示がないが、各出版社のページに遷移すると検索結果として表示がされた。もともと子供に人気がある本で、人気の根強さがここに影響したとみられる。

続いて KADOKAWA 『知ってはいけない都市伝説』がランクインしているが、これは「おしりたんてい」とは異なり、各出版社のページに遷移しても検索結果に表示はされなかった。このようなジャンルは、もともと児童生徒に人気があることが推測された。

表 2-9 閲覧回数の多い作品トップ 20

作品タイトル	出版社	閲覧回数
世界からボクが消えたなら ～映画「世界から猫が消えたなら」キャベツの物語～	小学館	707
おしりたんてい	ポプラ社	568
謎解きはディナーのあとで	小学館	301
おりの中の46ぴきの犬	KADOKAWA	249
天国に行った看板ねこ なな	KADOKAWA	210
100 回泣くこと	小学館	193
グレッグのダメ日記 やっぱり、むいてないよ！	ポプラ社	177
名探偵コナン理科ファイル ものと燃焼の秘密	小学館	176
多摩川にすてられたミーコ	KADOKAWA	146
異世界修学旅行	小学館	141
知ってはいけない都市伝説	KADOKAWA	140
プレイボール ぼくらの野球チームをつくれ！	KADOKAWA	138
偏差値70の野球部 レベル1 難関合格編	小学館	123
学習まんが はじめての日本の歴史1 日本の始まり	小学館	117
小学館ジュニア文庫 天国の犬ものがたり～夢のバトン～	小学館	112
恋する新選組(1)	KADOKAWA	111
名探偵コナン推理ファイル 地球の謎	小学館	106
ロックとマック 東日本大震災で迷子になった犬	KADOKAWA	103
源氏物語 時の姫君 いつか、めぐりあうまで	KADOKAWA	102
アラビアン・ナイト1 シンドバッドの冒険	偕成社	98

表 2-10 トップページにおけるリコメンドした5分野

特集名	ランク入り作品数
アニメ化・映画化された原作小説	3 作品
ロマンの世界～冒険の旅へ～	2 作品
恋がしたくなる?! 恋愛特集	2 作品
青春スポーツ!	2 作品
自然と涙がこぼれる本当にあった犬と猫の物語	5 作品

2.5.2 各出版社のコンテンツとページの相関

- ・各出版社のコンテンツランキングを作成し、さらにそのランキングデータとトップページ横にある出版社ごとの検索ページの相関を調査した。
- ・各出版社のコンテンツランキングは閲覧回数トップ 10 作品を、出版社ごとの検索ページに表示された 20 件と比較した。
- ・黄色のマーカ―は各出版社のタイトル 20 件表示に出たコンテンツを指している。
- ・各色マーカ―部分はページトップの特集の掲載作品である。

表 2-11 トップページにおける特集

特集名	ランク入り作品数
アニメ化・映画化された原作小説	3 作品
ロマンの世界～冒険の旅へ～	2 作品
恋がしたくなる?! 恋愛特集	2 作品
青春スポーツ!	2 作品
自然と涙がこぼれる本当にあった犬と猫の物語	5 作品
新書・実用書系	ランクインなし
不朽の名作集	ランクインなし
科学教室	ランクインなし

続いて、各出版社ごとにランキングを見ていくことにする。なお、黄色マーカ―部分は出版社ごとの検索ページで紹介表示ある作品であり、各色のマーカ―部分は、ページトップの特集の掲載作品である。その際、特集と色分けについては、表 2-11 と同様である。

2.5.2.1 岩崎書店

1位のタイトルが新刊であったため閲覧が集中したのではないかと推測される。シリーズものは関連して読まれることが多い傾向がある。表2-12は全35件中トップ10作品のランキングである。

表2-12 岩崎書店

コンテンツタイトル	出版者名	閲覧回数
マジカル少女レイナ2 (10) 女王のティアラ	岩崎書店	61
ふしぎなかぎばあさん	岩崎書店	41
かぎばあさんのサンタクロース	岩崎書店	29
マジカル少女レイナ (7) 秘密のアイドル	岩崎書店	15
マジカル少女レイナ (1) 謎のオーディション	岩崎書店	10
マジカル少女レイナ (5) 悪夢のドールショップ	岩崎書店	9
マジカル少女レイナ (3) 魔女のクッキング	岩崎書店	7
マジカル少女レイナ2 (5) 魔法のスイミング	岩崎書店	7
マジカル少女レイナ2 (6) 恐怖のドッグトレーナー	岩崎書店	7
かぎばあさんのことわざ教室	岩崎書店	6

2.5.2.2 偕成社

他の出版社と比べ、出版社ページの検索表示に、一番左右されていないランキングとなった。とはいえ、トップやページ上部に表示があるものが5タイトルあることから、タイトルの表示場所は、ランクインに有効であることが分かった。

表2-13に全88件中トップ10作品のランキングを示す。

表2-13 偕成社

コンテンツタイトル	出版者名	閲覧回数
アラビアン・ナイト1 シンドバッドの冒険	偕成社	98
精霊の守り人	偕成社	71
斉藤洋のほらふき男爵1 ほらふき男爵の冒険	偕成社	39
シャーロック＝ホームズ全集3 バスカビル家の犬	偕成社	33
闇の守り人	偕成社	33
神の守り人 上 来訪編	偕成社	19
シャーロック＝ホームズ全集4 恐怖の谷	偕成社	17
ミルキー杉山のあなたも名探偵6 なんだかんだ名探偵	偕成社	17
ミルキー杉山のあなたも名探偵13 事件だよ！全員集合	偕成社	14
夢の守り人	偕成社	13

2.5.2.3 学研プラス

ひみつシリーズが人気であった。表は2-14全100件中トップ10作品（昇順）のランキングである。

表 2-14 学研プラス

コンテンツタイトル	出版者名	閲覧回数
食物アレルギーのひみつ	学研プラス	94
未来の車のひみつ	学研プラス	88
氷のひみつ	学研プラス	63
武田信玄 ビッグ版	学研プラス	50
時計のひみつ	学研プラス	41
3Dプリンターのひみつ	学研プラス	38
家電量販店のひみつ	学研プラス	38
がんのひみつ	学研プラス	35
冷凍食品のひみつ	学研プラス	35
お化粧のひみつ	学研プラス	33

2.5.2.4 KADOKAWA

都市伝説や怪談などのジャンルはトップにも出版社ページにも表示がないが、ランクインしていることから、人気うかがえる。表2-15は全121件中トップ10作品のランキングである。

表 2-15 KADOKAWA

コンテンツタイトル	出版者名	閲覧回数
おりの中の46ぴきの犬	KADOKAWA	249
天国に行った看板ねこ なな	KADOKAWA	210
多摩川にすてられたミーコ	KADOKAWA	146
知ってはいけない都市伝説	KADOKAWA	140
プレイボール ぼくらの野球チームをつくれ!	KADOKAWA	138
恋する新選組(1)	KADOKAWA	111
ロックとマック 東日本大震災で迷子になった犬	KADOKAWA	103
源氏物語 時の姫君 いつか、めぐりあうまで	KADOKAWA	102
南総里見八犬伝	KADOKAWA	81
恐怖コレクター 巻ノ一 顔のない子供	KADOKAWA	60

2.5.2.5 講談社

青い鳥文庫などの小説よりも新書や歴史書などの教養書のランクインが目立った。表 2-16 は、全 198 件中トップ 10 作品のランキングである。

表 2-16 講談社

コンテンツタイトル	出版者名	閲覧回数
相手に「伝わる」話し方	講談社	61
クレヨン王国の十二か月	講談社	51
ゼロからわかる アインシュタインの発見	講談社	46
進め！ サムライブルー 世の中への扉 サッカー日本代表感動の20年ヒストリー	講談社	46
算数・数学が得意になる本	講談社	35
パズル・生物入門 楽しみながら学ぶために	講談社	33
青い鳥文庫 赤毛のアン（1）	講談社	31
へんな虫はすごい虫 もう“虫けら”とは呼ばせない！	講談社	29
戦争の日本近現代史 東大式レッスン！ 征韓論から太平洋戦争まで	講談社	26
はじめての言語学	講談社	23

2.5.2.6 小学館

トップページに表示されていたタイトルが多くランクインしている。表 2-17 は、全 219 件中トップ 10 作品のランキングである。

表 2-17 小学館

コンテンツタイトル	出版者名	閲覧回数
世界からボクが消えたなら ～映画「世界から猫が消えたなら」キャベツの物語～	小学館	707
謎解きはディナーのあとで	小学館	301
100 回泣くこと	小学館	193
名探偵コナン理科ファイル ものと燃焼の秘密	小学館	176
異世界修学旅行	小学館	141
偏差値70の野球部 レベル1 難関合格編	小学館	123
学習まんが はじめての日本の歴史1 日本のはじまり 旧石器・弥生・縄文時代	小学館	117
小学館ジュニア文庫 天国の犬ものがたり～夢のバトン～	小学館	112
名探偵コナン推理ファイル 地球の謎	小学館	106
名探偵コナン理科ファイル 動物の秘密	小学館	96

2.5.2.7 ポット出版

もともと提供しているタイトル数が少ないためこのような結果となった。表 218 は全 35 件中トップ 5 作品（昇順）のランキングである。

表 2-18 ポット出版

コンテンツタイトル	出版者名	閲覧回数
おにぎりレシピ 101	ポット出版	25
王さまと王さま	ポット出版	15
ジャンク ジャングル キッズ	ポット出版	7
日本の漢字のプリンシプル	ポット出版	4
パパの理科実験ショー	ポット出版	2

2.5.2.8 ポプラ社

江戸川乱歩シリーズを抑えてグレッグのダメ日記シリーズが圧倒的にログインを占めている。表 2-19 は全 21 件中トップ 20 のランキングである。

表 2-19 ポプラ社

コンテンツタイトル	出版者名	閲覧回数
おしりたんてい	ポプラ社	568
グレッグのダメ日記 やっぱり、むいてないよ！	ポプラ社	177
グレッグのダメ日記 とんでもないよ	ポプラ社	77
グレッグのダメ日記	ポプラ社	60
グレッグのダメ日記 どんどん、ひどくなるよ	ポプラ社	47
グレッグのダメ日記 わけがわからないよ！	ポプラ社	46
グレッグのダメ日記 どうかしてるよ！	ポプラ社	39
グレッグのダメ日記 あ～あ、どうしてこうなるの！？	ポプラ社	37
グレッグのダメ日記 もう、がまんできない！	ポプラ社	36
グレッグのダメ日記 なんとか、やっていくよ	ポプラ社	28

おすすめや特集を組むと閲覧回数ランキングに大きく影響することが分かった。

2.6 教職員に対するアンケート結果の分析

実証実験協力校の教職員 63 名に対して、電子書籍とその利活用に関するアンケート調査を実施した。

2.6.1 電子書籍の利用について

2.6.1.1 電子書籍の活用状況

学校で利用している ICT 機器について質問したところ、パソコンを利用していると回答した教職員が 56 人 (88.9%)、スマートフォンが 48 人 (77.8%)、タブレット端末が 35 人 (55.6%) という回答が得られた。一方で、電子書籍専用機器 (kindle や kobo など) を利用している教職員は 2 人 (3.2%) のみであり、電子書籍の利用だけを目的とした専用機は学校においてはほとんど普及していないことが現状である。

今回の実証実験協力以前に電子書籍を読んだことがあるかを質問したところ、「読んだことがある」教職員は 33 人 (52.4%)、「読んだことがない」は 29 人 (46.0%)、「未回答」1 名 (1.6%) であり、教職員の電子書籍の利用経験の有無に大きな開きはなかった。

2.6.1.2 クラウド型の感想

実証実験において電子図書館を利用した学校の教職員に使用した感想を質問したところ 31 人より回答を得られた。

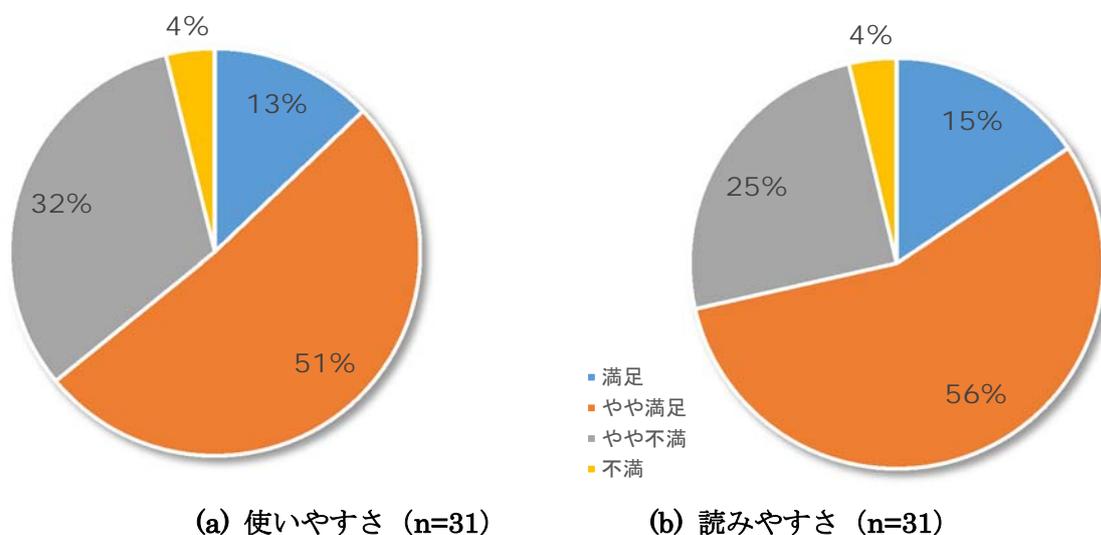


図 2-15 クラウド型の感想

使いやすかった点としては、「借りやすい」、「(貸出の) 延長が容易」といった点が挙げられた。さらに「iPad、PCで読める」といった回答も多く、普段使い慣れている機器で利用できる点も電子図書館の利点として挙げられた。その一方で、使いにくかった点として、「本を探しにくい」、「パスワード入力をしなければいけない」といった点が挙げられた。

本が探しにくい理由としては、実証実験用に用意した電子書籍コンテンツに検索に適した書誌情報が不足していたことやジャンル分けが不十分であったことが考えられる。パスワードに関しては、前述した iPad や PC といった自前の機器を使う以上、セキュリティとしては不可欠な機能であるが、より多くの利用を見込むには手続きの部分を省略することも視野に入れる必要があるといえる。

2.6.1.3 スタンドアロン型の感想

実証実験において電子書籍専用端末を利用した学校の教職員に使用した感想を質問したところ 33 人より有効回答を得られた。

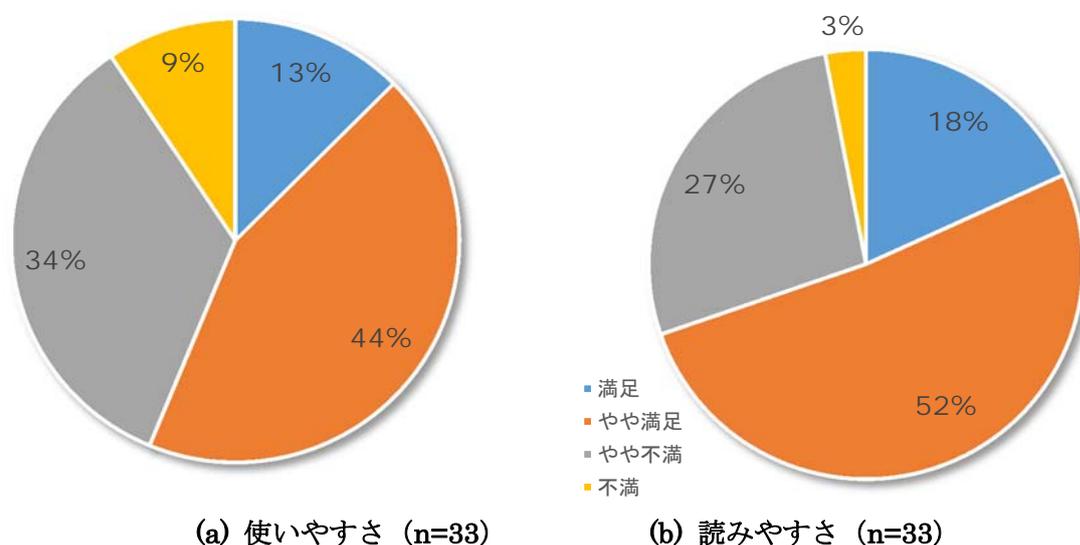


図 2-16 スタンドアロン型の感想

電子書籍専用機の使いやすい点として、「操作が簡単である」、「持ち運びが容易である」、「大きさ、軽さがちょうどいい」といった、機能を集約した専用機ならではのコンパクトさと簡易性が利点として挙げられた。しかしながら、使いにくい点としては、「機器の反応が遅い」、「文字が見にくい」といった回答が得られ、機能が少なく、簡素な専用機

の欠点が指摘されていた。また電子ペーパー特有の「リフレッシュ機能で集中が途切れる」という回答もあり、普段使い慣れていない電子書籍専用機への不満を感じていることも明らかとなった。

2.6.2 電子書籍の学校図書館への導入や活用について

2.6.2.1 学校図書館への電子書籍の導入について

学校図書館への電子書籍の導入について質問したところ、「導入してほしい」と回答したのは45人(71.4%)、「導入してほしくない」は13人(20.6%)、「無回答」は5人(7.9%)という結果が得られた。

導入してほしい理由としては、「児童・生徒の読書のきっかけになる」や「興味を持ってもらえる」、「(本の)活用の場が広がる」といった新たな読書の可能性になると考える記述が見られた。また、「探す手間が省ける」や「調べ学習での利用」といった検索性の高さや、「場所を取らない」、「学校図書館では所蔵できる冊数に限度がある」などの省スペース性、「並行読書」や「場所を選ばない」などのマルチアクセス機能といった電子書籍ならではの利便性に注目した回答も多く挙げられた。

導入してほしくない理由は、「(紙の)本を読まなくなるから」や「紙に親しんでほしい」、「子供たちは紙に慣れているので能率が悪い」といった紙の本を重視する意見が多く、電子書籍の利用に対して消極的な教職員がいることが現状である。その他には「管理が不安」や「電子書籍の及ぼす脳や学習への影響が不安」、「環境が整備されていない」などの紙の本には存在しなかった電子書籍導入による負担を疑問視する意見が挙げられた。

2.6.2.2 電子書籍の活用方法

学校図書館に電子書籍が導入されたらどう活用したいかを質問した(複数回答)。

表 2-20 電子書籍の活用方法

活用方法	回答数
①授業・学習活動	30人(47.6%)
②読書活動	45人(71.4%)
③その他	5人(7.9%)

電子書籍を「②読書活動」に利用したいと考える教職員が多く、その具体的な活用例としては、「朝の読書」や「休み時間や自宅で自由に読ませる」などが主に挙げられ、「①授業・学習活動」においては、「調べ学習」、「授業内資料」として利用したいという意見が多かった。「③その他」利用方法はあまり挙げられなかったものの意見としては、「部活動」や「ホームルーム」、「読み聞かせ」での利用を期待する意見が挙げられた。

2.6.2.3 電子書籍に求められるもの

学校で利用する電子書籍にどのような機能があると便利と思うか質問した（複数回答）。

表 2-21 電子書籍に求められる機能

電子書籍の機能	回答数
①メモ等が書き込みできる機能	27人 (42.9%)
②映像が再生できる機能 (マルチメディア機能)	29人 (46.0%)
③紙に出力できる機能	23人 (36.5%)
④文字拡大の機能	31人 (49.2%)
⑤音声読み上げの機能	19人 (30.2%)
⑥文字の背景色の反転機能	8人 (12.7%)
⑦その他	6人 (9.5%)

「①メモ等が書き込みできる機能」、「④文字拡大の機能」といった利用する児童・生徒に合わせて電子書籍をカスタマイズする機能を求めていることが分かった。また電子書籍のアクセシビリティ面では「④文字拡大の機能」が必要な機能として多く挙げられたが、「⑤音声読み上げの機能」と「⑥文字の背景色の反転機能」については他の機能と比べて必要性が薄いと考えられている。「⑦その他」の例としては「検索」や「本文引用機能」、「付箋」などが挙げられた。

学校で電子書籍を活用する際に、どのようなジャンル作品があると便利だと思うかを質問した（複数回答）。

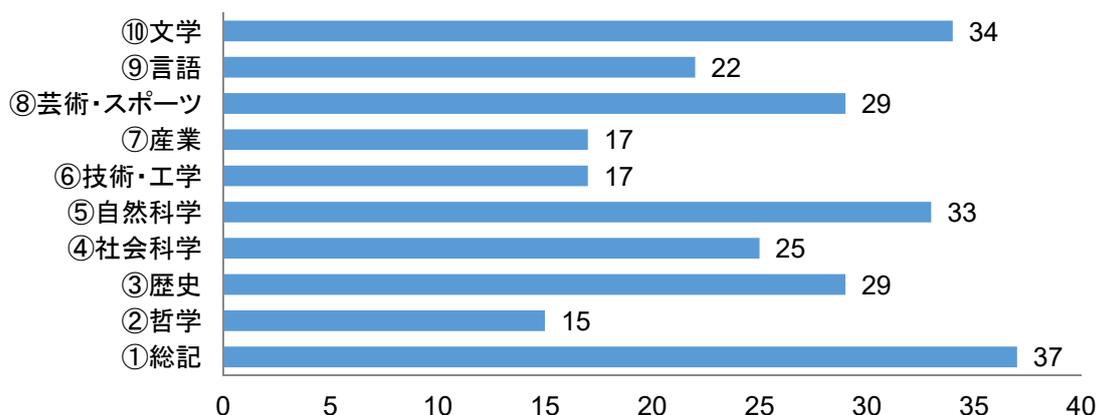


図 2-17 電子書籍に求められるジャンル

授業において資料として利用できる「①総記」や「③歴史」、「⑤自然科学」を利用したいとする意見が多く、児童・生徒の自由読書での活用が見込める「⑧芸術・スポーツ」、「⑩文学」も利用したいジャンルとして考えられていることが分かった。蔵書数の問題から、従来までの紙の資料は学級全体で共有することが難しかったが、省スペース、マルチアクセスを得意とする電子書籍の特性を生かす事で、より活発な読書活動が期待できると考えていると言える。またその他の例として具体的な作品について質問したところ、「巻数の多いシリーズもの」や「調べ学習に使えるもの」といった回答を得られた。

2.6.2.4 電子書籍の利用にあたっての不安

学校で電子書籍を利用するにあたってどのようなことが不安であるかを質問した（複数回答）。

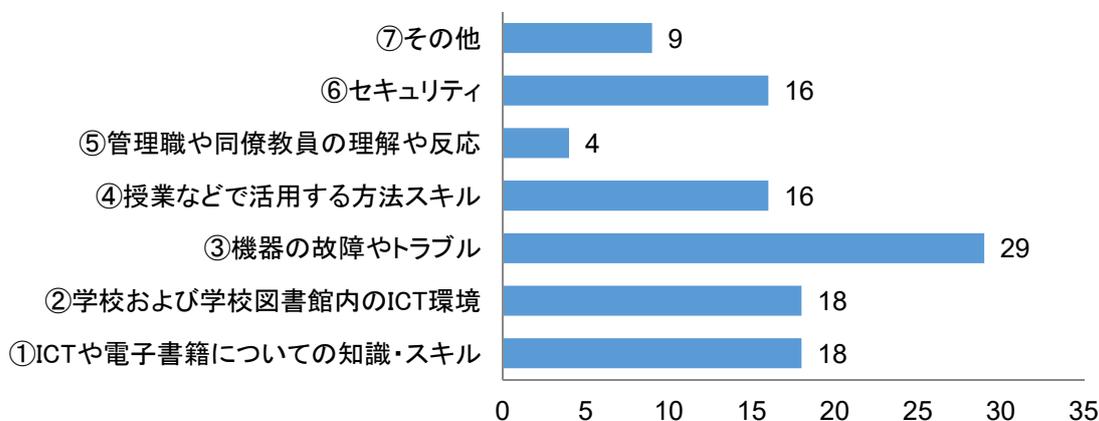


図 2-18 電子書籍の利用にあたっての不安

「③機器の故障やトラブル」がもっとも不安な要素であり、高価かつ複雑な電子機器を利用することを懸念していることが分かった。また「①ICTや電子書籍についての知識・スキル」や「②学校および学校図書館内のICT環境」、「④授業などで活用する方法スキル」などに対する不安も多く、学校においてICT機器を利用することには高いハードルが存在しているといえる。その一方で、「⑤管理職や同僚教員の理解や反応」については不安が少なく、学校教育の現場において、電子書籍をはじめとしたICT教育の必要性が認知されていることも明らかとなった。

2.6.2.5 今後の電子書籍利用にあたって研修に求めるもの

今回の実証実験の体験を踏まえた上で、今後の学校における電子書籍利用に際した研修にどのような内容を求めるかを自由記述形式で質問した。記述の内容を分類すると以下のような傾向がみられた。

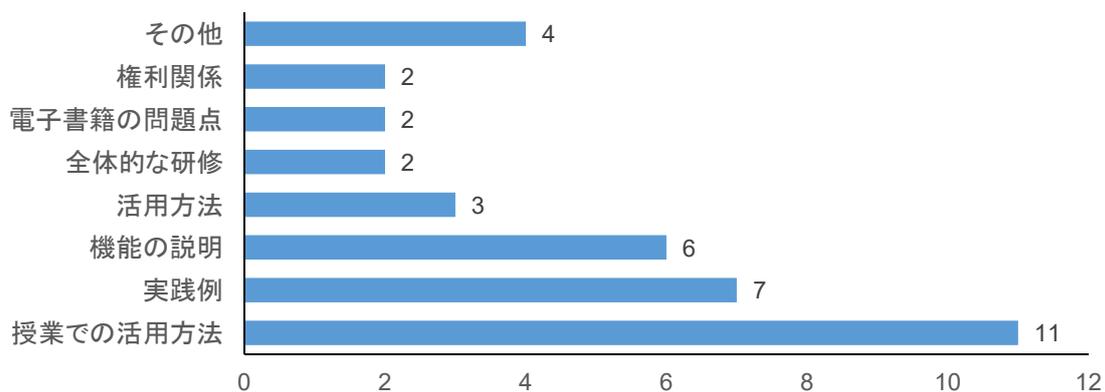


図 2-19 電子書籍利用研修に求めるもの

もっとも多い回答は「授業での活用方法」を知りたいというもので、次いで「実践例」が挙げられた。現在、小・中・高等学校を問わず、実際に電子書籍を学校図書館に導入している学校は少ない。それらの実践例と今回の実証実験の結果も踏まえて今後の電子書籍の活用方法の具体例として提示していく必要がある。また、「電子書籍の問題点」や「権利関係」を知りたいという意見も少数ではあるが出されており、これらの点は今後の学校において電子書籍という新たなメディアの利用を増やしていく上では避けては通れない。

2.6.3 実証実験に対する教職員の考え

今回の実証実験に協力した学校の教職員の71.4%が学校図書館に電子書籍を導入したいと考えていることが明らかになった。また、利用した電子書籍専用機と電子図書館システムはどちらも「使いやすさ」において6割、「読みやすさ」の点では7割の教職員が「満足」または「やや満足」しているという結果が得られている。しかしながら、学校教育の現場で電子書籍を利用していくには決して高い満足度であるとは言えず、今後の改善が必要とされる。

一方で、電子書籍に対する学校の教職員間での理解は進んでおり、授業や自由読書での利用を期待する教職員も多い結果となった。

2.7 児童生徒に対するアンケート結果の分析

2.7.1 「学校読書調査」との比較

児童生徒の1か月間の読書量について、アンケートを実施した結果を、2.7.2.1に示す。これを公益社団法人全国学校図書館協議会（以下、全国SLA）と毎日新聞で毎年実施している「学校読書調査」の2016年『学校図書館』11月号のデータを活用し、全国的な調査データと比較することで、本調査の傾向を把握することとした。

2.7.1.1 1か月間の読書量（書籍）

「学校読書調査」では、ランダムに抽出した小学校4～6年生を対象に、5月の1か月間に読んだ本について調査したデータである。一方、本調査での「小学校高学年」も同様に、小学校4～6年生を対象とし（n=1825）、アンケート調査実施時に特に何月かを指定しないで、1か月に読む冊数を質問した結果である。

調査期間や小学校高学年の括り方、n値は本事業と全国SLAの調査で大きく異なるが、全体的な傾向としては、校種が進むにつれ読書冊数が少なくなってくるということは、共通していることである。信頼性のある調査と同傾向となったことは、本調査結果に対する信頼性の裏付けとも言えよう。

文部科学省の悉皆調査（平成28年10月13日）のデータを見ると、全校一斉読書時間の実施状況は、小学校97.1%、中学校88.5%、高校42.7%となっている。「読書時間の確保」が、読書冊数にも影響していることが推察できる。また、小学校での少年団活動、中学・高校での部活動、塾や習い事など、放課後の生活時間の使い方も、児童生徒の向読書行動に少なからず影響していることも考えられる。一方で、校種が進むにつれて、手に取る本の束が厚くなるつまり頁数が多くなることも、読了冊数の違いの一因である。

2.7.1.2 1か月間の読書量（雑誌・マンガ誌・コミックス）

1か月間の雑誌やマンガ誌の読書量について調査したデータは、2.7.2.2～2.7.2.3に示したとおりである。0冊と回答している児童生徒がいずれの校種でも50%前後、コミックス

においても小学生が辛うじて、25%となっているが、中高生は54～55%が0冊と回答している。

前述の「読書調査」では、「雑誌・マンガ誌」と「コミックス」に分けた調査ではないが、2016年5月の1か月間に雑誌を何冊読んだかという調査データによると、表2-22に示す結果となっている。

表 2-22 1 か月間に読んだ雑誌数

	2006年	2016年
小学生	5.0冊	3.7冊
中学生	3.5冊	1.7冊
高校生	2.9冊	1.3冊

10年間での雑誌を読む数の減少は、深刻な状況になってきている。情報を得るのも暇つぶしでゲームをするのも、スマートフォンやタブレット端末で対応でき、月にいくらか払えば、雑誌が読み放題とうようなアプリがあるという状況下で、わざわざ雑誌を手にする必要もなくなっているとも考えられる。一方で、2016年『学校図書館』11月号には、「児童生徒が雑誌を必要としていないわけではない。現実に雑誌を何タイトルも購入している学校図書館がある。購入費を増やすべく努力している学校もある。雑誌は、変化する時代を反映し、変化する情報を得るために必要な存在として、学校図書館にあってほしいものである」と記されている。

2.7.1.3 1日当たりの読書時間（分）

前述の読書量の所でも触れたが、全校一斉読書などの取り組みがあることで、辛うじて義務教育課程では、読書時間を確保している。現行の学習指導要領で、言語活動の充実が求められ、国語科をはじめ教科書に多くの本が紹介されているということから、授業で並行読書や読書会、書評合戦、ブックトークなど様々な読書活動を取り入れ、それに伴い本を読む、本を活用した学習の時間を確保する必然があることも、特に小学校においての数値に現れてきている。

2.7.1.4 学校図書館利用頻度

ほとんど行かないと回答した児童生徒数も、校種が進むに連れ多くなっている。高等学校では70%。月に1~2回の14%を合わせると84%となる。

2013年11月の『学校図書館』に記載されている「学校図書館調査」では、「学校図書館の活用が年間指導計画に位置づけられているか」という問いに対して、表2-23に示す回答があった。

朝や昼休み、放課後など自由に学校図書館を利用するというのではなく、学校図書館の活用が教育課程の中に計画的に位置づけられ、授業の中で活用されているかを調査したものであるため、本アンケート調査の聞き方と異なるため、あくまでも参考データである。

表 2-23 学校図書館の活用の位置づけ

	いる	いない	無回答
小学校	80.0%	18.5%	1.5%
中学校	56.7%	42.1%	1.2%
高等学校	38.1%	59.7%	2.2%

小中学校では、現行の学習指導要領総則第4指導計画の作成にあたって配慮すべき事項において、高等学校では、同総則5(11)に、「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の(中学は生徒：カッコ内著者)主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること」と明記されている。高等学校の現状として、大学や専門学校等の受験対応で、授業の進め方なども影響しているようである。2017年の現在、どの程度まで年間計画が作成され、学校図書館活用が位置づけられているかについては、調査データがないため把握できていない。

2.7.2 1か月の読書量

本調査における1か月の読書長について、結果をまとめる。

2.7.2.1 1か月の読書量（書籍）

書籍の読書量は、校種が進むほど減っている。

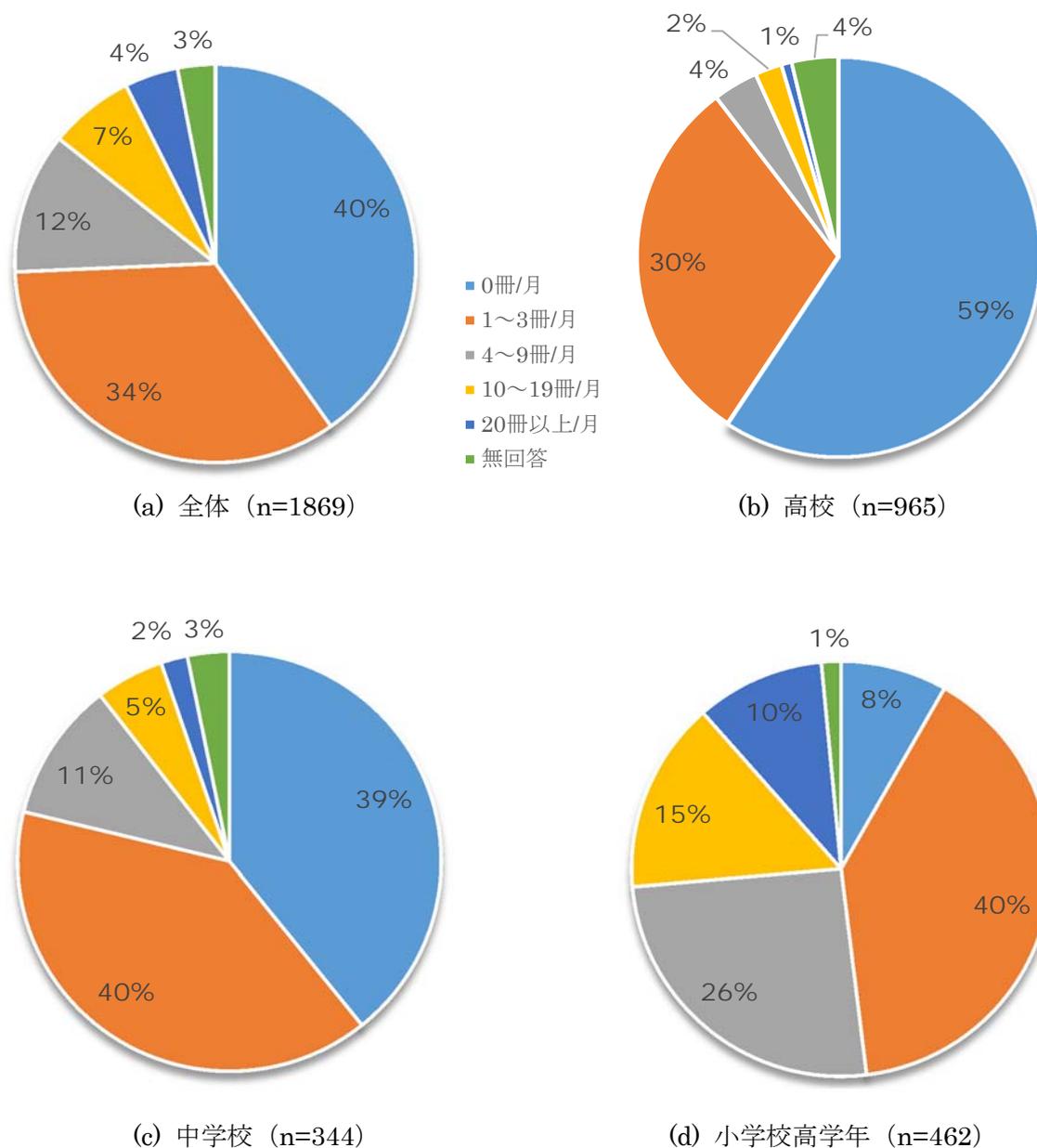


図 2-20 1か月の読書量（書籍）

2.7.2.2 1か月間の読書量（雑誌・マンガ誌）

雑誌やマンガの読書量は、月に1冊も読まない児童生徒が小学校高学年と高校で半数を超え、中学でもほぼ半数となっている。

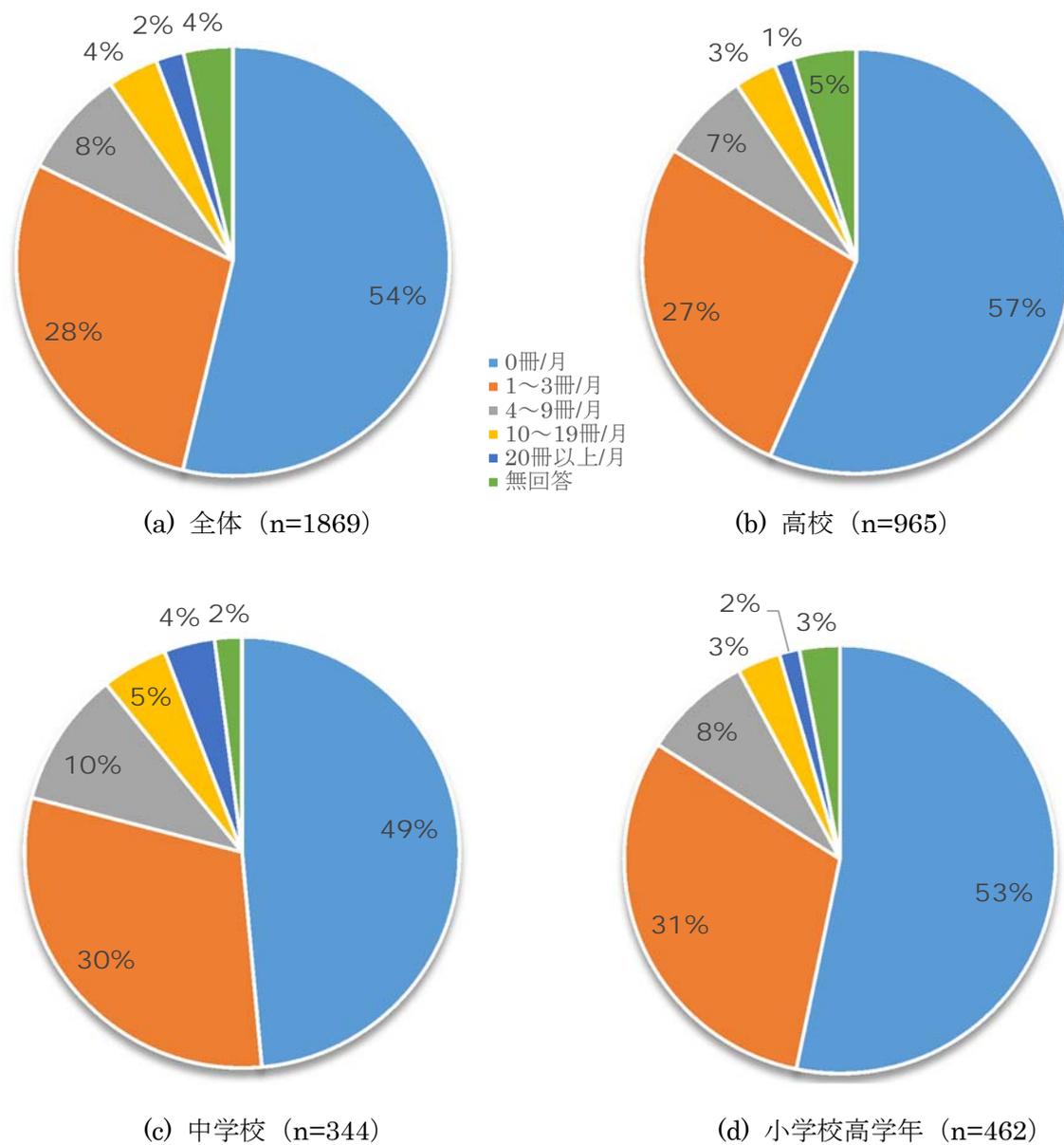


図 2-32 1か月間の読書量（雑誌・マンガ誌）

2.7.2.3 1か月間の読書量（コミックス）

コミックス（マンガ単行本）の読書量は、中学生と高校生ではほぼ同じ率である。小学校高学年では、コミックスを読まない率は、中学高校のほぼ半分である。

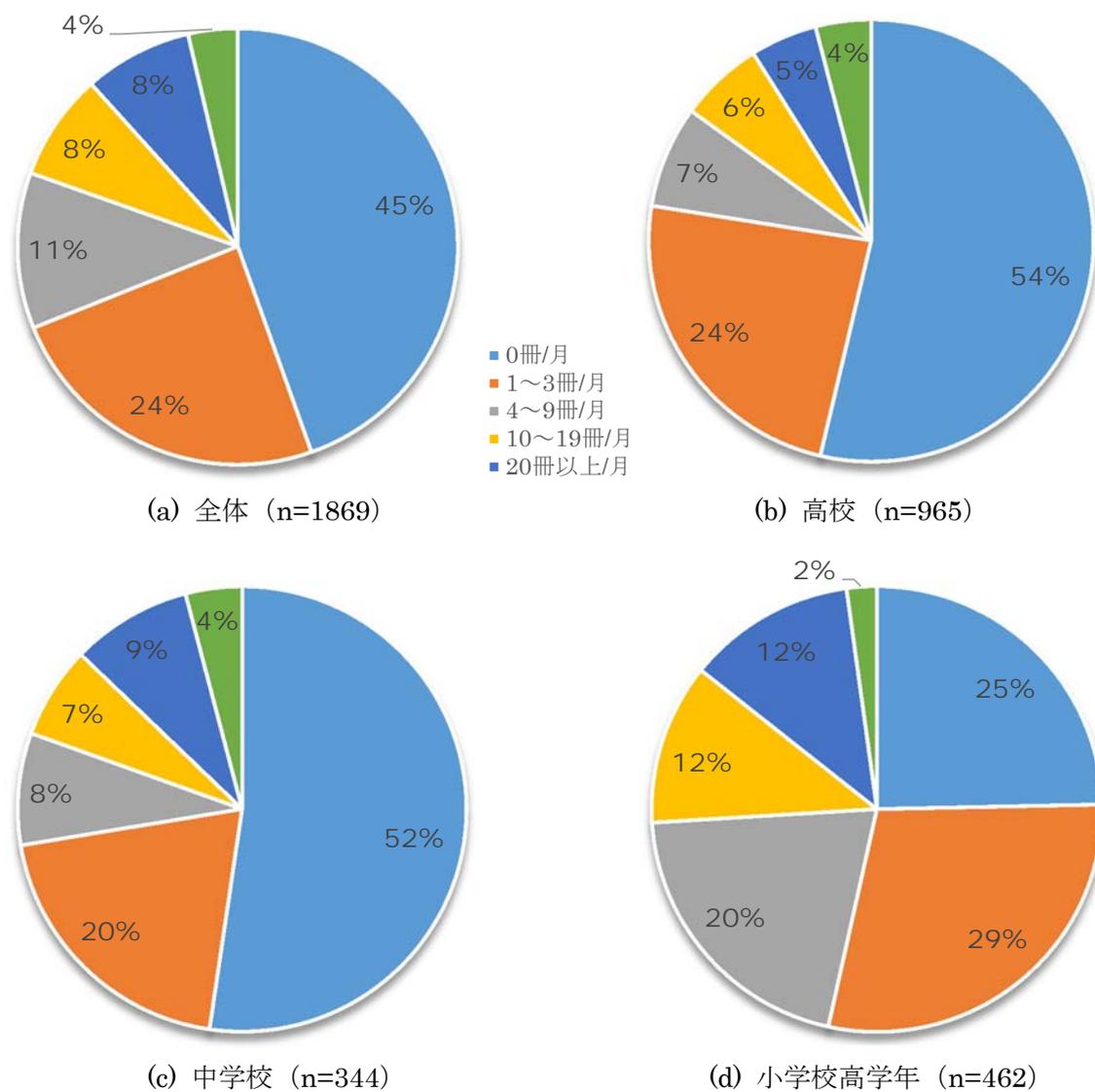


図 2-33 1か月間の読書量（コミックス）

2.7.3 1日当たりの読書時間

授業時間を除いて、1日にまったく本を読まない児童生徒は、校種が進むほど増えていき、高校生では半数を超えている。

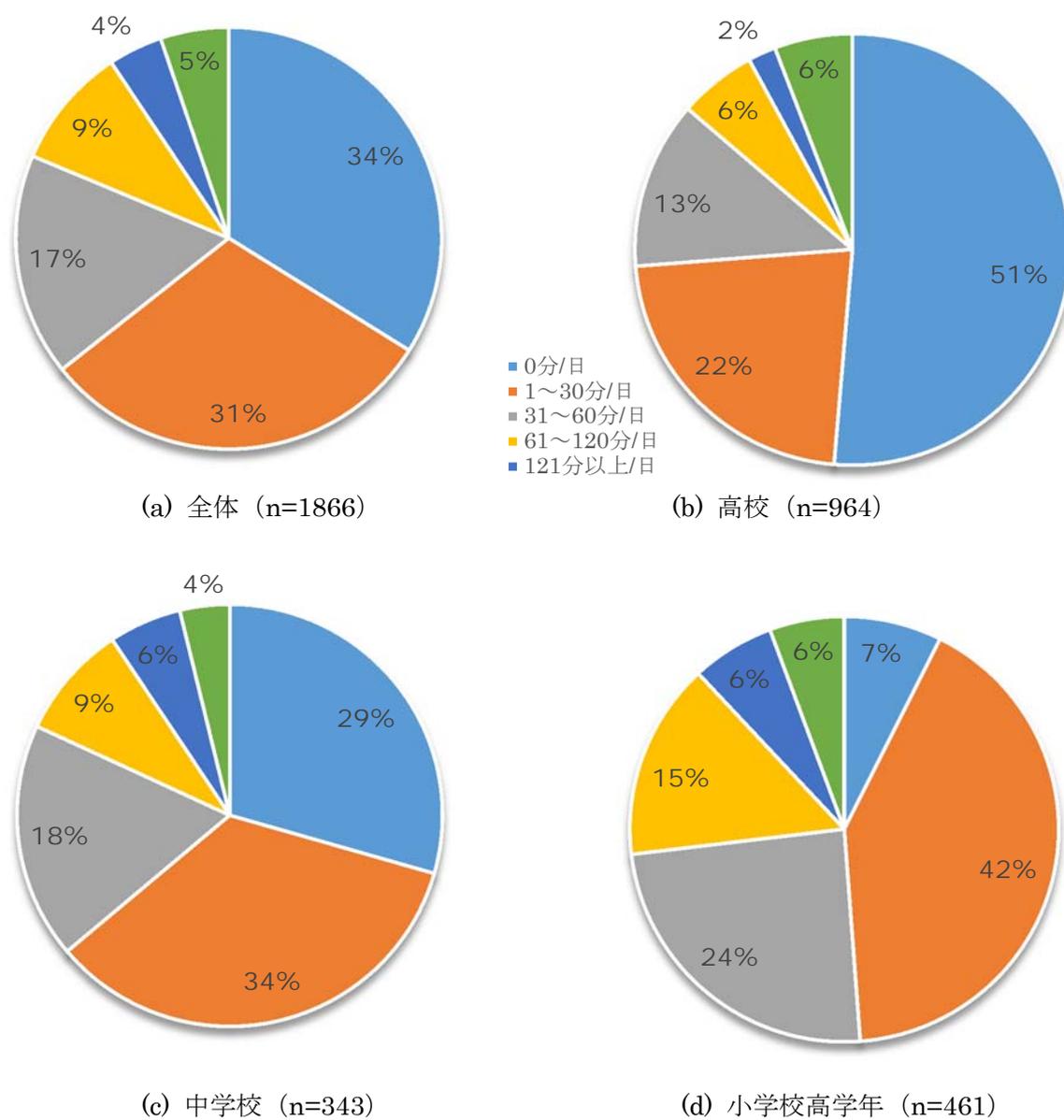


図 2-34 1日当たりの読書時間

2.7.4 学校図書館利用頻度

授業をのぞいた学校図書館の利用者は、「ほとんど毎日」と「週3~4回」をあわせると、高校5%、中学校8%、小学校高学年9%と、少数ながら一定数いることがわかる。一方で「ほとんど行かない」と回答した率は、高校生は小学生の倍の7割となっている。

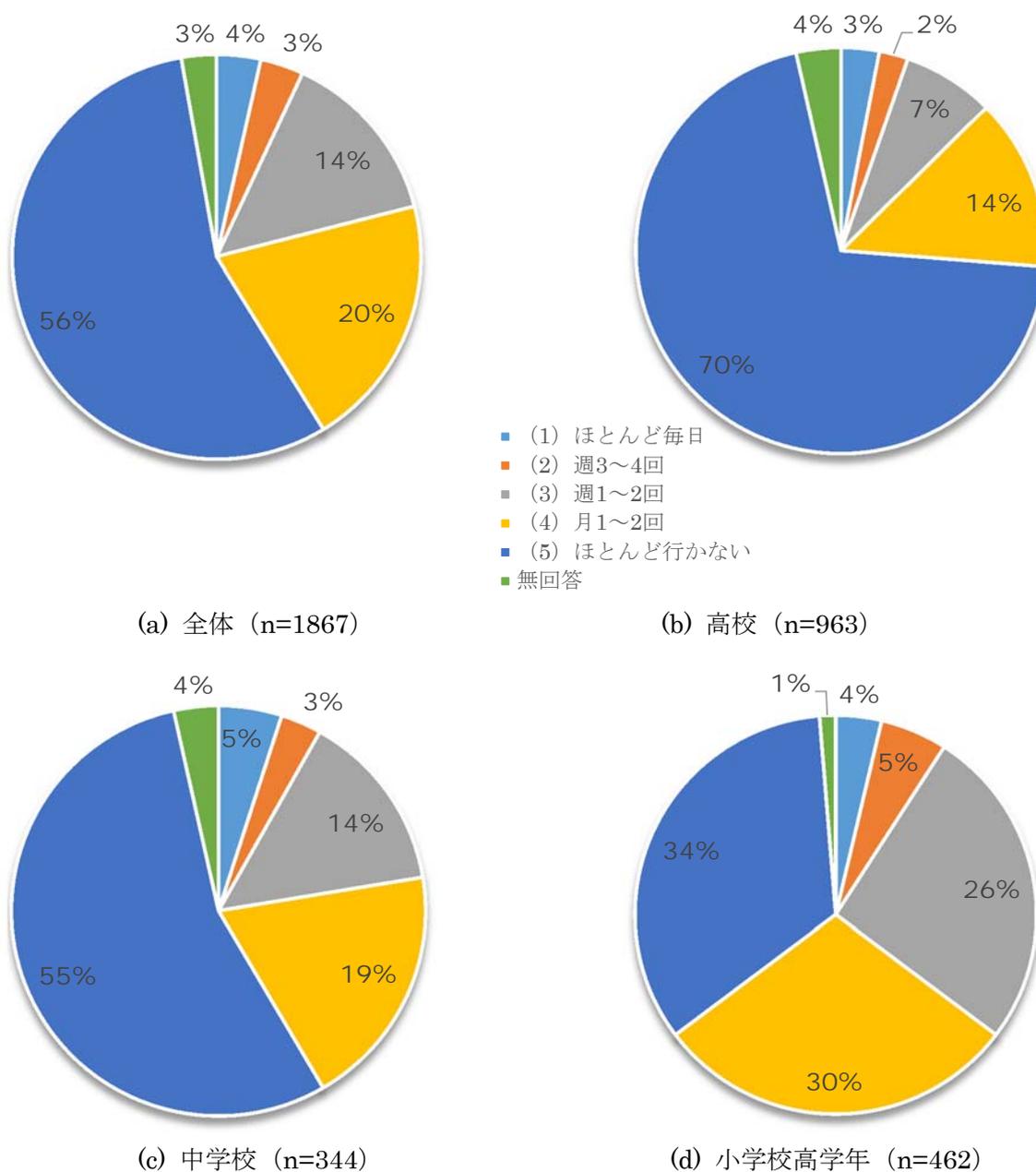


図 2-35 学校図書館利用頻度

2.7.5 電子書籍の利用経験

電子書籍の利用経験者は、全体を通じてほぼ同様の傾向である。利用経験の有無については、中学生で他学年より多いものの極端な偏りはみられない。

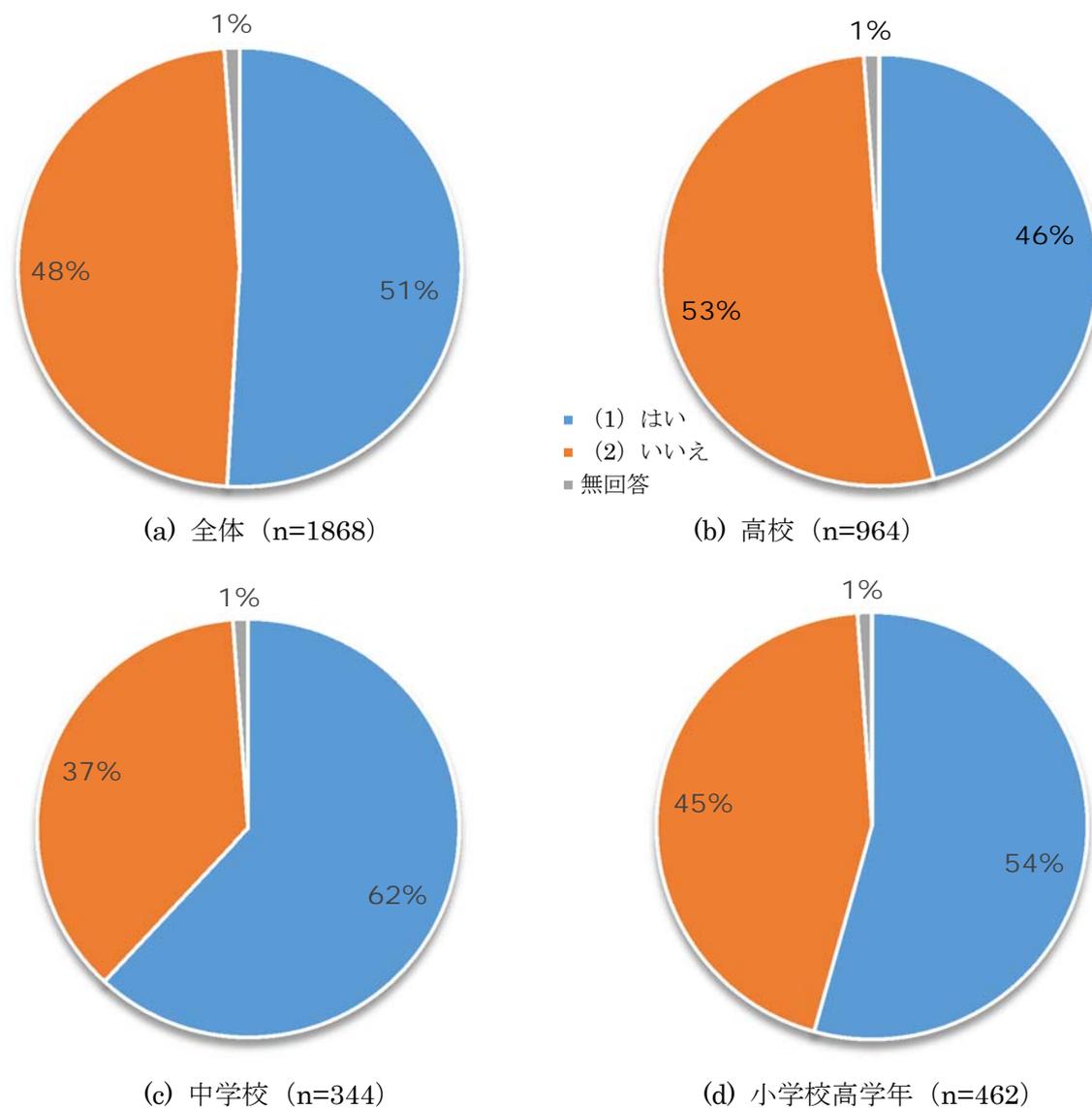


図 2-36 電子書籍の利用経験

2.7.6 利用経験のある電子書店・電子書籍サービス（複数回答可）

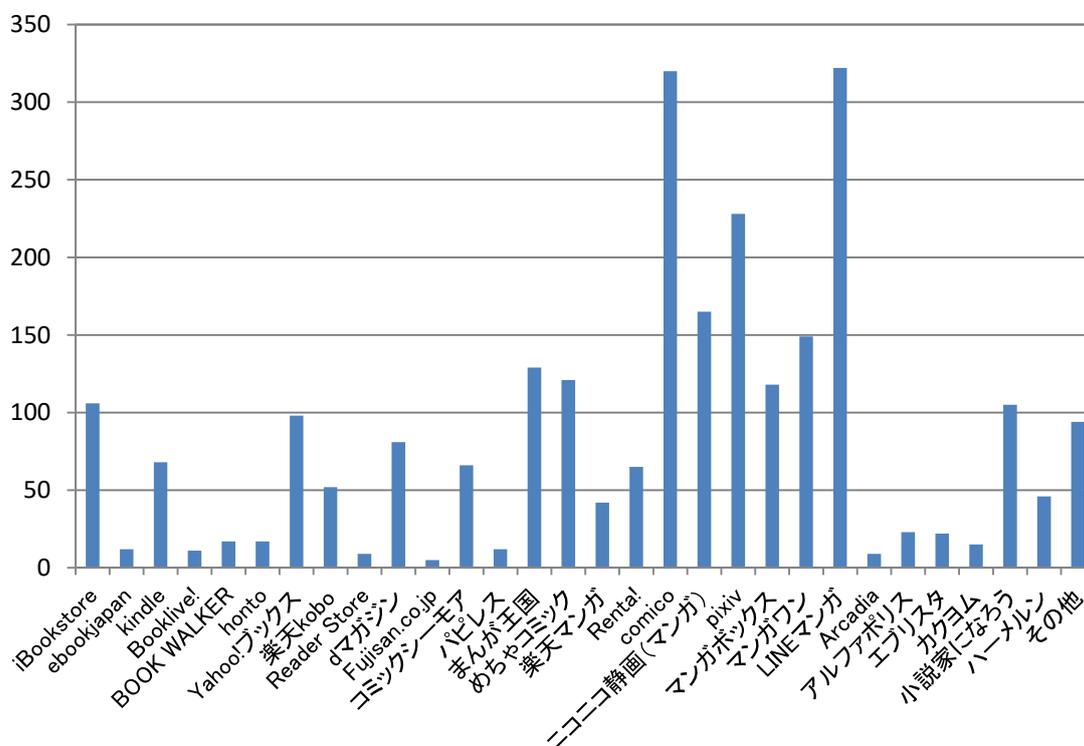


図 2-37 全体（利用電子書店） n=1869

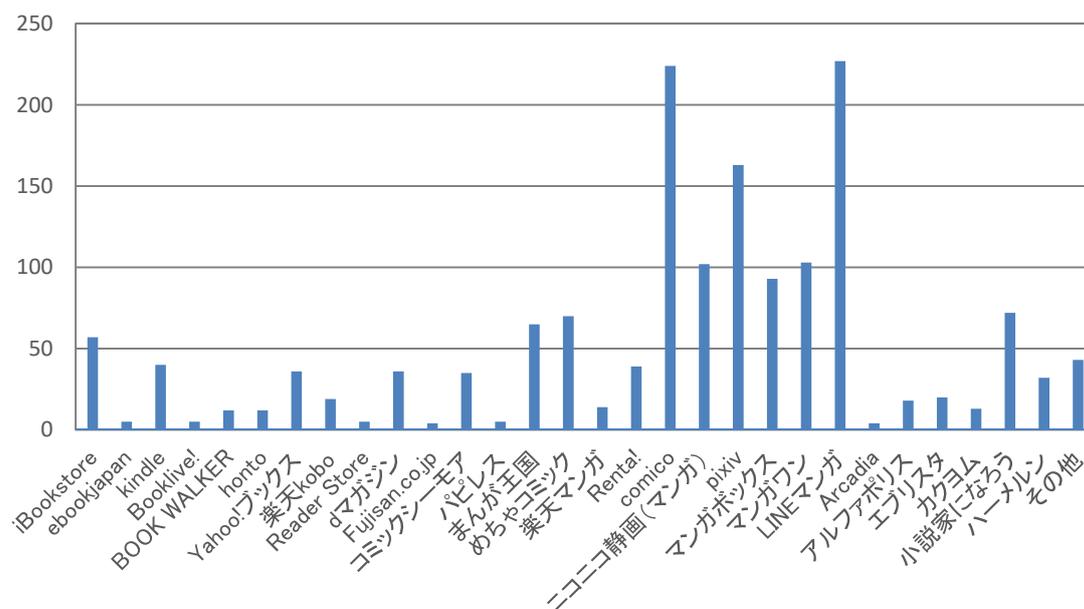


図 2-38 高校（利用電子書店） n=965

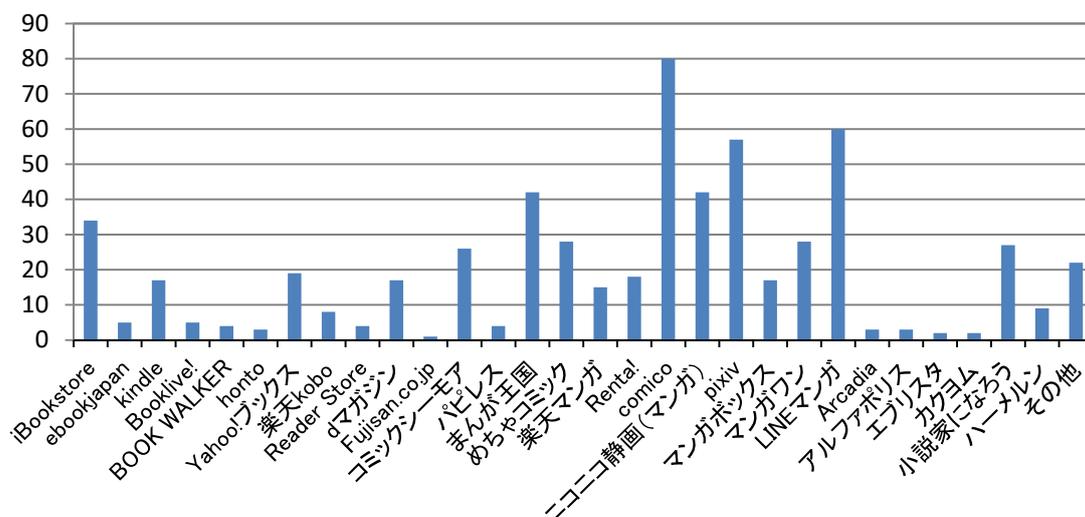


図 2-39 中学（利用電子書店） n=344

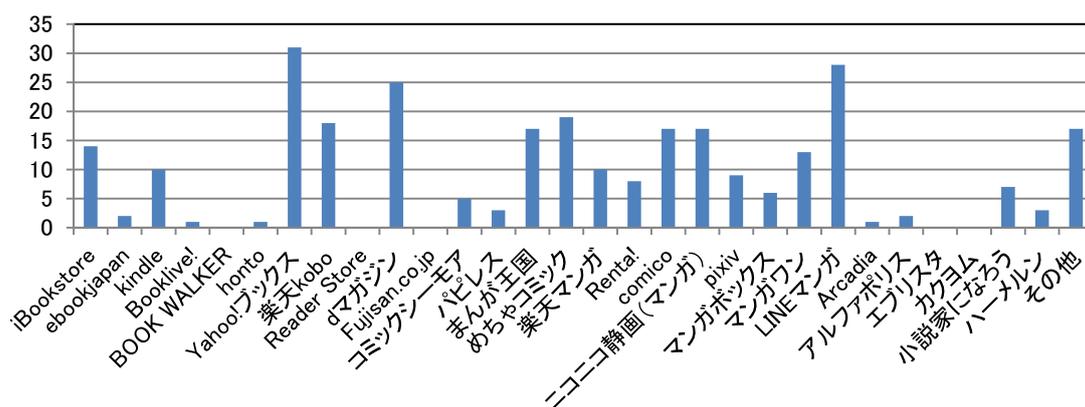


図 2-40 小学校高学年（利用電子書店） n=458

電子書店や電子書籍サービスの利用は、高校生が小学校高学年、中学校と比較して多く、全体の数値を引き上げている。コミック系では、comico、LINE マンガ、pixiv の利用が多く、ニコニコ動画、マンガボックス、マンガワンなどが目立っている。また、高校では、小説投稿サイトである「小説家になろう」の利用が増えている。

2.7.7 スタンドアロン型への評価

2.7.7.1 使いやすさ

「満足」「やや満足」をあわせると、それほど大きな差はないが、小学校高学年生の「不満」が特に低く、「満足」だけを見ると、平均を大きく上回って使いやすいと指摘している。小学生のほうが、中高生よりもメディアに対する固定概念がなく、新しいメディアに対しても抵抗なく受け入れていると考えられる。

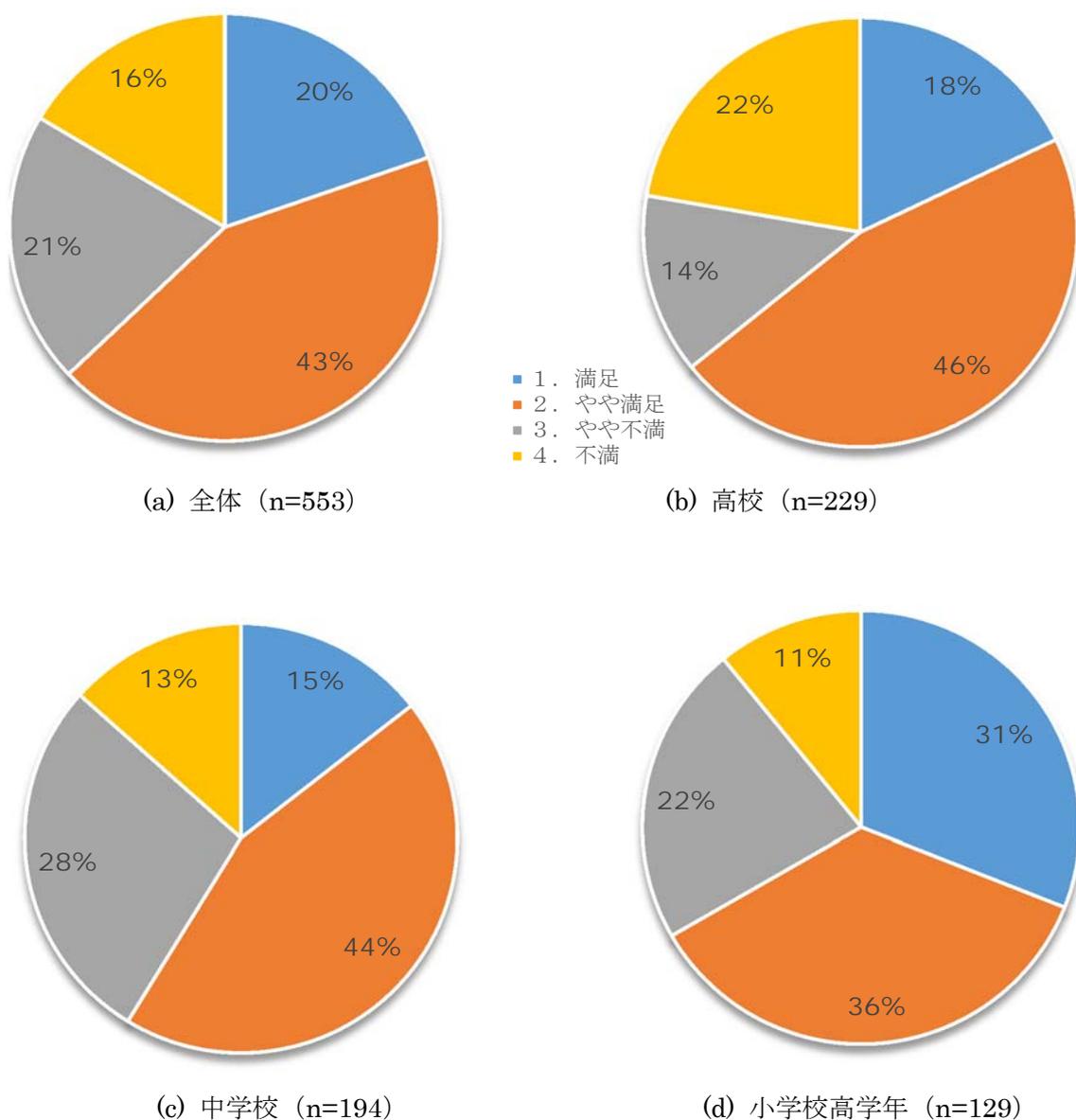


図 2-41 スタンドアロン型の使いやすさ

2.7.7.2 読みやすさ

使いやすさと同様に、小学校高学年生が読みやすさに対しても一番多く、「満足」と答えている。「満足」と「やや満足」をあわせると、ほぼ4分の3の児童が肯定的にとらえている。

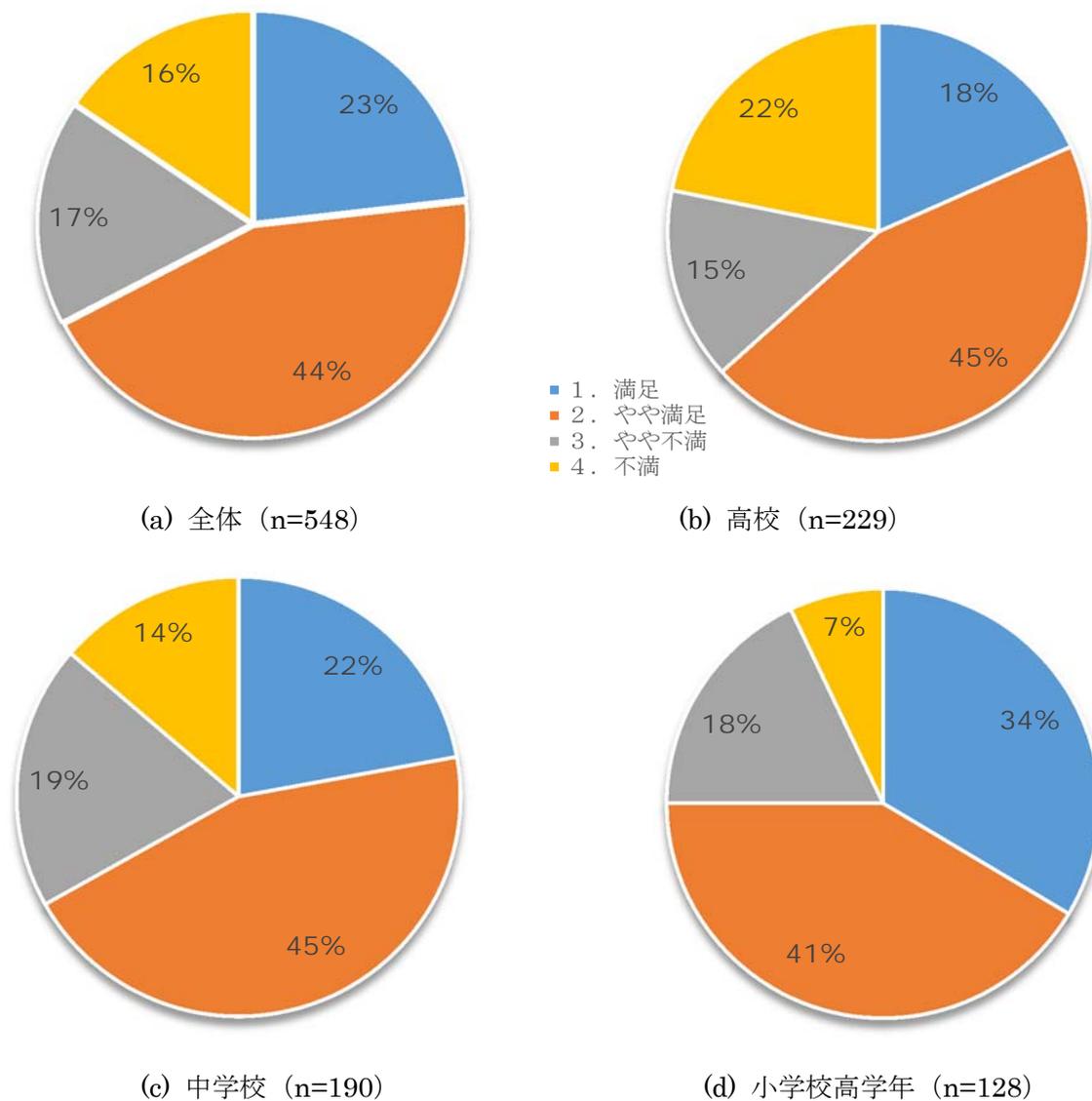


図 2-42 スタンドアロン型の見やすさ

2.7.8 クラウド型への評価

2.7.8.1 使いやすさ

中学と高校では、スタンドアロン型と同様に、「満足」「やや満足」に、それほど大きな差はないが、校種が下がるほど満足の度合いが高まり、小学校高学年が平均を大きく上回って使いやすいと指摘している。小学生のほうが、中高生よりもメディアに対する固定概念がなく、新しいメディアに対しても抵抗なく受け入れていると考えられる。

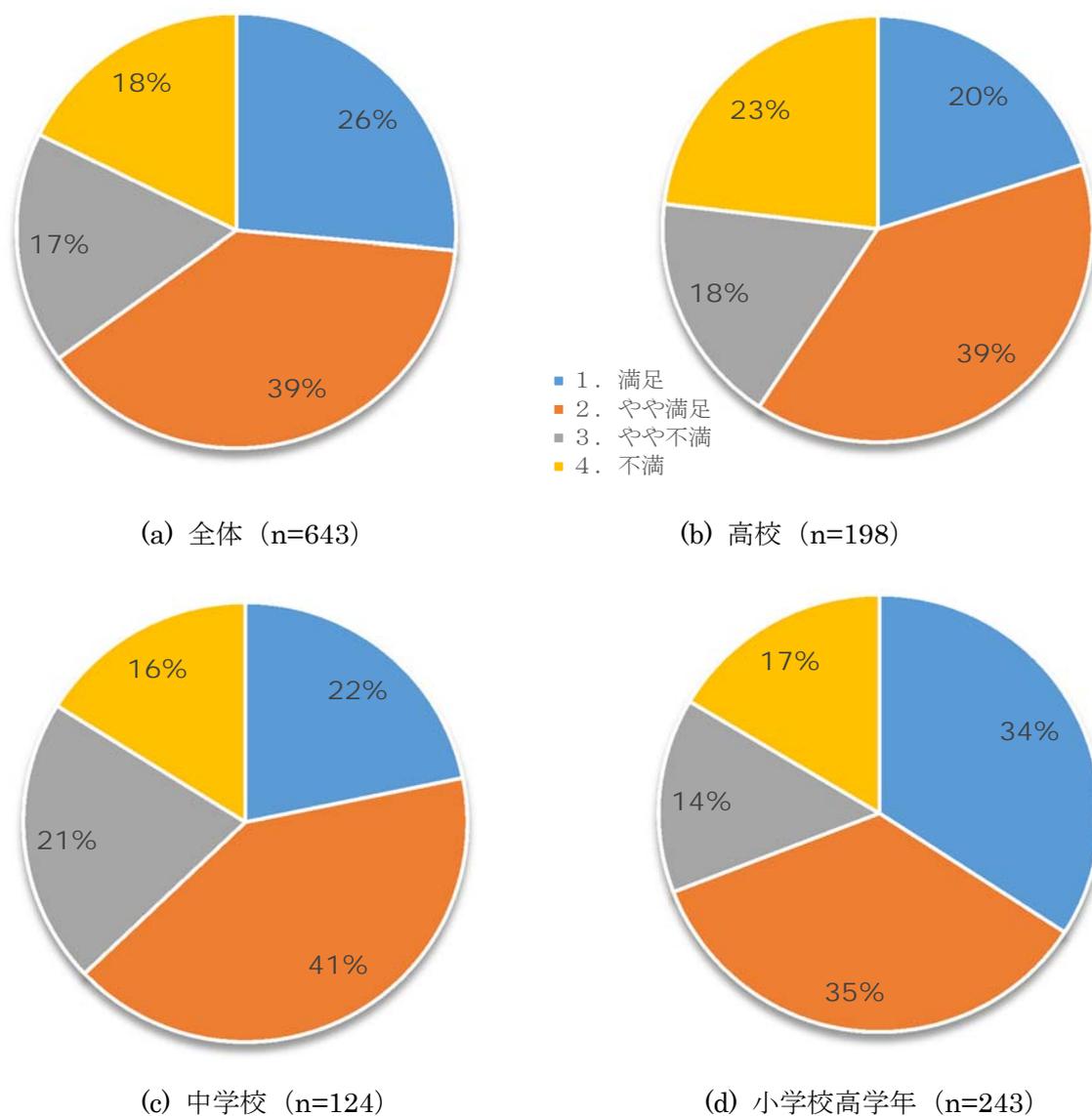


図 2-43 電子図書館の使いやすさ

2.7.8.2 読みやすさ

使いやすさと同様に、小学校高学年生が読みやすさに対しても一番多く、「満足」と答えている。「満足」と「やや満足」をあわせると、ほぼ4分の3の児童が肯定的にとらえている。校種が下がるほど、読みやすいと答える傾向にある。

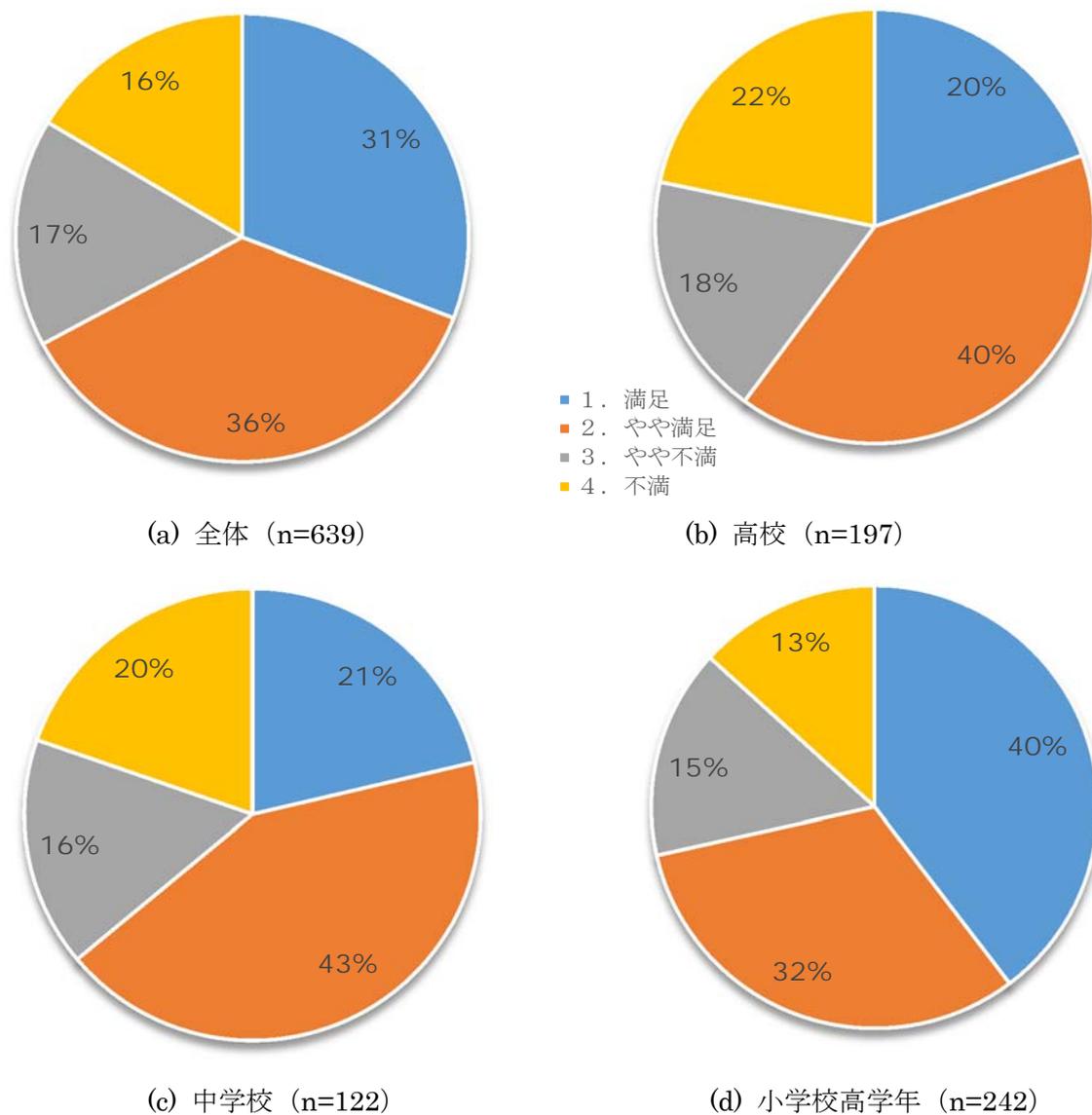


図 2-44 電子図書館システムの読みやすさ

2.7.9 電子書籍の利用意向

2.7.9.1 全体傾向

「これからも学校の図書館で電子書籍を使いたいか」という問いに対して、校種が下がるほど「ぜひ使いたい」「あれば使いたい」と肯定的にとらえる率が高くなる。小学校高学年では、高校生の実に3倍の37%の児童が「ぜひ使いたい」と答えている。

電子書籍に対する抵抗感が高学年ほど高いととらえるよりも、低学年ほど小さいうちからスマートフォンやタブレットPCを利用している習慣が反映しているともとらえることができる。

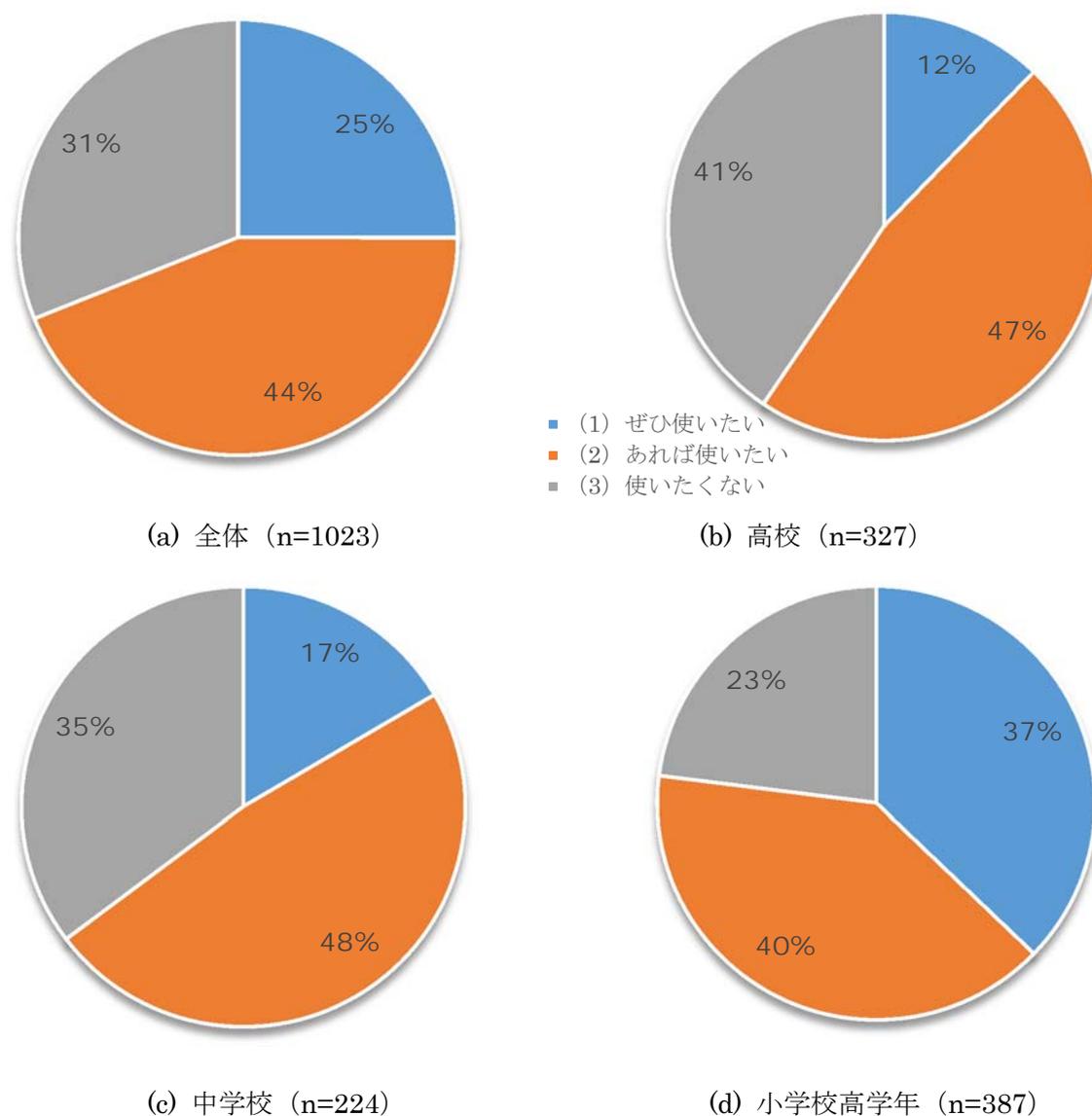


図 2-45 電子書籍の利用意向

2.7.9.2 ぜひ使いたい理由

自由記述の回答から主だった意見を取り上げる。回答数は、223である。

「借りられている本もよめる」、「たくさん借りられる」といったマルチアクセスへの評価や「どこでも読める」、「すぐに読める」、「続きが読める」、「よみおわったら、すぐにちがう本をよめる」、「いつでも借りられる」といった、貸出の利便性への評価があった。また、「使いやすい」「持ち運びやすい」、さらに「文字が大きい」、「読みやすい」といった電子書籍ならではの機能面での評価が多くあった。

「きれい」、「よごれていない」、「他の人が触れてないので衛生的に良いと思った」というコメントは、他人が読んだ図書への抵抗感がある児童生徒からの評価と思われる。

「いろいろな本、おもしろい本がたくさんある」という評価があったが、今回準備した電子図書は800タイトル程度で必ずしも多くはない。このことを考えると、図書館で本を探すのになれていない児童生徒が、ディスプレイ上での閲覧がしやすいととらえていることも考えられる。

2.7.9.3 あれば使いたい理由

自由記述の回答から主だった意見を取り上げる。回答数は、一番多く332である。

「図書館をたまにしか使わないから」、「なかなか図書館に行って本借りようと思わないが、これならすぐ借りられるから」といった意見が代表しているように、普段あまり図書館を使わないと思われる児童生徒が「あれば使いたい」という消極的な賛同を与えたようである。「あれば便利」、「図書館より探すのが簡単」、「検索で探せる」ことを評価しているのも、図書館で時間を過ごすことに面白さを感じていないことの裏返しと思われる。

2.7.9.4 使いたくない理由

自由記述の回答から主だった意見を取り上げる。回答数は、236である。

もともと図書館を利用していないか、「外で遊びたい」「関心がない」、あるいは本を読む習慣がない（「本を読まない」）児童生徒は、電子書籍であっても、読まないことがうかがえる。

第2章 本事業の結果と考察

一方、「ふつうに本で読みたい」、「紙が好き」といった、紙の本を評価する指摘もある。

「ID とパスワードをいちいち入れなきゃいけない」、「使いづらい」、「目が痛い」といった機能評価もあった。校種が上がるほど、紙の本に対する愛着を表明したコメントがめだってくる。中学生の図書委員にヒヤリングしたところ、同様に、紙や紙の本に対する愛着や信頼感を口にしていた

2.8 「1 か月間の読書量」と「電子書籍の利用意向」のクロス分析

2.8.1 概要

アンケートによる「1 か月間の読書量」を、「本をよく読む児童生徒」（月に4冊以上）、「本を読む習慣がある児童生徒」（月に2～3冊）、「本を読むことがある児童生徒」（月に1冊）、「普段、本を読まない児童生徒」（月に0冊）に分けて、それぞれ、「電子書籍の利用意向」（ぜひ使いたい、あれば使いたい、使いたくない）とクロス分析した。

2.8.2 高校

月に1冊でも本を読む生徒の傾向に大きな差はない。普段本を読まないが、電子書籍ならぜひ使いたいと回答した生徒は1割いて、あれば使いたいを含むと、半数を超えた。

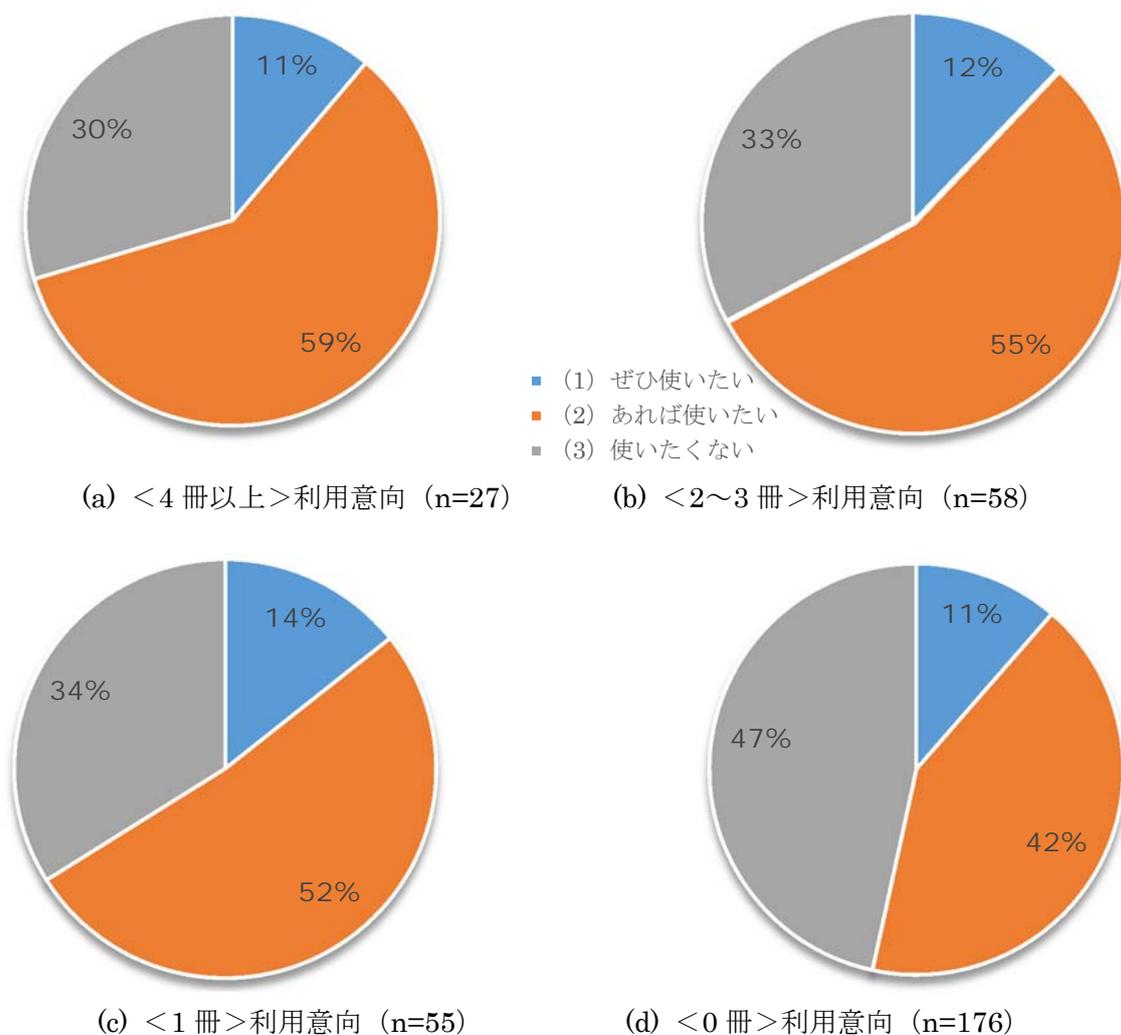


図 2-46 読書量と電子書籍の利用意向の関係

2.8.3 中学

読書好きと言うほどではないが、読書習慣のある月に2~3冊程度読む層が、「ぜひ使いたい」、「あれば使いたい」の比率が高かった。中学時代は、それまでの児童書から読書分野に広がりが出る世代である。今後、読者人口の裾野を広げていく可能性があるのも中学時代に読書習慣が身につけている層と考え、電子書籍の読書を牽引するイノベーターの役割を担う可能性があると言えるだろう。

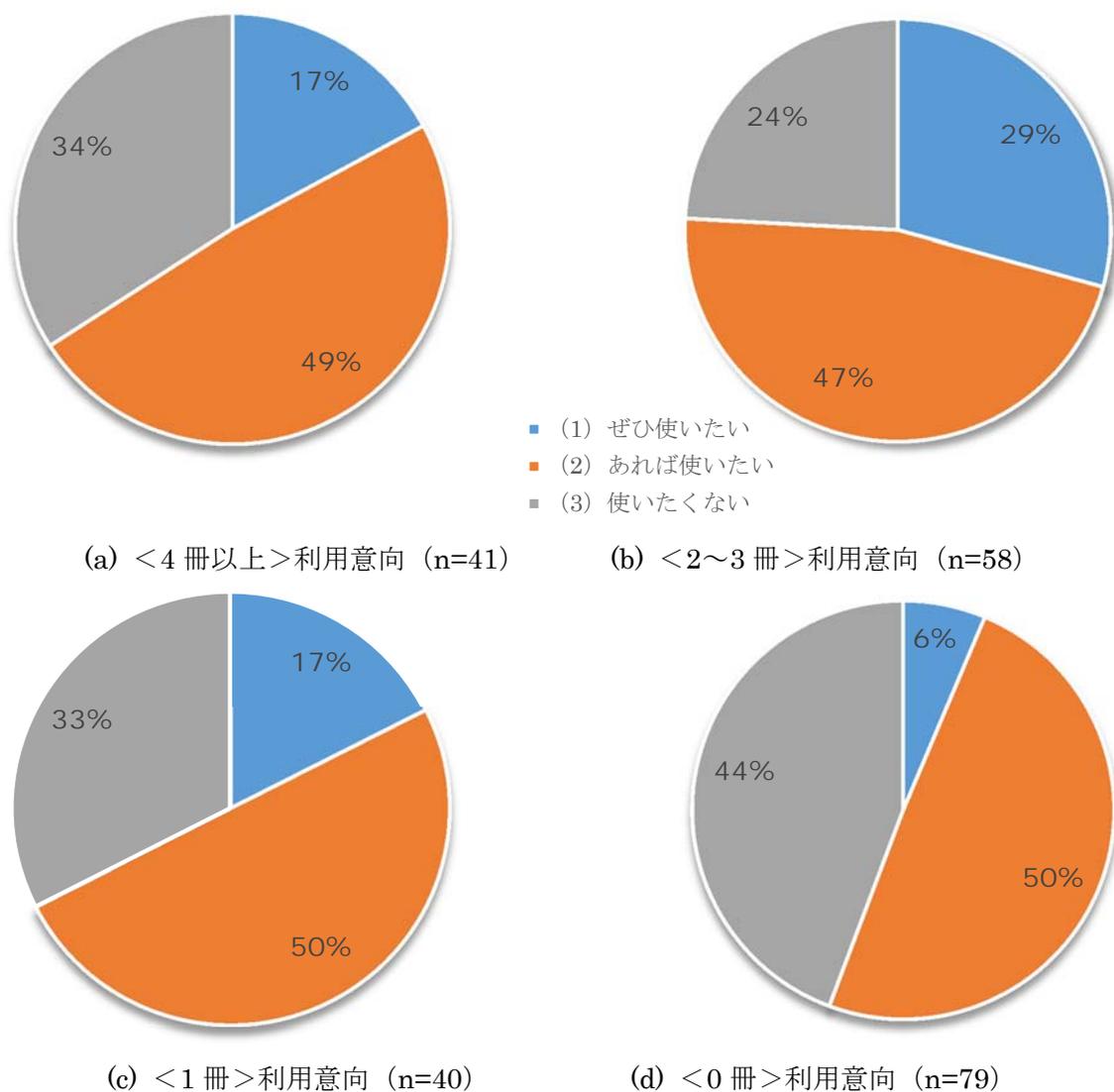


図 2-47 読書量と電子書籍の利用意向の関係

2.8.4 小学校高学年

他の世代と異なり、本をよく読む児童が、「ぜひ使いたい」率が高い結果となった。読書習慣を身につけ、本の世界の面白さ、作品を読む楽しさに気づく子ども時代は、一方において、紙の本が持つ物理的な魅力（紙の良さ、インクのおい、ページをめくる感覚）といった、ある種のフェティシズムにとらわれる前でもある。「紙の本を読むことが読書である」といった読書感は、構築されてきたメディア概念でもあり、繰り返し大人たちから子供たちに押しつけられているとも言えよう。書物に対するディスプレイに抵抗感のない早い段階で、電子書籍で作品本来の面白さ、読書の楽しみに早く出合うことが、良質な「デジタル読書」を広げることにつながる可能性がある。

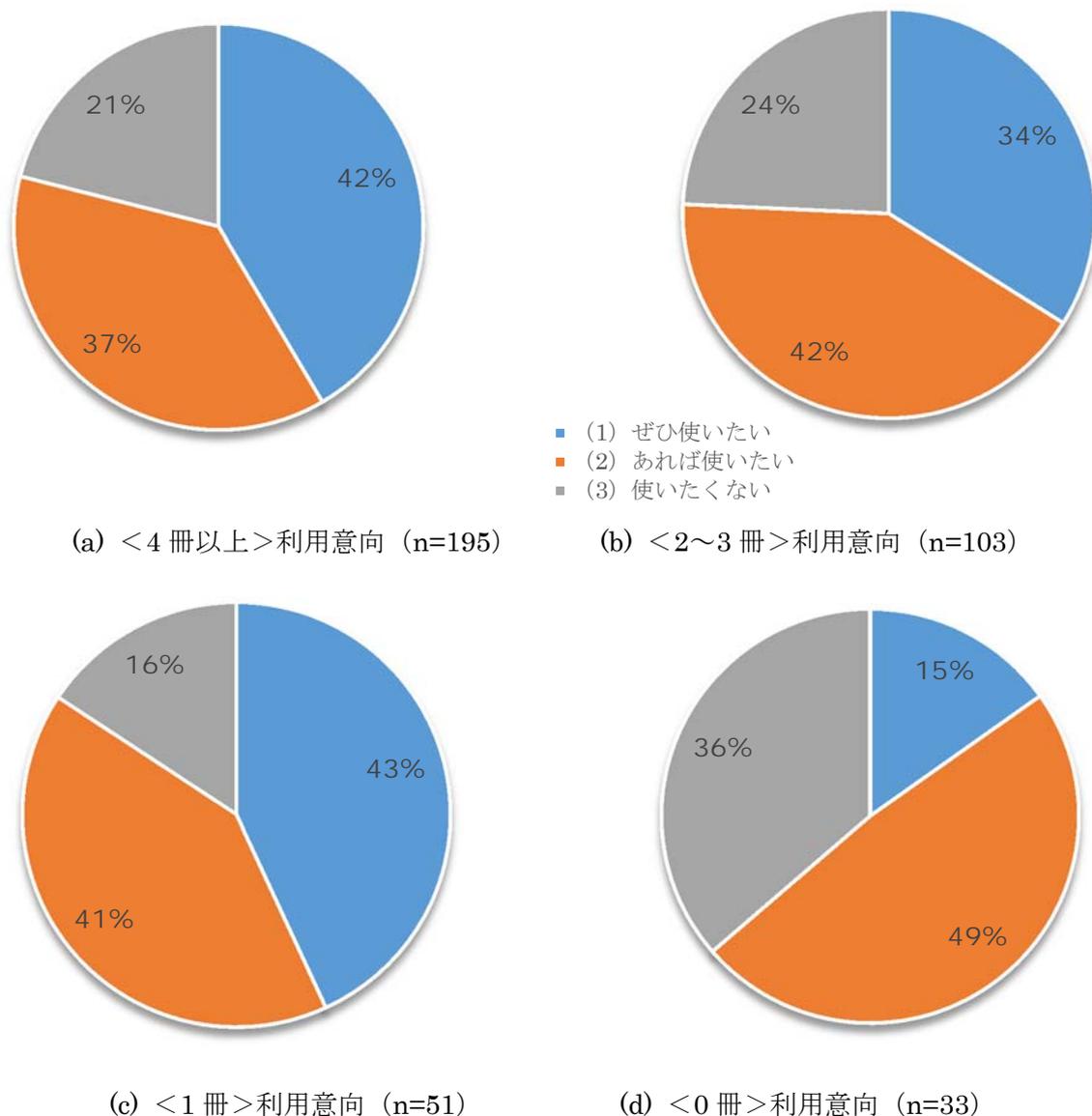


図 2-48 読書量と電子書籍の利用意向の関係

2.9 何を「電子書籍」と認識しているのか

「2.7.5 電子書籍の利用経験」で述べたように、「今までに電子書籍を読んだことがありますか」という問いに対して、「ある」が951、「ない」が896で、両者はほぼ拮抗している。しかし、普段からスマホ利用時間の多い児童生徒が、スマホで利用しているコンテンツのうち、何を電子書籍としてとらえ、何を電子書籍としてとらえていないのか、必ずしも明確にはなっていない。そこで、電子書籍を利用していないと答えた児童生徒が、普段どのような電子書籍サービスを利用しているのか、「電子書籍の利用経験」と「電子書籍サービスの利用」をクロス分析した。図2-49にその結果をしめす。

comico 利用者の29%、pixiv 利用者の27%、LINE マンガ利用者の30%、小説家になろう利用者の15%が、「電子書籍を読んだことがない」と答えた児童生徒である。つまり、comico、pixiv、LINE マンガをそれぞれ利用する（読む）行為を「電子書籍を読む」ととらえていない児童生徒が、およそ3割いることがわかった。

このことから、**「2.7.5 電子書籍の利用経験」がほぼ拮抗していると述べたが、実態としてはもっと電子書籍読書は進んでいると考えられる。**あるいは、従来型の読書概念や書籍の範疇外で、新たな「読書」と「電子書籍」が普及し始めているともとらえることができる。

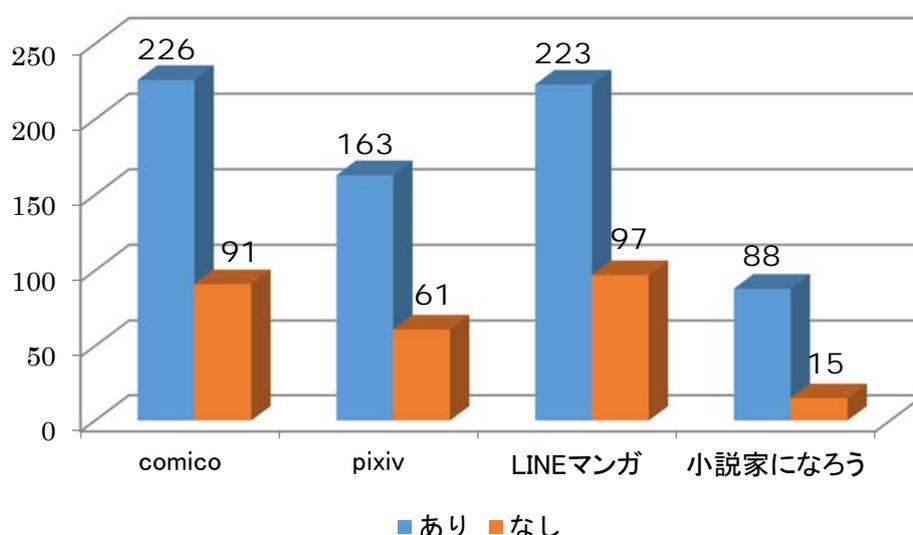


図2-49 電子書籍に対する認識差による電子書籍サービスの利用動向

2.10 「電子書籍」サービス利用者の普段の読書量

2.10.1 「小説家になろう」の利用者（読者）の不読率

高校では、小説投稿サイト「小説家になろう」の利用者（読者）が多いことがわかった。そこで、「小説家になろう」の利用者（読者）が、普段、どの程度、読書をしているか、読書量をクロス分析して調べてみた（n=72）。図 2-50 にしめすように、利用者の実に2割の生徒が月に1冊も本を読んでいない、不読層であった。今回は、「小説家になろう」の利用時間を調べておらず、利用の有無だけでの分析であるが、それでも、本を読まない生徒でも、電子書籍に魅力を感じて読んでいることは指摘できる。

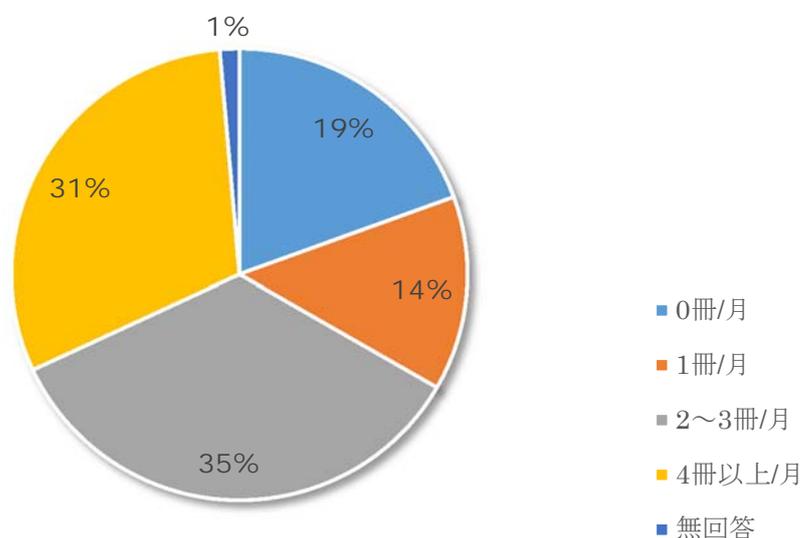


図 2-50 電子書籍利用者における紙の書籍利用の動向

2.10.2 電子コミックサイト利用者のコミックス読書量

電子コミックサイト「comico」「pixivel」「Line マンガ」利用者（n=490）の普段のコミックスの読書量を調べてみた。電子コミックサイト「comico」「pixivel」「Line マンガ」のうち、どれかを読んだことがある生徒のうち、4割を越える近くの生徒が、紙のコミックスを読んでいないことがわかる。

図 2-51 に結果を示す。

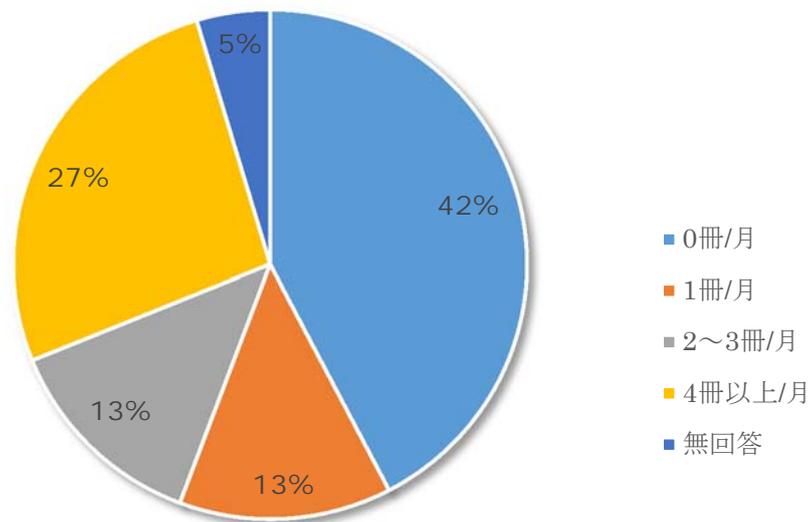


図 2-51 電子書籍利用者における紙のコミックスの動向

第3章 本事業をふまえての提案

3.1 電子書籍の活用を促す制度のあり方

学校（小学校、中学校、高等学校およびこれらに準ずる義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校）において、電子書籍をどこが取扱うのかは、現状、必ずしも明確になっているわけではない。ただし、文部科学省が2016（平成28）年11月29日付で教育委員会等に通知した「学校図書館ガイドライン」では、図書館資料の説明のなかで「電子資料（CD-ROM、ネットワーク情報資源（ネットワークを介して得られる情報コンテンツ）等）」や「電子図書」という用語が出てくる。また、「小学校英語を含め、とりわけ外国語教育においては特に音声等の教材に、理科等の他の教科においては動画等の教材に学習上の効果が見込まれることから、教育課程の展開に寄与するデジタル教材を図書館資料として充実するよう努めることが望ましい」といった記述も見られる。

したがって、電子書籍も図書館資料の1つとして、学校図書館で取扱う方向にあることが窺われる。デジタル時代にふさわしく「多様なメディアを活用した学習・情報センターとしての学校図書館の機能」（文部科学省「教育の情報化ビジョン～21世紀にふさわしい学びと学校の創造を目指して～」、2011年）を強化していくためには、当然の方向ともいえる。

とはいえ、学校の校内体制（校務分掌）の現状においては、学校図書館（図書館教育）とコンピュータ室（情報教育）の担当分掌が別に設けられているケースが多く、その見直しが急務である。具体的には、学校図書館（図書館教育）とコンピュータ室（情報教育）の担当分掌を一本化し、両者を一体的に運用できるようにすることである。紙も電子も、情報メディアの一形態に過ぎず、電子資料草創期とは違って、今日において両者を分けて取扱う必然性は弱まってきている（現に、大学図書館や公共図書館では紙も電子も取扱っている）。

校務分掌のあり方は、学校の経営者たる校長に依る部分が大きいため、こうした時代の潮流を見据えた校務分掌の見直しができる見識と力量が校長には求められる。そもそも、学校図書館やICTに対する教職員の理解自体が十分でない学校も少なくなく、校長のリーダーシップのもとに教職員の共通理解を深めることが前提として欠かせない。

同時に、学校内の校務分掌の見直しだけでは対処が難しい面もある。予算についてである。公立学校の場合は教育委員会（さらには地方議会）、私立学校の場合は学校法人理事会が、電子書籍の導入をはじめ ICT 環境の構築・向上にどれだけの予算を付けることができるかどうかである。財政規模の小さな地方公共団体や学校法人ほど、ICT 環境の構築・向上に割ける予算は、当然、少なくならざるを得ない。国による財政的なバックアップが求められる所以である。

国は、2017（平成 29）年度から「学校図書館図書整備等 5 か年計画」（第 5 次）をスタートさせ、図書の整備費として 5 年間で約 1,100 億円、新聞の整備費として 5 年間で約 150 億円を地方交付税措置することになっている。ところが、電子書籍などの電子資料についての措置は、この計画には何も盛り込まれていない。今後は、電子資料についても計画に盛り込むなどの施策が望まれる。

3.2 学校図書館における電子書籍利用環境の可能性について

本節では、学校図書館での電子書籍の導入と利用について、システムや仕組みの観点からその可能性について検討する。本事業は「クラウド型」と「スタンドアロン型」の 2 方式にて検証を行った。概要説明と重複するが、それぞれの方式について簡単に示し、さらに実際の利用について説明する。

3.2.1 クラウド型の提供

まず「クラウド型」だが、インターネット経由で電子書籍を利用できる仕組みについて学校図書館へシステム提供を行った。電子書籍の利用にはパソコンやスマートフォン、タブレットなど一般的なデバイス（機器類）がひと通り利用可能で、仕組み自体は現在公共図書館を中心にサービス提供されている商用製品を試験的に流用した。このシステムに今回の実証用に許諾を得た出版社が制作した電子書籍を登録しておき、利用者はこのシステムにインターネットを通じてアクセスすることで電子書籍を利用することができる。利用者の識別には ID とパスワードによる認証を行うことで、不特定の利用を除外できる仕組みである。また、一般的な電子書籍には著作権や対価の問題から同時閲覧を制限するためにライセンスという考え方が採用されるが、本事業では利用体験を優先するために無制限ライセンス、つまり同時複数利用を可能な状態とした。

このような条件で提供したが実際は学校毎の運用を行ったため、学校が提供する機器類のみ利用可能とする、児童生徒個人が所有する機器類でも利用可能とする、などの違いが生じた。運用上の差も含めた利用実態の特徴は以下のとおりである。

好意的な意見としては、インターネットを介して利用する仕組みのため、いつでもどこでも自由に利用できるというメリットが挙がる。運用が柔軟に行える場合、児童生徒が学校図書館の提供するサービスを通学時にも利用できる。しかしインターネットを経由するため、その通信回線にかかる負担を誰が担うのか、という課題も生じる。現状、学校が全児童生徒に Wi-Fi を持たせることは現実ではないだろう。

このことは、利用のための機器類をどのように提供できるかという課題にも発展する。実際、タブレットを全校（ないし学年）配布しているケースとそうでないケースとで運用課題に差が見られた。また在校時や通学時に個人所有のスマートフォンをいじってはいけないといった校則に準じたルールが存在する場合、学校図書館の提供範疇と競合することで十分にサービスの機能を活かせないといった事例もあった。さらに学校配布端末についても授業時の一括貸出などで運用される場合、個人には端末が紐付かない（＝端末自体は共同利用されているということ）ため、自由で自主的な利用には結びつきにくいということもある。

こうした運用上の工夫でいちばん制限をかけることとすると、学校図書館に固定設置してあるパソコンに、管理者が共通ログインを代行するなどしておき、訪問した児童生徒のみ電子書籍を読めるようにする、というようなかなり限定的な利用も発生する。

従来の紙の書籍の運用でも誰がどの書籍を読んでいるかについて学校図書館はある程度把握できるため、その部分は電子書籍による管理でも違和感はないと思われたが、閲覧端末が固定化されるとか、利用できる時間帯が限られるといった状況は、児童生徒にとって若干の利用の心的障壁になったことが想像できる。

3.2.2 スタンドアロン型の提供

次に「スタンドアロン型」だが、こちらは電子書籍専用端末に一定数の電子書籍タイトル群をあらかじめ格納しておき、この端末ごと学校図書館が児童生徒へ提供するという方式である。端末は電子ペーパーを装備した電池で駆動するタイプのものを使用した。こちらは有体物の運用になり、インターネットなどネットワークシステムを介した仕組みでは

ない。そのため従来の紙の書籍の貸借とイメージが近く、学校図書館側も児童生徒側も双方でわかりやすく使用できたのではないかと推察できる。

こちらの好意的な意見としては、端末がオフラインでも利用できるため「クラウド型」と比して運用上の制限が少なく、結果的に自由度の高い印象を与えた。その他の意見として、簡単に持ち運びできるとか、たくさんの本が一台にまとまっているとか、実は「スタンドアロン型」固有ではないクラウド型にも共通するメリットが挙がるなどした。一部、読みやすさについて電子ペーパーの特長を挙げるものもあった。端末には複数のタイトルが格納されるため、書籍を選ぶための本棚的なものや文字の大きさを変更することができる簡単なソフトウェアが書き込まれている。ただし書籍の検索などはできないため、書籍を選ぶ際の利便性についていくつか指摘が挙げられた。

3.2.3 共通する意見から見えてくるもの

全体的な利用の感触として教員・児童生徒のいずれも、「クラウド型」「スタンドアロン型」に限らず半数以上に好印象（読みやすい、使いやすい）を持っており、なかでも児童生徒についてはその傾向が教員よりも高かった。

これについては、実際の個々人の生活の中ではこのような機器類が広く普及していることを反映していると思われる。単純に機器類、インターネットなどの利用に一定のITリテラシーを有しており、その延長で比較的困難なく使用できていた、という程度の実態であろう。それは利用上の課題について寄せられた意見からも推察できる。例えば、パスワードの入力やタイトルの検索について面倒であるといった意見が目立った。個人がWebサービスなどにログインする場合は端末がログイン情報を記憶することで見かけ上ログインレスのように使用できることがある。これはそのまま利用者側の利便性に直結する。また検索などはブラウザで直接Google検索によってキーワード入力のみで情報を取得できることが一般的である。これも利用者の利便性やわかりやすさに繋がるユーザ体験的な部分である。

こうしたあたりに細かな要望が挙がってくるというのは、既に電子書籍のようなデジタル系、Web系のツールについて、利用当事者（教員や児童生徒）たちは個々人のレベルで受け入れられるだけの生活環境にある、ということと考えられる。もちろん個々人が契約したり所有したりしているインターネット接続環境や機器類などの差については考慮しな

第3章 本事業をふまえての提案

けれどもならないが、一般社会における普及率などを鑑みて、学校図書館が置かれている周辺環境の変化については、より意識すべきであることを指摘しておきたい。

さらに上述の細かな要望のところは別の視点から俯瞰する必要もある。本事業の範囲に留まらない評価をするならば、利便性やユーザ体験的な部分の欲求は、基本的な IT リテラシー教育の取扱いとセットで考える必要があるのではないか。つまり仕組みへの要望に対する技術的な解消は十分に可能だが、それ以前の問題として、都度ログインして明示的に認証されることは自分自身を保護するための重要な手続きを自覚的に把握できるし、電子書籍を検索するという視点では、従来の紙の書籍を探すプロセスと同等の図書館利用・情報検索といった視点での学習が期待できる。

今回の事業ではこうした観点を当初から仮説設定することができていなかったが、一般的なサービスとは異なり、学校図書館、つまり教育現場ないし教育現場に近いところで提供されるサービスについては単純に技術的なものだけで判断し難いということである。利用者に必要な手続きを理解させながら、利用を損なわない状況を作り出すことは重要である、というのは得られた成果のひとつとして大きい。

また、本（電子書籍）を読む、という部分で言うと、メモ等ができる、つまり書き込みのニーズに触れておきたい。この書き込みたいという声からは、本事業では教科書・教材を想定する「本」と、読書推進のためのいわゆる読み物としての「本」と、それぞれの違いが明確にならなかったという実態が見えてくる。これは学校図書館に導入が進んだ場合に何を期待するか、という意見にも現れており、前者の「本」は授業利用への期待、後者の「本」は読書活動への期待としていずれも高い要望を得たことに注意したい。

元々、自分の所有する教科書には書き込んで勉強を進めるという前提があり、借りて読む図書館の蔵書は皆で共有するものであるから書き込めないという前提があって、これらは逆を向いている関係と言える。技術的にこうした関係性を解消する（書き込めるが残らない、利用者毎に紐付けて書き込まれている情報を区別できる、といった電子的な処理）ことは可能だが、性能を追い求めるほど利用マニュアル的な、学校現場でのチュートリアルは複雑化するため、電子書籍によって技術的に可能なことと、実際に現場での利用イメージに沿って運用する妥当な範囲とは見極めていく必要がある。

いずれにせよ現在の社会において、利用者としての教員や児童生徒は、一般生活者のレベルである IT リテラシーを既に習得していることがわかる。そのとき技術的な課題は今回提供したシステムや端末への要望として挙がってきた。一方で技術的に解消できること

と、学校図書館の現場で提供されるべき内容とはバランスを取るべきであり、本来は仕組み上のイニシアティブも学校現場から仕様や運用ルールのようなかたちで提示されていくべきである。そのために教員の研修プログラムなどの検討は重要であるが、詳細については次節(3.3)に譲る。

3.2.4 システムや機器から見える環境構築の可能性について

本節では、利用実態からシステムや仕組みの可能性について導くことを試みた。そのとき、学校図書館を取り巻く ICT 環境・サービス等の伸張を把握し続けることは避けて通れぬ重要事項であり、学校図書館の利用者は現代社会の構成員として一定レベルの IT リテラシーを有していることは看過できない。学校図書館を取り仕切る側の人たちも一般生活者としては利用者と同様である。

その前提に改めて立つことで、学校図書館における電子書籍をツールのひとつとして見ることができ、仕組みに対する要求仕様のようなものも定まってくように感じる。以下、整理してみる。

現状において、クラウド型では、インターネット環境を学校図書館が担保することに高い壁があった。インターネット環境は個人レベルでは普及しているものの、学校図書館のような組織が児童生徒に対して利用環境を提供することは、コスト負担の所在や接続端末の不平等、学内ルールにおける自由なインターネット接続の可否、といったいくつかの点から、手続き上、難しいことがわかった。ただし、個人レベルではない、学校図書館というコモンズにおけるインターネット環境提供という障壁は、時間の経過と共に解消されることが期待できよう。早ければ数年後に可能となる環境イメージの中で、試行を繰り返すことで理想的なモデルを描くことはできる。

一方で、スタンドアロン型が従前の紙の書籍と非常に近いかたちで運用可能であったということは、その有効性を裏付けるだろう。上記クラウド型の課題克服を待つかたちで、過渡期的にスタンドアロン型が先行することも考えられる。さらに言えば今回用意した2方式についてはそれぞれメリットがあり、取り扱うコンテンツや利用したいシーンごとでその採否・向き不向きが選べるはずである。

システムや仕組みの可能性を探るとき、本当は電子書籍のライセンスや利用の対価なども同時に検討しなければならない。本事業では部分的にとどまるものの、システムや仕組みの可能性と、その検討に必要ないくつかの重要な観点について明らかにすることができ

た。課題に対する技術的解決が重要であるのと同様に、それを用いる現場の理念や理想の設計も重要であることが改めて確認できた。

3.3 教職員の電子書籍活用を支える研修カリキュラム

本事業のなかで収集した教員向けのアンケートの結果をみると、学校で電子書籍を活用するに際しての不安として、「ICT 機器の故障やトラブル」「ICT や電子書籍についての知識・スキル」「授業等で活用する方法・スキル」などが多くの教員から挙げられた。また、研修に求めるものとして、「授業での活用方法」「実践例」「機能の説明」などが多く挙げられている。電子書籍の活用を図っていくには、これらの不安を解消でき、ニーズを充たすような内容で行われる研修が必要となろう。

そこで、筆者らは、表 3-1 に示す研修カリキュラム案を作成した。全 15 回、1 回当たり 60 分で行う研修とした。15 回全ての受講を原則とするが、7～12 回を除くと 1 回完結型の内容なので、受講者の関心に応じて特定の回だけの受講も可能である。

表 3-1 電子書籍活用を支える教職員研修カリキュラム案

回	内容	形式
1	ICT 機器の最新動向 →今さら聞けない ICT の基礎を学ぶ	講義・演習
2	ICT コンテンツ・サービスの最新動向 →「小説家になろう」、SNS 等の動向と実際を学ぶ	講義・演習
3	電子書籍の理論 →電子書籍の仕組み、紙の書籍との違い等を学ぶ	講義
4	電子書籍の実際 →電子書籍の実際を利用しながら学ぶ	演習
5	電子書籍とデジタル教科書の関係	講義
6	学校図書館における ICT・電子書籍の位置づけと取扱い	講義
7～12	学校における ICT・電子書籍の活用法 →授業での活用と読書での活用の両面を事例から学び、実際にやってみる	講義・演習
13	ICT・電子書籍と知的財産権 →著作権等について学ぶ	講義
14	情報モラルの意義と指導	講義
15	まとめ：これからの学校図書館と電子書籍	シンポ

研修の形式としては、講義に終始するのではなく、実際に電子書籍のコンテンツを利用してみたいり、ワークショップや模擬授業を行うなどの演習形式も取り入れている。したが

って、受講人数は10~15人程度の少人数を想定している。受講対象としては、小学校、中学校、高等学校およびこれらに準ずる義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校の現職の教職員（特に、司書教諭、学校司書）を想定した。

本事業の成果としての上記カリキュラム案をもとに、2017（平成29）年度においては、実際に研修会を実施して、効果測定を行う予定である。研修の受講者へのアンケートやヒアリングを実施し、その結果をふまえたカリキュラムの修正・改善を行うとともに、全国の教育委員会等で広く活用してもらえるようにカリキュラムに即した研修テキストや映像教材等の制作も検討していきたい。

3.4 電子書籍活用のあり方

実際に学校に電子書籍が導入された場合、どのような活用が可能だろうか。本事業での実証実験を受けて、学校図書館、あるいは学校における活用のリテラシーと授業実践について幾つかの提案を試みたい。

3.4.1 実践を検討する上での前提

学校図書館における電子書籍の活用については、大きく分けて「個人利用」と「授業利用」がある。また運用方法については、「校内のみの利用」か、「自宅等でも利用可能」とするか、さらに端末を選ばず利用できるか等、学校ごとの判断が求められるところであろう。さらに電子書籍を利用する理由については、大きく分けて、読み物を中心とした読書や文学観賞としての活用と、興味・関心に基づいた情報収集および授業等における調べ学習等での活用に分けられると考える。

3.4.2 個人利用における電子書籍活用のあり方

まず、個人利用においては、その利用可能場所が校内のみの場合は、時間や端末が限定されるため、継続的な読書には繋がりにくいので、個人の読書としては定着しにくいだろう。また、場所や端末を選ばず利用できた場合、利用が広がる可能性もあるが、その際に問題になるのはやはりコンテンツであり、児童生徒が読みたいと思うタイトル、あるいは興味関心を広げるタイトルの充実が必須であると思われる。紙の書籍を読む児童生徒は、方法が変わっても読書に繋げる方策はあると思われるが、日常的に読書をしない児童生徒

を、いかに「電子書籍」というツールを活用しながら取り込んでいくかは、今後の課題である。デジタルを使いこなす現代の子どもたちにとって、電子書籍は魅力的なツールのはずである。電子書籍だからこそできること、たとえば、手軽にいつでも利用できる、何冊も持ち運べる、スマートフォン等で利用できる等の特徴を生かしていくことが考えられる。

では、個人利用の場合に、学校図書館ができることはなんだろうか。校内のみの利用の場合は、直接児童生徒に働きかけることも可能であろうが、場所を選ばず個人的に読めるということになれば、来館せずに終わってしまう可能性もある。そこで、学校図書館としての関わりとして考えられることは、各校での電子図書館における書籍の紹介等が考えられる。今回の実証実験でも、電子図書館（「クラウド型」）の中で特集を組んだり出版社ごとのコーナーを作成したりするなどの方法を試みた。学校図書館における、本棚や特集の組み方とも共通する部分である。つまり、電子図書館の作り方により、児童生徒の読書量や傾向に影響を与える可能性がある。各校ごとに工夫ができることは、電子図書館におけるひとつの重要な機能となるであろう。

また、その利用を個々の読書意欲に任せてしまうのではなく、紙の書籍と同様に新着図書を紹介やよく読まれたタイトルのランキング等を紹介したりすることも必要である。電子図書館内でのアナウンスの他、学校図書館での掲示、あるいは紙の図書館便り等での告知があっても良いだろう。このように、学校図書館ならではの、デジタルと紙の両方からの読書へのアプローチが可能である。

読書については、もう一つ電子書籍の可能性に期待していることがある。それは、紙の書籍より電子書籍の方が読みやすいと感じる児童生徒の存在である。自由な読書が本人の好みに委ねられるように、それらを読む方法も個人の判断に委ねられているはずである。であるならば電子書籍は、紙という媒体によって読書を制限、あるいは読書から排除されていたかもしれない児童生徒にとって、読書へと繋がる新しい有効な手段となり得るのではないだろうか。

3.4.3 授業利用における電子書籍活用のあり方

一方、授業での活用においては、どのようなことが可能だろうか。たとえば読書案内、あるいは文学作品を読むと言った授業であれば、総合的な学習の時間や国語等での活用が可能だろう。授業において、該当の作品をスクリーン等で拡大表示して全体に示すこと

第3章 本事業をふまえての提案

で、クラス内での共有もできる。克服すべき課題はあるとは思うが、マルチアクセスを可能にすることで、ひとつのタイトルをクラス全体での群読や読書会として活用したり、あるいは教科書では一部しか読めなかったタイトルを通読したり、教科書で取り上げられなかった箇所を取り上げたりするなどの活用方法も可能になる。ラインを引いたり、辞書に飛べたり、あるいは互いの感想を書き込みながら共有するようなことができれば、授業活用での可能性はさらに広がる。紙の資料にはできない電子書籍ならではの機能が、授業活用において期待される場所である。

それでは、文学作品以外の、興味・関心に基づいた情報収集および、授業等における調べ学習等での活用についてはどうだろうか。学校図書館の中には、百科事典や新聞記事検索ができるデータベースを導入しているところもあるだろう。一次的には、これらのデータベースを使った情報収集の方が手軽で有効でもある。そこで、さらに電子図書館には、そこから一歩進んだ専門的な知識を得ることができるコンテンツが求められる。これらのタイトルが充実すれば、今まで机の上で広げていた紙の資料を、一箇所の端末で比較しながら読むことができる。このことは調べ学習等において、時間やスペースの節約にもなるだろう。

さらに、学校図書館においては、たとえば図書委員会を中心とした校内イベントに活用することも可能だろう。電子書籍を活用したお話会や読書会、ブックトークなどの活用方法も考えられる。また、校外でも利用が可能であれば、宿題としての活用もできる。今回の実証実験において、教員側から、「新書を読むことを課題にしたい」という声もあった。このように新書や学習のテーマにしやすいタイトルがあれば、この中から読んでレポートを作成せよと言った活用方法も考えられるし、自宅での利用が可能であれば自宅学習にも繋げることができる。一人1台タブレットが支給される等、学校におけるICT化が進む中で、それらを活用する有効なツールとして、電子書籍の可能性に期待したいところである。

3.5 電子書籍概念の拡張と「新たな読書空間」の出現

本事業で行った児童生徒向けのアンケート結果を分析した上で、今後の電子書籍の利活用において特に重要と思われる点について、取り上げておくことにする。

3.5.1 紙の書籍より電子書籍の方が読みやすい

電子書籍について、小学校高学年生が平均を大きく上回って「使いやすい」「読みやすい」と指摘している。一方、高校生になると、本をよく読む生徒を中心に「紙の本が好き」といった声が聞こえてくる。また、「これからも学校の図書館で電子書籍を使いたいか」という問いに対して、校種が下がるほど「ぜひ使いたい」「あれば使いたい」と肯定的にとらえる率が高くなる。小学校高学年では、高校生の実に3倍の37%の児童が「ぜひ使いたい」と答えている。

一般的に小学生のほうが、中高生よりもメディアに対する固定概念がなく、新しいメディアに対しても抵抗なく受け入れていると考えられる。また、低学年ほど小さいうちからスマートフォンやタブレットPCを利用している習慣が反映しているのとらえることができる。

従来からの読書運動や読み聞かせ活動では、デジタルではなく紙の本を読むことをよしとする声が多い。このような考え方や学校教育が、学年が上がるにしたがって児童生徒に浸透し、一方、電子メディアが好きな児童生徒を学校図書館から足を遠ざけることにもつながっていないだろうか。電子書籍に対する抵抗感が高学年ほど高いことに注目するよりも、小学生など低学年に向けて良質な作品を提供し、正しい接し方を指導するべきだと考える。

3.5.2 デジタルコンテンツを読むことは「読書」なのか

「電子書籍を読んでいない」と回答した児童生徒の中で、3割程度の児童生徒がデジタルコミックの利用者であった。また15%の児童生徒が小説投稿サイト「小説家になろう」を電子書籍ととらえていないという結果となった。つまり、デジタルコミックやデジタル小説というコンテンツを書籍雑誌メディアの延長上でとらえる認識の仕方ではなく、ゲームや音楽と同様にスマートフォンなどで入手できるコンテンツとしてとらえていると考え

ることができる。このことは、単に電子書籍の定義を知らない、と解釈するのではなく、むしろ古い枠組みから自由で、新しいメディアに対して固定概念のない柔軟なとらえ方ととるべきではないだろうか。

ディスプレイで小説投稿サイトなどの作品を読むことを従来型「読書」ととらえない認識方法は、今後も勢いを増し、旧来の読書概念に取り込まれるどころか、むしろ、古い概念を壊して、ディスプレイ上に新たな「読書空間」を出現させることが予想される。

今回、提供した電子書籍は、そのすべてが印刷物として出版された書籍の電子版である。つまり、これまで電子書籍ととらえていたものは、書籍の電子化、電子的レプリカ版にすぎないのである。ところが最近では、ポーンデジタルとして生み出された文芸作品が、ネットで注目されたことをきっかけに印刷書籍化される例が多くなってきた。

また、小説投稿サイト「小説家になろう」の利用者（読者）のうち、実に2割の生徒が「月に1冊も本を読んでいない」と回答している。この生徒たちは、今まで「本を読まない子」として扱われ、あるいは紙の本を読むように読書指導され、不読者として統計処理されてきた生徒である。従来型の読書調査では、「小説家になろう」などのデジタル小説を閲覧することを読書ととらえてはいない。実際には、このような読書感では、とらえきれない世界で、生徒たちは「電子書籍」を読み、「読書」しているのである。

繰り返しになるが、電子書籍の概念は拡張され、デジタルから紙へといったデジタルファースト作品や、デジタルコンテンツだけで消費される作品が、新たな「読書空間」で読まれ始めている。そこではネオ・デジタル世代に属する、新たな読書世代が育ち始めているのである。次世代に向けて、「読書」を再構築する段階になったと言えよう。

終わりにかえて

本報告書は、公益財団法人図書館振興財団における平成28年度振興助成事業「学校図書館における電子書籍利用モデルの構築」の成果報告です。

事業の遂行にあたっては、出版社からの電子書籍の提供と校種別に事業協力校の存在が不可欠でした。そこで学校図書館向け電子書籍は、岩崎書店、偕成社、学研プラス、KADOKAWA、講談社、小学館、ポット出版、ポプラ社、各社様に協力を仰ぎご提供いただきました。本事業を実現するためには、試験的に構築した電子書籍利用モデルの上で、現在、商業流通している電子書籍を利活用（マルチメディアアクセス）できることが必須です。各社においては、事業目的を説明すると、直ちに賛同いただき、無償での利用を快くお認めいただきました。提供いただいた電子書籍リストは資料編を見ていただくとして、ご尽力を惜しまなかった出版各社と関係者に改めてお礼申し上げます。

さらに、実証事業に賛同いただき、協力いただきました各学校、各教育委員会に感謝申し上げます。諸々の手続き、教職員・児童生徒・保護者への説明、システムの対応、さらにアンケートやヒアリング調査など、多大な労力をおかけすることになりました。無事に期間内で事業を終えられましたのも、様々な作業に派生する諸問題に直ちに対応いただいた関係者のおかげです。

最後になりましたが、事業にご協力いただきました、すべての人に感謝申し上げます。

本事業の成果が、学校図書館、電子書籍事業の発展に少しでも役立てばと願っております。そして児童生徒の読書の未来を拓く一助となれば、事業関係者一同の喜びです。

【学校図書館電子書籍利用モデル構築事業委員会】

委員長 山崎榮三郎：電流協・電子図書館部会・部会長（情報システム・教育工学）

副委員長 野口武悟：専修大学・教授（図書館情報学）

委員 有山裕美子 工学院大学附属中学・高等学校・司書教諭（児童文学）

委員 植村八潮：専修大学・教授（出版学）

委員 沢辺均：版元ドットコム(責)職務執行者・(株)ポット出版代表取締役(出版事業者)

委員 竹村和子：(公社)全国学校図書館協議会・常務理事（図書館情報学）

委員 森田盛行：(公社)全国学校図書館協議会・理事長（図書館情報学）

事務局 (一社)電子出版制作・流通協議会事務局

オブザーバ（常任）：電流協参加企業（DNP、凸版、その他）

オブザーバ（随時）：出版社等その他企業

【資料編】

【資料 1 : 教職員向けアンケート】

【資料 2 : 生徒向けアンケート】

【資料 3 : 生徒向けアンケート（イベント用）】

【資料 4 : 生徒向けアンケート（クラウド型）】

【資料 5 : 児童向けアンケート】

【資料 6 : 実証実験実施内容調査票】

【資料 7 : 実証実験への協力依頼】

【資料 8 : 電子図書館利用ガイド】

【資料 9 : 教職員向けヒアリング項目】

【資料 10 : 工学院・保護者向け説明資料】

【資料 11 : 工学院・電子書籍利用説明資料】

【資料 12 : クラウド型・電子書籍収録作品リスト】

【資料 13 : スタンドアロン型・小学校向け電子書籍収録作品リスト】

【資料 14 : スタンドアロン型・中学校向け電子書籍収録作品リスト】

電子書籍利用に関するアンケート【教職員用】

電子書籍実証実験にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。電子書籍とその利活用についてのお考えやご意見をお聞かせください。

【1】電子書籍の利用について

【1-1】あなたご自身が日常生活において利用している ICT 機器は、以下のうちどれですか。当てはまるもの全てに○（丸）をつけてください。

- ① スマートフォン
- ② タブレット端末
- ③ パソコン
- ④ 携帯電話（ガラパゴスケータイ、フィーチャーフォン）
- ⑤ 電子書籍専用機（例：kindle、kobo 等）
- ⑥ その他（ ）

【1-2】あなたご自身は、今回の実証実験にご協力いただく以前に電子書籍を読んだことがありますか。当てはまる方に○（丸）をつけてください。

- ① はい
- ② いいえ

【1-3】あなたは、今回の実証実験でお使いいただいた電子書籍専用機の使いやすさ・読みやすさについて、それぞれ当てはまるところに○（丸）をつけてください。



	満足	やや満足	やや不満	不満
(1) 使いやすさ	----- ----- ----- -----			
(2) 読みやすさ	----- ----- ----- -----			

【資料1：教職員向けアンケート】

【1-4】今回お使いいただいた電子書籍専用機の使いやすかった点と使いづらかった点をそれぞれお聞かせください。

(1)使いやすかった点

()

(2)使いづらかった点

()

【1-5】あなたは、今回の実証実験でお使いいただいた電子図書館の使いやすさ・読みやすさについて、それぞれ当てはまるところに○(丸)をつけてください。



満足 やや満足 やや不満 不満

(1)使いやすさ |-----|-----|-----|-----|

満足 やや満足 やや不満 不満

(2)読みやすさ |-----|-----|-----|-----|

【1-6】今回お使いいただいた電子図書館の使いやすかった点と使いづらかった点をそれぞれお聞かせください。

(1)使いやすかった点

()

(2)使いづらかった点

()

【2】電子書籍の学校図書館への導入や活用について

【2-1】あなたは、学校図書館に電子書籍を導入することについてどのようにお考えですか。当てはまる方に○(丸)をつけてください。また、その理由をお聞かせください。

- ① 導入してほしい
- ② 導入してほしくない

理由： ()

*前問で「(2)導入してほしくない」を選んだ方も、以降の質問には、導入された場合を想定してお答えください。

【資料1：教職員向けアンケート】

【2-2】あなたは、学校図書館に電子書籍が導入されたとしたら、どのように活用したいですか。当てはまるもの全てに○〈丸〉をつけてください。また、現時点で考える活用例をお聞かせください。

- ① 授業・学習活動 [活用例：]
- ② 読書活動 [活用例：]
- ③ その他 [活用例：]

【2-3】あなたは、学校で電子書籍を活用するに際して、どのような機能があると便利だと思いますか。当てはまるもの全てに○〈丸〉をつけてください。

- ① メモ等が書き込みできる機能
- ② 映像が再生できる機能（マルチメディア機能）
- ③ 紙に出力できる機能
- ④ 文字拡大の機能
- ⑤ 音声読み上げの機能
- ⑥ 文字と背景色の反転機能
- ⑦ その他[]

【2-4】あなたは、学校で電子書籍を活用するに際して、どのようなジャンルの作品があると便利だと思いますか。当てはまるもの全てに○〈丸〉をつけてください。また、活用したい電子書籍の具体的な作品がある場合には、そのタイトルをお聞かせください。

- ① 総記（百科事典、情報科学、図書館などを含む）[NDCの0類]
- ② 哲学（思想、宗教、心理学などを含む）[NDCの1類]
- ③ 歴史 [NDCの2類]
- ④ 社会科学（政治、経済、教育などを含む）[NDCの3類]
- ⑤ 自然科学（数学、物理学、化学、生物学、地学などを含む）[NDCの4類]
- ⑥ 技術・工学（家政学などを含む）[NDCの5類]
- ⑦ 産業 [NDCの6類]
- ⑧ 芸術・スポーツ [NDCの7類]
- ⑨ 言語 [NDCの8類]
- ⑩ 文学 [NDCの9類]

具体的な作品タイトル：

()

【2-5】あなたは、学校で電子書籍を活用するに際して、どのようなことが不安ですか。当てはまるもの全てに○〈丸〉をつけてください。

【資料1：教職員向けアンケート】

- ① ICTや電子書籍についての知識・スキル
- ② 学校および学校図書館内のICT環境
- ③ ICT機器の故障やトラブル
- ④ 授業等で活用する方法・スキル
- ⑤ 管理職や同僚教員の理解や反応
- ⑥ セキュリティ
- ⑦ その他 []

【2-6】あなたが電子書籍に関する研修を受講するとしたら、どのような内容の研修を受けたいですか。具体的にお聞かせください。

【2-7】その他、電子書籍に関してのご意見をお聞かせください。

最後に、ご担当教科等についてうかがいます。

*担当教科（中学・高校の場合）： []

*担当学年（小学校の場合）： [] 年

*教職歴： [] 年

質問は以上です。ご多忙のところ、ご協力ありがとうございました。

電子書籍利用に関するアンケート

電子書籍実証実験にご協力いただきありがとうございました。

普段の読書や電子書籍に関して、あなたの考えをお聞かせください。

【1】 普段の読書活動について

【1-1】あなたは普段1ヶ月に何冊ぐらい本や雑誌を読みますか。該当するところに冊数を書いてください。
1冊も読まない場合は0と書いてください。

(1)書籍 (冊)

(2)雑誌・マンガ雑誌 (冊)

(3)コミックス (冊)

【1-2】1日当たりどれくらいの時間読書をしますか。大体の平均時間を教えてください。まったく読書をしていない場合は0と書いてください（授業中の読書時間は除きます）。

1日()時間()分

【1-3】学校図書館を普段どれくらいの頻度で利用しますか。当てはまるものに○をつけてください。

- (1)ほとんど毎日
- (2)週に3～4回
- (3)週に1～2回
- (4)月に1～2回
- (5)ほとんど行かない

【2】 電子書籍について

【2-1】今までに電子書籍を読んだことがありますか。

- (1)はい
- (2)いいえ

【資料 2：生徒向けアンケート】

【2-2】インターネットに接続している以下の電子機器を何台持っていますか。それぞれご自身が普段利用できる台数を教えてください（家族と共有のものも含みます）。また、それぞれの電子機器を1日にどれくらい利用しますか。平均的な時間を教えてください。

- | | | | | |
|----------------|--------|---------|--------|--------------------------|
| (1)スマートフォン |台 |時間 |分 | (例：iPhone、Android 等) |
| (2)タブレット端末 |台 |時間 |分 | (例：iPad、Fire) |
| (3)パソコン |台 |時間 |分 | (デスクトップ型、ノート型) |
| (4)携帯電話 |台 |時間 |分 | (ガラパゴスケータイ、フィーチャーフォン) |
| (5)電子書籍専用機 |台 |時間 |分 | (例：kindle、kobo 等) |
| (6)携帯型ゲーム機 |台 |時間 |分 | (例：ニンテンドー3DS、PS VITA など) |
| (7)家庭用ゲーム機 |台 |時間 |分 | (例：Wii U、PS3、PS4 など) |
| (8)その他 (.....) |台 |時間 |分 | |

【2-3】以下のサービスを利用したことがありますか。当てはまるサービスについて、番号を〈丸〇〉で囲んでください。また、特に利用する頻度の高いものには〈二重丸◎〉で囲んでください。

- | | | |
|----------------|-------------------|---------------|
| ① iBookstore | ⑪ Fujisan. co. jp | ⑳ マンガボックス |
| ② ebookjapan | ⑫ コミックシーモア | ㉑ マンガワン |
| ③ kindle | ⑬ パピレス | ㉒ LINE マンガ |
| ④ Booklive! | ⑭ まんが王国 | ㉓ Arcadia |
| ⑤ BOOK WALKER | ⑮ めちゃコミック | ㉔ アルファポリス |
| ⑥ honto | ⑯ 楽天マンガ | ㉕ エブリスタ |
| ⑦ Yahoo!ブックス | ⑰ Renta! | ㉖ カクヨム |
| ⑧ 楽天 kobo | ⑱ comico | ㉗ 小説家になろう |
| ⑨ Reader Store | ⑲ ニコニコ静画 (マンガ) | ㉘ ハーメルン |
| ⑩ d マガジン | ㉚ pixiv | ㉙ その他 (.....) |

※以下の設問【3】と設問【4】については、電子書籍専用機か電子図書館のどちらか一方だけを利用した場合には、利用したものの設問にのみお答えください。

【3】電子書籍専用機について

【3-1】今回使った電子書籍専用機で電子書籍を何タイトル読みましたか。

.....タイトル



【資料 2：生徒向けアンケート】

【3-2】今回使った電子書籍専用機の使いやすさ・読みやすさについて、それぞれ当てはまる箇所に〈丸〇〉をつけてください。

	満足	やや満足	やや不満	不満
(1) 使いやすさ	----- ----- ----- -----			
	満足	やや満足	やや不満	不満
(2) 読みやすさ	----- ----- ----- -----			

【3-3】今回使った電子書籍専用機の使いやすかった点と使いづらかった点をそれぞれお聞かせください。

(1) 使いやすかった点
()

(2) 使いづらかった点
()

【4】電子図書館について

【4-1】今回使った電子図書館で電子書籍を何タイトル読みましたか。

.....タイトル



【4-2】今回使った電子図書館の使いやすさ・読みやすさについて、それぞれ当てはまる箇所に〈丸〇〉をつけてください。

	満足	やや満足	やや不満	不満
(1) 使いやすさ	----- ----- ----- -----			
	満足	やや満足	やや不満	不満
(2) 読みやすさ	----- ----- ----- -----			

【4-3】今回使った電子図書館の使いやすかった点と使いづらかった点をそれぞれお聞かせください。

(1) 使いやすかった点
()

(2) 使いづらかった点
()

【資料 2：生徒向けアンケート】

【5】電子書籍や今回の実験について

【5-1】あなたが今回読んだ電子書籍でおもしろかった作品タイトルを教えてください。
(下の枠内に書けるだけ書いてください。)

【5-2】これからも学校の図書館で電子書籍を使いたいと思いますか。またその理由を教えてください。

- (1) ぜひ使いたい
- (2) あれば使いたい
- (3) 使いたくない

理由：()

【5-3】電子書籍を使ってみていかがでしたか。感想や意見をお聞かせください。

あなたの学年を教えてください。

学年 () 年

質問は以上です。

ご協力ありがとうございました。

本日はお越しいただきありがとうございました

お手数ではありますが、アンケートにご協力ください。

なお、このアンケートは研究以外の目的で利用することはありませんので、ご了承ください。

質問1：あなたは普段どのくらい紙の本を読みますか？

- ①書籍（ 冊）
- ②雑誌（ 冊）
- ③マンガ（ 冊）

質問2：あなたはインターネットに接続できる以下の機器を何台所有していますか(家族と共有のものも含みます)。それぞれの台数をお答えください。また、それらの機器を1日あたりにどのくらい利用するかもお答えください。

- ①スマートフォン（ 台）
- ②タブレット端末（ 台） それらの機器の利用時間
- ③パソコン（ 台） 1日（ ）時間
- ④携帯電話(ガラパゴスケータイ)（ 台）
- ⑤電子書籍専用リーダー（ 台）
- ⑥その他()（ 台）

質問3：あなたは電子書籍を読んだことがありますか？当てはまる番号を〈丸〇〉で囲んでください。

- ① ある
- ② ない

質問4：あなたは以下のサービスを利用したことがありますか？当てはまるサービスについて、番号を〈丸〇〉で囲んでください。また、特に利用する頻度の高いものには〈二重丸◎〉で囲んでください。

- | | | |
|-------------------|---------------|-----------|
| ① ebookjapan | ⑬ Rental! | ⑳ 楽天マンガ |
| ② Booklive! | ⑭ めちゃコミック | ㉑ Arcadia |
| ③ DMM 電子書籍 | ⑮ ソク読み | ㉒ アルファポリス |
| ④ honto | ⑯ Yahoo!ブックス | ㉓ E★エブリスタ |
| ⑤ kindle | ⑰ LINE マンガ | ㉔ カクヨム |
| ⑥ 楽天 kobo | ⑱ まんが王国 | ㉕ comico |
| ⑦ Reader Store | ⑲ まんがこっち | ㉖ 小説家になろう |
| ⑧ BOOK WALKER | ⑳ ニコニコ静画(マンガ) | ㉗ ハーメルン |
| ⑨ MAGASTORE | ㉑ d マガジン | ㉘ Pixiv |
| ⑩ GALAPAGOS STORE | ㉒ パピレス | ㉙ ルートノベル |
| ⑪ iBookstore | ㉓ マンガワン | ㉚ その他 |
| ⑫ コミックシーモア | ㉔ マンガボックス | () |

電子書籍利用に関するアンケート

電子書籍実証実験にご協力いただきありがとうございました。

普段の読書や電子書籍について、あなたの考えをお聞かせください。

【1】あなたは普段1ヶ月に何冊ぐらい本や雑誌を読みますか。該当するところに冊数を書いてください。1冊も読まない場合は0と書いてください。

1. 書籍 (冊)
2. 雑誌・マンガ雑誌 (冊)
3. コミックス (冊)

【2】インターネットに接続している以下の電子機器を何台持っていますか。それぞれご自身が普段利用できる台数を教えてください（家族と共有のものも含みます）。また、それぞれの電子機器を1日にどれくらい利用しますか。平均的な時間を教えてください。

- | | | | | |
|---------------|---|----|---|--------------------------|
| (1)スマートフォン | 台 | 時間 | 分 | (例：iPhone、Android 等) |
| (2)タブレット端末 | 台 | 時間 | 分 | (例：iPad、Fire) |
| (3)パソコン | 台 | 時間 | 分 | (デスクトップ型、ノート型) |
| (4)携帯電話 | 台 | 時間 | 分 | (ガラパゴスケータイ、フィーチャーフォン) |
| (5)電子書籍専用リーダー | 台 | 時間 | 分 | (例：kindle、kobo 等) |
| (6)携帯型ゲーム機 | 台 | 時間 | 分 | (例：ニンテンドー3DS、PS VITA など) |
| (7)家庭用ゲーム機 | 台 | 時間 | 分 | (例：Wii U、PS3、PS4 など) |
| (8)その他 () | 台 | 時間 | 分 | |

【3】あなたはこれまでに電子書籍を読んだことがありますか。

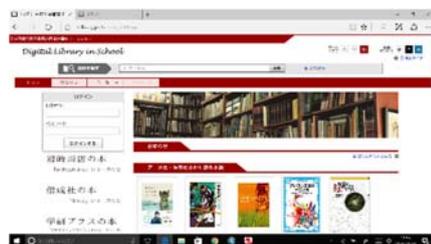
1. ある
2. ない

【4】あなたはどちらの電子書籍サービスを利用しましたか。

1. 電子書籍専用機器



2. 電子図書館



【資料4：生徒向けアンケート（クラウド型）】

【5】あなたが今回利用した電子書籍は何ですか。タイトルを教えてください。

1. タイトル「」
2. タイトル「」
3. タイトル「」

【6】今回使った電子書籍サービスの使いやすかった点と使いづらかった点をそれぞれお聞かせください。

(1)使いやすかった点

()

(2)使いづらかった点

()

【7】これからも学校の図書館で電子書籍を使いたいと思いますか。また、その理由を教えてください。

(1)ぜひ使いたい

(2)あれば使いたい

(3)使いたくない

理由：()

【8】電子書籍に関してご意見やご感想があればご記入ください。

あなたの学年を教えてください。

学年 (年)

質問は以上となります。ご協力ありがとうございました。

電子しょせきについてのアンケート

ごきょう力いただきありがとうございます。

あなたがいつも読んでいる本や電子しょせきについて、あなたの考えを教えてください。

【1】いつもの読書活動について

【1-1】あなたは1ヶ月に何さつぐらい本やざっしを読みますか（マンガもいいです）。1さつも読まない場合は0と書いてください。

(1)本 (さつ)

(2)ざっし (さつ) (れい：週刊少年ジャンプ、りぼん、nicola など)

(3)そのほかの本 (さつ) (れい：まんが日本昔話、ワンピース 1巻 などのまんが本)

【1-2】ふだん1日にどれぐらいの時間本を読みますか。その平きん時間を教えてください。まったく読書をしていない場合は0と書いてください（じゅぎょう中の読書時間は入れません）。

1日()時間()分

【1-3】学校の図書室をふだんどれぐらい使っていますか。当てはまるものに○をつけてください。

- (1)ほとんど毎日
- (2)週に3～4回
- (3)週に1～2回
- (4)月に1～2回
- (5)ほとんど行かない

【3】電子しょせきについて

【2-1】今までに電子しょせきを読んだことがありますか。

- (1)はい
- (2)いいえ

【資料5：児童向けアンケート】

【2-2】インターネットにつながるきかいを何台持っていますか。それぞれあなたがいつも使っている台数を教えてください（家族といっしょに使うものも入ります）。また、それぞれのきかいを1日にどれくらい使っていますか。その時間を教えてください。

(1)スマートフォン	台	時間	分	(れい：アイフォン、アンドロイド等)
(2)タブレット（コンピュータ）	台	時間	分	(れい：アイパッド、Fire)
(3)パソコン	台	時間	分	
(4)けいたい電話	台	時間	分	(ガラパゴスケータイ、フィーチャーフォン)
(5)電子しょせきせん用機	台	時間	分	(れい：キンドル、kobo 等)
(6)ゲーム機	台	時間	分	(れい：ニンテンドー3DS、PS VITA など)
(7)家庭用ゲーム機	台	時間	分	(れい：Wii U、PS3、PS4 など)
(8)その他（ ）	台	時間	分	

【2-3】次のサービスを使ったことがありますか。当てはまるサービスについて、番号を〈丸〇〉をつけてください。また、一番使う回数が多いものは〈二重丸◎〉をつけてください。（わかるものだけかいてください）

- | | | |
|-----------------|------------------------------|-----------|
| 21 iBookstore | 31 Fujisan. co. jp | ㉑マンガボックス |
| 22 ebookjapan | 32 コミックシーモア | ㉒マンガワン |
| 23 kindle | 33 パピレス | ㉓LINE マンガ |
| 24 Booklive! | 34 まんが王国 | ㉔Arcadia |
| 25 BOOK WALKER | 35 めちゃコミック | ㉕アルファポリス |
| 26 honto | 36 楽天マンガ | ㉖エブリスタ |
| 27 Yahoo!ブックス | 37 Renta! | ㉗カクヨム |
| 28 楽天 kobo | 38 comico | ㉘小説家になろう |
| 29 Reader Store | 39 ニコニコ ^{せい} 画（マンガ） | ㉙ハーメルン |
| 30 d マガジン | 40 pixiv | ㉚その他（ ） |

【3】電子しょせきせん用機^きについて

【3-1】今回使った電子しょせきせん用機^きで電子しょせきを何さつ読みましたか。
 (.....)さつ



【資料 5：児童向けアンケート】

【3-2】今回使った電子しょせきせん用機^きの使いやすさ・読みやすさについて、それぞれ当てはまるところに〈丸〇〉をつけてください。

	使いやすい	やや使いやすい	やや使いづらい	使いづらい
(1) 使いやすさ	----- ----- ----- -----			
	読みやすい	やや読みやすい	やや読みづらい	読みづらい
(2) 読みやすさ	----- ----- ----- -----			

【3-3】今回使った電子しょせきせん用機^きの使いやすかった点と使いづらかった点をそれぞれ教えてください。

(1) 使いやすかった点
()

(2) 使いづらかった点
()

【4】電子図書館について

【4-1】今回使った電子図書館で電子しょせきを
何さつ読みましたか。
...(.....)さつ



【4-2】今回使った電子図書館の使いやすさ・読みやすさについて、それぞれ当てはまるところに〈丸〇〉をつけてください。

	使いやすい	やや使いやすい	やや使いづらい	使いづらい
(1) 使いやすさ	----- ----- ----- -----			
	読みやすい	やや読みやすい	やや読みづらい	読みづらい
(2) 読みやすさ	----- ----- ----- -----			

【4-3】今回使った電子図書館の使いやすかった点と使いづらかった点をそれぞれ教えてください。

(1) 使いやすかった点
()

(2) 使いづらかった点
()

【資料 5 : 児童向けアンケート】

【5】電子しょせきや今回の感想について

【5-1】あなたが今回読んだ電子しょせきでおもしろかった作品の名前を教えてください。
(下にかけるだけ書いてください。)

【5-2】これからも学校の図書室で電子しょせきを使いたいと思いますか。またその理由を教えてください。

- (1) 使いたい
- (2) あれば使いたい
- (3) 使いたくない

理由：()

【5-3】電子しょせきを使ってみていかがでしたか。感想や意見を教えてください。

あなたの学年を教えてください。

学年 () 年

質問はこれでおわりです。

ごきょう力ありがとうございました。

【資料 6 : 実証実験実施内容調査票】

日付：平成 28 年 月 日

学校図書館電子書籍利用実証実験 実施内容調査票

貴校名 _____

貴部署名 _____

ご担当者名 _____

【実証実験希望期間】

開始日：平成 28 年 月 日 () ~ 終了日：平成 28 年 月 日 ()

【ご利用システム（該当するものにチェックしてください）】

クラウドサーバ型

スタンドアロン型（専用端末） ※ご希望利用台数 台

※専用端末に関しては台数に限りがありますので、必ずしもご希望に沿えない場合がありますので、予めご容赦ください

【クラウドサーバ型利用の場合（該当するものにチェックし、台数、個数を記入ください）】

特定の PC のみでのご利用（その場合の台数 : 台）

ID、パスワードでのご利用（その場合の ID 数 : 個）

【児童・生徒の皆さんへのアンケート】

可 否

【アンケート可の場合のアンケート実施方法】

紙のアンケートを配布し回収いただく

Web アンケートで各自から回答いただく

【教職員の方へのヒアリング・アンケートの可否】

ヒアリングのみ可 アンケートのみ可 どちらでも可

【図書館振興財団への報告書やそのほかの公表資料への貴校名記載の可否】

可 否

【公表資料公開前の中間発表のセミナーや広報活動における貴校名記載の可否】

可 否

以上

【資料 7：実証実験への協力依頼】

学校長 様
学校図書館ご担当者 様

学校図書館における電子書籍利用環境構築のための合同プロジェクト
一般社団法人 電子出版制作・流通協議会
専修大学 電子書籍研究プロジェクト
(公印省略)

学校図書館における電子書籍利用環境構築のための実証調査への協力をお願い

拝啓

晩秋の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、私どもでは、標記の調査を主に首都圏の学校を対象に実施することにいたしました。具体的には、学校図書館で使いやすく、かつ教育を支援する電子書籍システムとは、どのようなものか、そのための指導者向け導入プログラムには、何が求められるのか、検討したいと考えております。

◎調査の背景と目的

現在、文部科学省では、デジタル教科書に関する検討を進めています。また、出版界でも、児童生徒向けの電子書籍の供給に向けた動きが活発化しています。こうしたなかで、各学校では電子書籍等を含めた「多様なメディアを活用した学習・情報センターとしての学校図書館の機能」を一層強化していくことが求められます（文部科学省『教育の情報化ビジョン』、平成 23 年）。

一方、私どもが昨年、全国の小・中・高校の学校図書館担当者に調査したところによると、学校図書館において電子書籍を導入しているところは皆無であったものの、今後導入していきたいと考える学校図書館はいずれの校種においても半数以上にのぼりました。しかしながら、今のところ、児童生徒の使える学校向けの電子書籍システムはなく、また、司書教諭・学校司書ら指導者への電子書籍活用に向けての研修プログラムも整備されていません。

そこで、本調査では、私どもで用意した電子書籍システム（パイロット版）を実際に教職員・児童生徒の間で利用していただくことで、どのようなシステムであれば学校への負担が少なく、かつ安心して利用し、学びあえるのかを検討したいと考えています。

◎調査の方法と期間

電子書籍をインストールした電子書籍専用端末、もしくは汎用端末（タブレット PC 等）でアクセス可能な電子書籍システムを貴校の学校図書館内で実際に使っていただいた上で、操作性や読みやすさ、作品などに対する要望について調査したいと思います。

なお、私どもで事前に貴校の司書教諭・学校司書を対象とした操作講習等を行いたいと思いますので、それをふまえて司書教諭・学校司書には児童生徒に対する利用のガイダンスをお願いします。また、今回用いる電子書籍の作品は、事前に全国学校図書館協議会の関係者に学校図書館にふさわしい作品と確認いただいたものです。

【資料 7：実証実験への協力依頼】

期間は、今年の 9 月から 12 月の間で、2 ヶ月間ほどを予定しています。期間の途中や終了後に教職員・児童生徒にアンケート等をお願いし、きめ細かな調査にしたいと考えております。

なお、この調査により得られたデータは、調査研究の目的（学会発表や論文文化を含む）以外には使用いたしません。また、教職員・児童生徒の氏名等の個人情報を取得するようなアンケート等はいりません。

◎必要な機材や準備など（学校環境に合わせて 2 種類のシステムを準備しています）

・クラウドサーバ型

インターネットにつながる汎用端末（タブレット PC 等）をご準備下さい。

・スタンドアロン型

電子書籍専用端末を貸し出しますので、児童生徒への貸出や保管をお願いします。

その他、具体的な準備については今後ご相談させていただきます。

◎調査対象予定

小学校と中学校・高等学校 合計 10 校程度

◎調査プロジェクト参加・協力組織

・（一社）電子出版制作・流通協議会

・専修大学文学部 図書館情報学・出版学研究室

・（公社）全国学校図書館協議会

・オブザーバ：電流協参加企業（大日本印刷、凸版印刷、他）、出版社等その他企業

◎実証調査研究助成費

本調査は、次の研究助成費の支援を得ております。

・公益財団法人 図書館振興財団「平成 28 年度振興助成事業」

・文部科学省「平成 28～30 年度科学研究費助成事業（基盤研究（C）」

◎調査に関する問い合わせ先

一般社団法人 電子出版制作・流通協議会

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-2-31 第 36 荒井ビル 8F

TEL：03-6380-8207 FAX：03-6380-8217 URL：<http://WWW.aebs.or.jp>

鈴木 直人（E-mail：suzuki@aebs.or.jp）

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、上記の調査の背景と趣旨にご理解を賜り、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

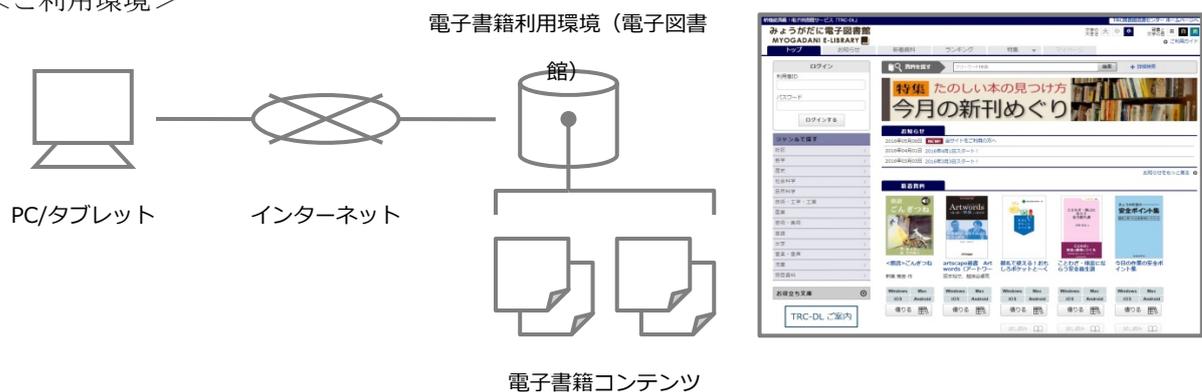
敬具

「学校図書館における電子書籍利用環境構築のための研究」 実施環境のご説明

●クラウドサーバ型

インターネットを使用して PC やタブレット等で電子書籍を閲覧いただけます。ご利用には、事前に配布した ID とパスワードが必要となります。以下、ご利用環境について図示します。

<ご利用環境>



<実証に際してご準備いただくもの・ご提供するもの>

- PC/タブレット： ご準備いただきます
 ※ご準備いただけない場合は別途ご相談に応じます
- インターネット環境： ご準備いただきます
- 電子書籍利用環境： ご提供します(ID 等の発行も含まれます)
 ※動作環境は末尾記載の通りです(基本的に対応できます)
- 電子書籍コンテンツ： ご提供します

■動作環境■

Windows (PC) の場合

OS: Windows Vista / Windows 7 / Windows 8(8.1) / Windows 10
ブラウザ: Internet Explorer 9~11 / Microsoft Edge / Google Chrome 31 以降
(※Windows 環境での Safari 使用は動作保証外となります)

Mac (PC) の場合

OS: Mac OS X 10.8~10.11
ブラウザ: Safari 6~9
(※「プライベートブラウズ」が設定されている場合は閲覧できません)

iOS (iPad/iPhone) の場合

OS: iOS 7~9.0.2
ブラウザ: Safari 7~9
(※「プライベートブラウズ」が設定されている場合は閲覧できません)

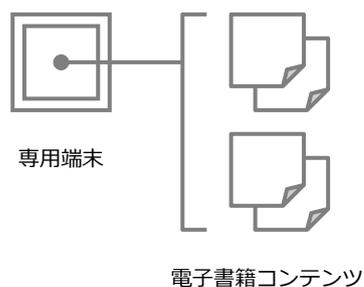
Android の場合

OS: Android 4.1~4.4 / 5.0~5.1
ブラウザ: Google Chrome 31 以降 / 端末搭載標準ブラウザ

●スタンドアロン型

専用端末を使用して電子書籍を閲覧いただきます。端末を起動するとすぐにご利用いただけます。以下、ご利用環境について図示します。

<ご利用環境>



<実証に際してご準備いただくもの・ご提供するもの>

- | | |
|-------------|---|
| ○専用端末: | ご提供します(電池含む)
※お貸出の際には別途利用マニュアルを添付します |
| ○インターネット環境: | (不要です) |
| ○電子書籍利用環境: | (不要です) |
| ○電子書籍コンテンツ: | ご提供します(専用端末に格納されます) |

以上

ご利用ガイド

<ログインする>

実験用のホームページにアクセスして、配布されている ID とパスワードを入力し、ログインします。



<本を探す>

①本や作者の名前、シリーズ名、出版社名から本を探します。

「資料を探す」の入力欄に本の名前やシリーズ名を入れて「検索」ボタンを押してください。



②出版社名から探す

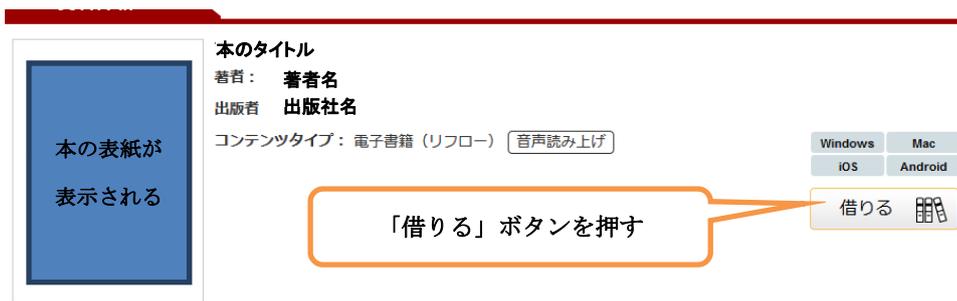
ID などを入力する欄の下にある出版社名をクリックすると、その出版社の本を検索したページが出ますので、そこで本を選んでください。



<本を読む>

【資料 8：電子図書館利用ガイド】

出版社名からジャンプした検索結果ページから本を選んだり、本や著者名で検索すると、読みたい本の詳細説明が出ますので、「借りる」のボタンを押してください。



「借りる」ボタンを押すと「貸出結果」という表示が出ますので、「今すぐ読む」ボタンを押してください。本が読めます。



※一度に借りられる(読める)のは3冊までで、1冊は1週間経つと自動的に返却されます。

※「読む」ボタンを押すと電子書籍が開きます。その際、左下に「SPEAK」というボタンが表示されます。このボタンを押すと音声読み上げが開始されます。



<本を返す>

トップページの「マイページ」のタブを押すと、自分の借りている本が出てきます。返したい本の詳細説明の「返す」ボタンを押すと、その本が返却されます。



【資料 9：教職員向けヒアリング項目】

学校教職員向けヒアリング項目

- 1 実証実験の概要確認
 - 1.1 ヒアリング対象者の職位
 - 1.2 今回の対象者の学年及び人数（電子図書館、専用端末併用の場合はそれぞれ）
 - 1.3 利用状況（例：授業で利用、図書資料として利用、朝読などで利用、左記の複合など）
- 2 生徒の反応
 - 2.1 生徒への告知方法
 - 2.2 実際の利用者数（と母数となる生徒数）
 - 2.3 時系列でみた利用状況の推移（例：はじめはドンと来たが、そのあとぱったりとか）
 - 2.4 専用端末の貸し出し状況（例：複数回借りた子がどのくらいいた？貸し出しを延長した子がいた など）
 - 2.5 （感覚的で良いので）利用者の傾向（例：普段読書好き、新しいもの好きなど）
 - 2.6 （電子と比較するための）普通の学校図書館の利用状況（利用率など）
 - 2.7 利用しない子の傾向（があれば）
 - 2.8 コンテンツの中身に関する児童・生徒の意見、感想
 - 2.9 電子図書館や端末自体に対する児童・生徒の意見、感想
- 3 教職員の考える導入・運用上の課題
 - 3.1 児童・生徒の IT リテラシーについて
 - 3.2 教職員の IT リテラシーについて
 - 3.3 一般的なネット接続での課題
 - 3.4 今回の実証実験で初めて発見された課題
- 4 普段の児童・生徒の電子書籍への対応について
 - 4.1 よく見る電子書籍サイト など

2016 年 10 月 3 日

保護者各位

工学院大学附属中学校・高等学校
校長 平方 邦行

学校図書館における電子書籍利用に関する実証実験について

初秋の候、保護者の皆様にはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は本校の活動にご理解ご協力いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび本校では、「学校図書館における電子書籍利用環境構築のための合同プロジェクト（以下、「合同プロジェクト」という）」が行う学校図書館における電子書籍利用に関する実証実験に参加することとなりましたので、ご連絡いたします。

実証実験の概要は以下の通りとなりますので、ご理解、ご協力いただきますようお願いいたします。

記

【実施団体】 「学校図書館における電子書籍利用環境構築のための合同プロジェクト」
制作・流通の立場から電子書籍の普及に取り組む電子出版制作・流通協議会と学校図書館や電子書籍の学術研究を行っている専修大学電子書籍研究プロジェクトの合同プロジェクト

【実証実験の目的】

学校へのデジタル教科書導入や通信インフラの整備が予定されており、今後、学校に電子書籍等が導入される可能性があります。そこで、実際に学校図書館に電子書籍システム（パイロット版）をお子様に利用していただき、どのようなシステムであれば安心して利用し、学び合えるのかを検討したいと思います。

【実施期間】 平成 28 年 10 月 3 日～平成 28 年 12 月 22 日

【実施内容】

電子書籍をインストールした電子書籍専用端末、もしくは汎用端末（タブレット PC 等）でアクセス可能な電子書籍システムをお子様に学校図書館内で実際に使っていただいた上で、操作性や読みやすさ、作品などに対する要望について無記名のアンケート調査にご協力いただきます。なお、この調査により得られたデータは、合同プロジェクトが調査研究の目的（学会発表や論文文化を含む）以外には使用いたしません。

以上

生徒各位

電子書籍利用方法について

2016年 10月3日

工学院大学附属中学校・高等学校 司書教諭 有山 裕美子

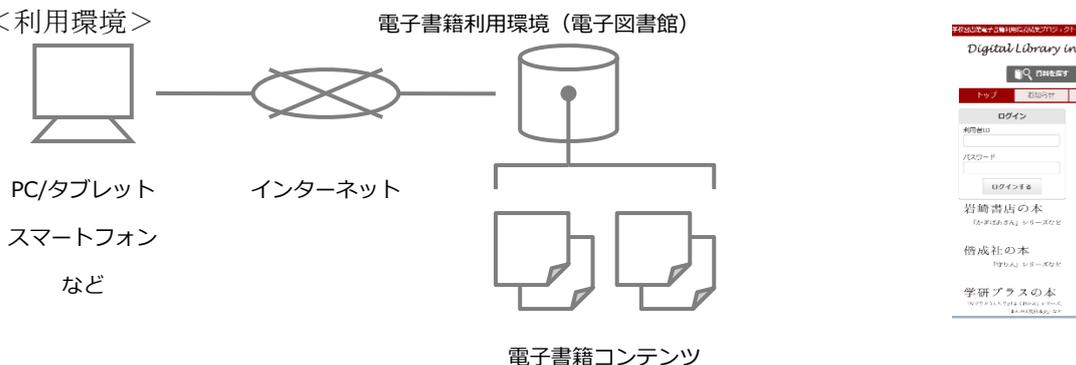
別紙案内の通り、電子書籍活用の実証実験に参加します。協力をお願いします。

なお、電子書籍には2種類あります。

●クラウドサーバ型

インターネットを使用して PC やタブレット等で電子書籍を閲覧する方法。利用には、事前に配布した ID とパスワードが必要です。以下、利用環境について図示します。

<利用環境>



【利用方法】

- ① 以下のサイトにアクセスする。
「学校図書館電子書籍利用環境構築プロジェクト」
<https://www.d-library.jp/dlschool/>
- ② 配布された個人 ID、および PW でログインする。
- ③ ログイン後、自分が読みたい本を選び、その書影の下にある「借りる」を押す。
- ④ 別タブで電子書籍が開く(ブラウザ内ビューワ)。「本を開いています・・・」というメッセージが表示され、最終的に電子書籍が閲覧できれば OK。
- ⑤ 電子書籍を閉じる(閲覧をやめる)ときは、そのままタブを閉じる。



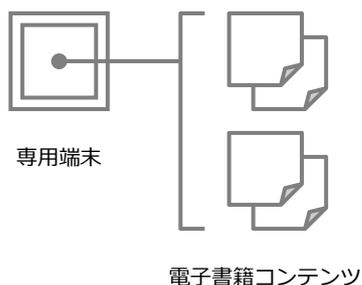
<注意事項>

- 1) ID・パスワードを他者(家族を除く)に渡さない。
- 2) 電子書籍サイトの URL を開示しない。(今回の実験のための特別なサイトです。)
- 2) 電子書籍の画面をスクリーンショットで撮影しない。
- 3) 電子書籍の貸出は、一回に 3 冊まで。期間は 1 週間です。

●スタンドアロン型

専用端末を使用して電子書籍を閲覧する方法。端末を起動するとすぐに利用できる。以下、利用環境について図示します。

<ご利用環境>



<注意事項>

- 1) スタンドアロン型電子書籍は図書館にあります。
- 2) 他の本と同じ方法で、貸出可能です。
- 3) 端末ごと貸し出ししますので、紛失等に充分気をつけること。

※ 本来は有料であるコンテンツを、今回は実証実験のため、各出版社さんが無償で提供してくれています。是非この機会を有効活用してください。

電子書籍収録作品リスト

【資料 12：クラウド型・電子書籍収録作品リスト】

電子図書館収録作品リスト(789作品)

出版社名/作品名 五十音順

出版社名	作品名
KADOKAWA / 角川書店	2年A組探偵局 ぼくらのロンドン怪盗事件(角川つばさ文庫)
KADOKAWA / 角川書店	2年A組探偵局 ラッキーマウスと3つの事件(角川つばさ文庫)
KADOKAWA / 角川書店	アイとロイとなかまたち ゆめの町へ
KADOKAWA / 角川書店	あしながおじさん
KADOKAWA / 角川書店	あばれはっちゃく -ツーかい編-
KADOKAWA / 角川書店	あばれはっちゃく -ワンぱく編-
KADOKAWA / 角川書店	アルセーヌ探偵クラブ 怪盗は8日にあらわれる。
KADOKAWA / 角川書店	アルセーヌ探偵クラブ 探偵なら30分前に脱出せよ。
KADOKAWA / 角川書店	アルプスの少女ハイジ
KADOKAWA / 角川書店	イケカジなぼくら1 お弁当コンテストを攻略せよ☆
KADOKAWA / 角川書店	イケカジなぼくら2 浴衣リメイク大作戦☆
KADOKAWA / 角川書店	イケカジなぼくら3 イジメに負けないバウンドケーキ☆
KADOKAWA / 角川書店	いみちえん! (1) 今日からひみつの二人組
KADOKAWA / 角川書店	いみちえん! (2) ピンチ! 矢神くんのライバル登場!
KADOKAWA / 角川書店	いみちえん! (3) ねらわれたまさま
KADOKAWA / 角川書店	ヴァンパイア大使アンジュ(1) 兄妹そろって、吸血鬼! ?の巻
KADOKAWA / 角川書店	ヴァンパイア大使アンジュ(2) 嵐をよぶファッションモデル! ?の巻
KADOKAWA / 角川書店	ヴァンパイア大使アンジュ(3) テレビ番組で、魔王と対決! ?の巻
KADOKAWA / 角川書店	おりの中の46びきの犬
KADOKAWA / 角川書店	おれがあいつであいつがおれで(角川つばさ文庫)
KADOKAWA / 角川書店	カナデ、奏でます! (1) ようこそ☆一中吹奏楽部へ
KADOKAWA / 角川書店	カナデ、奏でます! (2) ユーレイ部員さん、いらっしゃ〜い!
KADOKAWA / 角川書店	ガリバー旅行記
KADOKAWA / 角川書店	くもの糸・杜子春 芥川龍之介作品集
KADOKAWA / 角川書店	クリスマス・キャロル
KADOKAWA / 角川書店	クローバーフレンズ(1)
KADOKAWA / 角川書店	クローバーフレンズ(2)
KADOKAWA / 角川書店	クローバーフレンズ(3)
KADOKAWA / 角川書店	こぐまのクーク物語 秋と冬
KADOKAWA / 角川書店	こぐまのクーク物語 春と夏
KADOKAWA / 角川書店	この学校に、何かいる
KADOKAWA / 角川書店	この船、地獄行き
KADOKAWA / 角川書店	ごんぎつね・てぶくろを買いに
KADOKAWA / 角川書店	しあわせは子猫のかたち
KADOKAWA / 角川書店	シートン動物記 オオカミ王ロボ ほか
KADOKAWA / 角川書店	シートン動物記 クラッグ クートネーの雄ヒツジ ほか
KADOKAWA / 角川書店	シートン動物記 サンドヒルの雄ジカ ほか
KADOKAWA / 角川書店	ドギーマギー動物学校(1) カムの入学式
KADOKAWA / 角川書店	ドギーマギー動物学校(2) ランチは大さわぎ!
KADOKAWA / 角川書店	ドギーマギー動物学校(3) 世界の海のプール
KADOKAWA / 角川書店	トム・ソーヤーの冒険
KADOKAWA / 角川書店	トンデモ探偵団 作戦(1) 学校の迷路とかくされた金貨
KADOKAWA / 角川書店	トンデモ探偵団 作戦(2) 不良中学生をやっつけろ!
KADOKAWA / 角川書店	トンデモ探偵団 作戦(3) じどう会選挙大作戦!
KADOKAWA / 角川書店	なおこ、宇宙飛行士になる
KADOKAWA / 角川書店	ねこまたのおばばと物の怪たち(角川つばさ文庫)
KADOKAWA / 角川書店	ねこまた妖怪伝 妖怪だって友だちにゃ!
KADOKAWA / 角川書店	プラム・クリークの土手で
KADOKAWA / 角川書店	プレイボール (2) ぼくらの野球チームを守れ!
KADOKAWA / 角川書店	プレイボール (3) ぼくらのチーム、大ピンチ!
KADOKAWA / 角川書店	プレイボール ぼくらの野球チームをつくれ!
KADOKAWA / 角川書店	ぼくがぼくであること(角川つばさ文庫)
KADOKAWA / 角川書店	ぼくと先輩のマジカル・ライフ (1) (角川つばさ文庫)
KADOKAWA / 角川書店	ぼくと先輩のマジカル・ライフ (2) (角川つばさ文庫)
KADOKAWA / 角川書店	ぼくらのアラビアン・ナイト アリ・ババと四十人の盗賊 シンドパッドの冒険(角川つばさ文庫)
KADOKAWA / 角川書店	ぼくらの心霊スポット1 うわさの幽霊屋敷
KADOKAWA / 角川書店	ぼくらの心霊スポット2 真夏の悪夢
KADOKAWA / 角川書店	ぼくらの心霊スポット3 首つりツリーのなぞ
KADOKAWA / 角川書店	めざせ! 東大お笑い学部(1) 天才ツッコミ少女、登場! ?
KADOKAWA / 角川書店	モナミは世界を終わらせる?(角川つばさ文庫)
KADOKAWA / 角川書店	リンカーン アメリカを変えた大統領
KADOKAWA / 角川書店	ロックとマック 東日本大震災で迷子になった犬
KADOKAWA / 角川書店	怪談 日本のこわい話
KADOKAWA / 角川書店	怪盗レッド-1 2代目怪盗、デビューする☆の巻
KADOKAWA / 角川書店	怪盗レッド-2 中学生探偵、あらわる☆の巻
KADOKAWA / 角川書店	怪盗レッド-3 学園祭は、おおいそがし☆の巻
KADOKAWA / 角川書店	宮沢賢治童話集 銀河鉄道の夜
KADOKAWA / 角川書店	宮沢賢治童話集 注文の多い料理店 セロひきのゴーシュ
KADOKAWA / 角川書店	宮沢賢治童話集 風の又三郎
KADOKAWA / 角川書店	恐怖コレクター 巻ノ一 顔のない子供
KADOKAWA / 角川書店	源氏物語 時の姫君 いつか、めぐりあうまで

【資料 12：クラウド型・電子書籍収録作品リスト】

電子図書館収録作品リスト(789作品)

出版社名/作品名 五十音順

出版社名	作品名
KADOKAWA / 角川書店	五年霊組こわいもの係(1) 友花、死神とクラスメートになる。
KADOKAWA / 角川書店	五年霊組こわいもの係(2) 友花、悪魔とにらみあう。
KADOKAWA / 角川書店	黒猫さんとメガネくんの初恋同盟
KADOKAWA / 角川書店	四年霊組こわいもの係
KADOKAWA / 角川書店	手足のないチアリーダー
KADOKAWA / 角川書店	小公子セドリック
KADOKAWA / 角川書店	小公女セーラ
KADOKAWA / 角川書店	少女ボリアンナ(角川つばさ文庫)
KADOKAWA / 角川書店	新訳 オズの魔法使い
KADOKAWA / 角川書店	新訳 フランダーズの犬
KADOKAWA / 角川書店	新訳 賢者の贈り物・最後のひと葉
KADOKAWA / 角川書店	新訳 若草物語
KADOKAWA / 角川書店	新訳 名犬ラッシー
KADOKAWA / 角川書店	聖クロス女学院物語(1) ようこそ、神秘倶楽部へ!
KADOKAWA / 角川書店	聖クロス女学院物語(2) ひみつの鍵とティンカーベル
KADOKAWA / 角川書店	聖クロス女学院物語(3) 花音のひみつとガジュマルの精霊
KADOKAWA / 角川書店	多摩川にすてられたミーコ
KADOKAWA / 角川書店	大きな森の小さな家
KADOKAWA / 角川書店	大江戸神龍伝バサラ! (1) 龍、覚醒せり。
KADOKAWA / 角川書店	大江戸神龍伝バサラ! (2) 龍、囚われり。
KADOKAWA / 角川書店	大江戸神龍伝バサラ! (3) 龍、飛翔せり。
KADOKAWA / 角川書店	大草原の小さな家
KADOKAWA / 角川書店	知ってはいけない都市伝説
KADOKAWA / 角川書店	長ぐつをはいた猫
KADOKAWA / 角川書店	鉄研ミステリー事件簿(1) 山手線パズルの巻
KADOKAWA / 角川書店	鉄研ミステリー事件簿(2) 地下鉄ラビリンスの巻
KADOKAWA / 角川書店	天国に行った看板ねこ なな
KADOKAWA / 角川書店	天才! 科学探偵Wヘンリー
KADOKAWA / 角川書店	東京キャッツタウン おばけアパートの秘密
KADOKAWA / 角川書店	東京キャッツタウン おばけカラス大戦争
KADOKAWA / 角川書店	東京キャッツタウン 白いプリンストとタイガー
KADOKAWA / 角川書店	南総里見八犬伝
KADOKAWA / 角川書店	日本の歴史 1 日本のはじまり 旧石器～縄文・弥生～古墳時代
KADOKAWA / 角川書店	日本の歴史 2 飛鳥朝廷と仏教 飛鳥～奈良時代
KADOKAWA / 角川書店	日本の歴史 3 雅なる平安貴族 平安時代前期
KADOKAWA / 角川書店	秘密の花園
KADOKAWA / 角川書店	坊っちゃん(角川つばさ文庫)
KADOKAWA / 角川書店	僕とおじいちゃんと魔法の塔(角川つばさ文庫)
KADOKAWA / 角川書店	魔女犬ボンボン ナコと運命のこいぬ
KADOKAWA / 角川書店	魔女犬ボンボン ナコと奇跡の流れ星
KADOKAWA / 角川書店	魔女犬ボンボン ナコと金色のお茶会
KADOKAWA / 角川書店	名探偵シャーロック・ホームズ 赤毛連盟 まだらのひも
KADOKAWA / 角川書店	裏庭にはニワ会長がいる!! (1) 問題児カフェに潜入せよ!
KADOKAWA / 角川書店	裏庭にはニワ会長がいる!! (2) 恋するメガネを確保せよ!
KADOKAWA / 角川書店	裏庭にはニワ会長がいる!! (3) 名物メニューを考案せよ!
KADOKAWA / 角川書店	裏庭にはニワ会長がいる!! (4) 生徒会長の正体をあばけ!
KADOKAWA / 角川書店	恋する新選組(1)
KADOKAWA / 角川書店	恋する新選組(2)
KADOKAWA / 角川書店	恋する新選組(3)
KADOKAWA / 角川書店	六年四組ズッコケ一家
岩崎書店	かぎばあさんアメリカへいく
岩崎書店	かぎばあさんのことわざ教室
岩崎書店	かぎばあさんのサンタクロース
岩崎書店	かぎばあさんのファミリーレストラン
岩崎書店	かぎばあさんの魔法クラブ
岩崎書店	かぎばあさんの魔法のかぎ
岩崎書店	かぎばあさんのマンガ教室
岩崎書店	かぎばあさんのミステリー館
岩崎書店	かぎばあさんは名探偵
岩崎書店	かぎばあさんへのひみつの手紙
岩崎書店	かぎばあさんぼうけんの島へ
岩崎書店	三疊打だよ、かぎばあさん
岩崎書店	親切キップだかぎばあさん
岩崎書店	にせもののかぎばあさん
岩崎書店	ふしぎなかぎばあさん
岩崎書店	マジカル少女レイナ1
岩崎書店	マジカル少女レイナ2
岩崎書店	マジカル少女レイナ3
岩崎書店	マジカル少女レイナ4
岩崎書店	マジカル少女レイナ5
岩崎書店	マジカル少女レイナ6

【資料 12：クラウド型・電子書籍収録作品リスト】

電子図書館収録作品リスト(789作品)

出版社名/作品名 五十音順

出版社名	作品名
岩崎書店	マジカル少女レイナ7
岩崎書店	マジカル少女レイナ8
岩崎書店	マジカル少女レイナ9
岩崎書店	マジカル少女レイナ10
岩崎書店	マジカル少女レイナⅡ1
岩崎書店	マジカル少女レイナⅡ2
岩崎書店	マジカル少女レイナⅡ3
岩崎書店	マジカル少女レイナⅡ4
岩崎書店	マジカル少女レイナⅡ5
岩崎書店	マジカル少女レイナⅡ6
岩崎書店	マジカル少女レイナⅡ7
岩崎書店	マジカル少女レイナⅡ8
岩崎書店	マジカル少女レイナⅡ9
岩崎書店	マジカル少女レイナⅡ10
偕成社	813
偕成社	【reflow版】金の月のマヤ1 黒のエルマニオ
偕成社	【reflow版】金の月のマヤ2 秘密の図書館
偕成社	【reflow版】金の月のマヤ3 対決! 暗闇の谷
偕成社	K町の奇妙なおとなたち
偕成社	アゲハが消えた日
偕成社	あしたからは名探偵
偕成社	あめあがりの名探偵
偕成社	アラジンと魔法のランプ
偕成社	アリ・ババと四十人の盗賊
偕成社	アルフレートの時計台
偕成社	イーゲル号航海記(1) 魚人の神官
偕成社	イーゲル号航海記(2) 針路東、砂漠をこえろ!
偕成社	イーゲル号航海記(3) 女王と一角獣の都
偕成社	いつのまにか名探偵
偕成社	怪盗紳士ルパン
偕成社	かえってきた名探偵
偕成社	かぎりなくやさしい花々
偕成社	カメレオンのレオン
偕成社	奇岩城
偕成社	キツネたちの宮へ
偕成社	恐怖の谷
偕成社	軽装版 神の守り人 上 来訪編
偕成社	軽装版 神の守り人 下 帰還編
偕成社	軽装版 虚空の旅人
偕成社	軽装版 蒼路の旅人
偕成社	軽装版 流れ行く者
偕成社	軽装版 夢の守り人
偕成社	軽装版 闇の守り人
偕成社	軽装版 精霊の守り人
偕成社	ゴーゴーもるもくん
偕成社	コリドラス・テイルズ
偕成社	シュレミールと小さな潜水艦
偕成社	シンドバッドの冒険
偕成社	せかいいちの名探偵
偕成社	続813
偕成社	そんなわけで名探偵
偕成社	チビ竜と魔法の実
偕成社	トレジャーハンター山串団五郎 キャプテンXの宝の巻
偕成社	トレジャーハンター山串団五郎 どんぐりやまねこのなぞの巻
偕成社	どんだんもるもくん
偕成社	どんなときも名探偵
偕成社	なんだかんだ名探偵
偕成社	にやんにやん探偵団
偕成社	にやんにやん探偵団おひるね
偕成社	バク夢姫のご学友
偕成社	バスカビル家の犬
偕成社	緋色の研究
偕成社	ひるもよるも名探偵
偕成社	ふしぎなもるもくん
偕成社	フングリコングリ
偕成社	ほらふき男爵どこまでも
偕成社	ほらふき男爵の大旅行
偕成社	ほらふき男爵の冒険
偕成社	まってきた名探偵
偕成社	ミス・カナのゴーストログ(1) ずずかけ屋敷のふたご
偕成社	ミス・カナのゴーストログ(2) 呼び声は海の底から

【資料 12：クラウド型・電子書籍収録作品リスト】

電子図書館収録作品リスト(789作品)

出版社名/作品名 五十音順

出版社名	作品名
偕成社	ミス・カナのゴーストログ(3)かまいたちの秋
偕成社	ミス・カナのゴーストログ(4)つばめの鎮魂歌
偕成社	もしかしたら名探偵
偕成社	よーいどんで名探偵
偕成社	ルパン対ホームズ
偕成社	ルパンの冒険
偕成社	わんわん探偵団
偕成社	わんわん探偵団おかわり
偕成社	わんわん探偵団おりこう
偕成社	遠く不思議な夏
偕成社	海にかがやく
偕成社	願いのかなうまがり角
偕成社	鏡の中の秘密の池
偕成社	空飛ぶ木馬
偕成社	元祿の雪
偕成社	源平の風
偕成社	黒ばらさんの魔法の旅立ち
偕成社	三国志(1)英傑雄飛の巻
偕成社	三国志(2)臥竜出盧の巻
偕成社	三国志(3)三国鼎立の巻
偕成社	三国志(4)天命帰一の巻
偕成社	四つの署名
偕成社	事件だよ!全員集合
偕成社	時のかなたの人魚の島
偕成社	樹のこぼと石の封印
偕成社	戦国の雲
偕成社	天草の霧
偕成社	盆まねき
偕成社	魔物の森のふしぎな夜
偕成社	蒙古の波
偕成社	洛中の火
学研プラス	10分で読める なぜ?どうして? みぢかなぎもん1年生
学研プラス	10分で読める なぜ?どうして? みぢかなぎもん2年生
学研プラス	10分で読める なぜ?どうして? 身近なぎもん3年生
学研プラス	10分で読める なぜ?どうして? 身近なぎもん4年生
学研プラス	10分で読める なぜ?どうして? 身近なぎもん5年生
学研プラス	10分で読める なぜ?どうして? 身近なぎもん6年生
学研プラス	10分で読める なぜ?どうして? かがくのお話1年生
学研プラス	10分で読める なぜ?どうして? 科学のお話2年生
学研プラス	10分で読める なぜ?どうして? 科学のお話3年生
学研プラス	10分で読める なぜ?どうして? 科学のお話4年生
学研プラス	10分で読める なぜ?どうして? 科学のお話5年生
学研プラス	10分で読める なぜ?どうして? 科学のお話6年生
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ 3Dプリンターのひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ インスタントラーメンのひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ お化粧のひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ がんのひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ グラノーラ・コーンフレークのひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ コンピューターのひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ サイバーセキュリティのひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ スポーツナビゲーターのひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ そうじのひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ タイヤのひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ テレビ放送のひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ ドラッグストアと調剤のひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ はたらくロボットのひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ はたらく機械レンタルのひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ ビタミン剤のひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ ファスナーのひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ ポンプのひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ まちづくりのひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ めんのひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ レジのひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ 衛星多チャンネル放送と衛星通信のひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ 化学のひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ 家電量販店のひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ 漢方のひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ 時計のひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ 食物アレルギーのひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ 新聞のひみつ
学研プラス	学研まんががよくわかるシリーズ 人工衛星のひみつ

【資料 12：クラウド型・電子書籍収録作品リスト】

電子図書館収録作品リスト(789作品)

出版社名/作品名 五十音順

出版社名	作品名
学研プラス	学研まんがでよくわかるシリーズ 正露丸のひみつ
学研プラス	学研まんがでよくわかるシリーズ 接着剤のひみつ
学研プラス	学研まんがでよくわかるシリーズ 船・ボートのひみつ
学研プラス	学研まんがでよくわかるシリーズ 太陽電池のひみつ
学研プラス	学研まんがでよくわかるシリーズ 天然ガス開発のひみつ
学研プラス	学研まんがでよくわかるシリーズ 電気で走るクルマのひみつ
学研プラス	学研まんがでよくわかるシリーズ 働く人たちのひみつ
学研プラス	学研まんがでよくわかるシリーズ 梅パワーのひみつ
学研プラス	学研まんがでよくわかるシリーズ ハッ橋のひみつ
学研プラス	学研まんがでよくわかるシリーズ 氷のひみつ
学研プラス	学研まんがでよくわかるシリーズ 仏教のひみつ
学研プラス	学研まんがでよくわかるシリーズ 未来の車のひみつ
学研プラス	学研まんがでよくわかるシリーズ 目と目薬のひみつ
学研プラス	学研まんがでよくわかるシリーズ 薬剤師のひみつ
学研プラス	学研まんがでよくわかるシリーズ 旅行のひみつ
学研プラス	学研まんがでよくわかるシリーズ 冷凍食品のひみつ
学研プラス	学研まんがでよくわかるシリーズ 餃子のひみつ
学研プラス	学研まんが人物日本史 ヤマトタケルノミコト
学研プラス	学研まんが人物日本史 伊達政宗
学研プラス	学研まんが人物日本史 伊藤博文
学研プラス	学研まんが人物日本史 源義経
学研プラス	学研まんが人物日本史 源頼朝
学研プラス	学研まんが人物日本史 高杉晋作
学研プラス	学研まんが人物日本史 紫式部
学研プラス	学研まんが人物日本史 勝海舟
学研プラス	学研まんが人物日本史 織田信長
学研プラス	学研まんが人物日本史 真田幸村
学研プラス	学研まんが人物日本史 聖徳太子
学研プラス	学研まんが人物日本史 聖武天皇
学研プラス	学研まんが人物日本史 西郷隆盛
学研プラス	学研まんが人物日本史 足利義満
学研プラス	学研まんが人物日本史 足利尊氏
学研プラス	学研まんが人物日本史 大久保利通
学研プラス	学研まんが人物日本史 天智天皇
学研プラス	学研まんが人物日本史 藤原道長
学研プラス	学研まんが人物日本史 徳川家光
学研プラス	学研まんが人物日本史 徳川家康
学研プラス	学研まんが人物日本史 徳川吉宗
学研プラス	学研まんが人物日本史 卑弥呼
学研プラス	学研まんが人物日本史 武田信玄と上杉謙信
学研プラス	学研まんが人物日本史 福沢諭吉
学研プラス	学研まんが人物日本史 平賀源内
学研プラス	学研まんが人物日本史 平清盛
学研プラス	学研まんが人物日本史 豊臣秀吉
学研プラス	学研まんが人物日本史 北条時宗
学研プラス	学研まんが世界の歴史 1 古代文明のおこりとピラミッドにねむる王たち
学研プラス	学研まんが世界の歴史 2 ギリシア文明とペルシア帝国の興亡
学研プラス	学研まんが世界の歴史 3 ヘレニズム文明とアレクサンドロス大王
学研プラス	学研まんが世界の歴史 4 古代中国文明と秦の始皇帝
学研プラス	学研まんが世界の歴史 5 ローマの拡大と大將軍カエサル
学研プラス	学研まんが世界の歴史 6 激動の東アジアと唐の皇帝玄宗
学研プラス	学研まんが世界の歴史 7 西ヨーロッパの成立とカール大帝
学研プラス	学研まんが世界の歴史 8 アジアとヨーロッパの興亡と十字軍とモンゴル帝国
学研プラス	学研まんが世界の歴史 9 ルネサンス・新航路発見と大航海士コロンブス
学研プラス	学研まんが世界の歴史 10 フランス革命・産業革命と軍事的天才ナポレオン
学研プラス	学研まんが世界の歴史 11 アメリカ独立・南北戦争とリンカーン大統領
学研プラス	学研まんが世界の歴史 12 アジアの植民地化と無抵抗主義者ガンジー
学研プラス	学研まんが世界の歴史 13 第一次世界大戦・ロシア革命と国際連盟の誕生
学研プラス	学研まんが世界の歴史 14 第二次世界大戦と独裁者ヒトラー
学研プラス	学研まんが世界の歴史 15 国際連合・冷戦の雪どけとかがやく国際社会へ
講談社	「関係の空気」「場の空気」
講談社	「教養」とは何か
講談社	「時間」を哲学する 過去はどこへ行ったのか
講談社	「しきり」の文化論
講談社	「聖書」名表現の常識
講談社	「世間」とは何か
講談社	「普通がいい」という病
講談社	「欲望」と資本主義 終わりなき拡張の論理
講談社	<意識>とは何だろうか 脳の来歴、近くの錯誤
講談社	<子ども>のための哲学
講談社	<じぶん>を愛するということ 私探しと自己愛

【資料 12：クラウド型・電子書籍収録作品リスト】

電子図書館収録作品リスト(789作品)

出版社名/作品名 五十音順

出版社名	作品名
講談社	<勝負脳>の鍛え方
講談社	愛国者は信用できるか
講談社	相手に「伝わる」話し方
講談社	青い鳥文庫 赤毛のアン(1)
講談社	アジアの歩き方
講談社	新しい科学論「事実」は理論をたおせるか
講談社	新しい仏教のこころ わたしの仏教概論
講談社	新しいヘーゲル
講談社	アメリカ外交 苦悩と希望
講談社	嵐山光三郎の徒然草・三木卓の方丈記 シリーズ古典(2)
講談社	あるのかなのか? 日本人の創造性
講談社	イオンが好きになる本 もう科学は、つらくない!
講談社	いきしきと生きよ ゲーテに学ぶ
講談社	生きづらいく私>たち 心に穴があいている
講談社	生きていることの科学 生命・意識のマテリアル
講談社	一神教の誕生 ユダヤ教からキリスト教へ
講談社	今こそマルクスを読み返す
講談社	インタビュー術!
講談社	うつ病をなおす
講談社	運動神経の科学 誰でも足は速くなる
講談社	江戸の性風俗 笑いと情死のエロス
講談社	絵をみてできる生物実験
講談社	演技と演出
講談社	演劇入門
講談社	冤罪はこうして作られる
講談社	大庭みな子の枕草子 シリーズ古典(4)
講談社	大人のための文章教室
講談社	カーニヴァル化する社会
講談社	会社コンプライアンス 内部統制の条件
講談社	怪談の科学 幽霊はなぜ現れる
講談社	科学者はなぜ一番のりをめざすか 情熱、栄誉、失意の人間ドラマ
講談社	科学する麻雀
講談社	科学の現在を問う
講談社	化学反応はなぜおこるか 授業ではわからなかった科学の基礎
講談社	核兵器のしくみ
講談社	家族関係を考える
講談社	紙ヒコーキで知る飛行の原理 身近に学ぶ航空力学
講談社	客家 中国の内なる異邦人
講談社	キリスト教英語の常識
講談社	キリスト教文化の常識
講談社	キリストとイエス 聖書をどう読むか
講談社	キング牧師とマルコムX
講談社	空中都市008 アオゾラ市のものがたり
講談社	栗本薫の里見八犬伝 シリーズ古典(8)
講談社	クレヨン王国いちご村
講談社	クレヨン王国からきたおよめさん
講談社	クレヨン王国黒の銀行
講談社	クレヨン王国新十二か月の旅
講談社	クレヨン王国七つの森
講談社	クレヨン王国なみだ物語
講談社	クレヨン王国の赤トンボ
講談社	クレヨン王国の十二か月
講談社	クレヨン王国の白いなげさ
講談社	クレヨン王国のたまご PART1
講談社	クレヨン王国のたまご PART2
講談社	クレヨン王国のたまご PART3
講談社	クレヨン王国のたまご PART4
講談社	クレヨン王国のたまご PART5
講談社	クレヨン王国のたまご PART6
講談社	クレヨン王国のたまご PART7
講談社	クレヨン王国のたまご PART8
講談社	クレヨン王国のたまご 完結編
講談社	クレヨン王国のパトロール隊長
講談社	クレヨン王国の花ウサギ
講談社	クレヨン王国春の小川
講談社	クレヨン王国まほうの夏
講談社	計画の科学 どこでも使えるPERT・CPM
講談社	軽症うつ病「ゆううつ」の精神病理
講談社	系統樹思考の世界 すべてはツリーとともに
講談社	ゲーデルの哲学 不完全性定理と神の存在論
講談社	ゲーム的リアリズムの誕生 動物化するポストモダン2

【資料 12：クラウド型・電子書籍収録作品リスト】

電子図書館収録作品リスト(789作品)

出版社名/作品名 五十音順

出版社名	作品名
講談社	現代アラブの社会思想 終末論とイスラーム主義
講談社	コーチングの技術 上司と部下の人間学
講談社	国語のできる子どもを育てる
講談社	孤独を生きぬくキリスト教のメッセージ
講談社	言葉と無意識
講談社	子どものトラウマ
講談社	これがニーチェだ
講談社	最強の競馬論
講談社	最強のプロ野球論
講談社	算数・数学が得意になる本
講談社	参謀本部と陸軍大学校
講談社	時間の不思議;タイムマシンからホーキングまで ムムツ、虚時間?
講談社	時間の分子生物学 時計と睡眠の遺伝子
講談社	時刻表ひとり旅
講談社	失敗を生かす仕事術
講談社	死と生の記録 真実の生き方を求めて
講談社	ジャズの名盤入門
講談社	自由と何か「自己責任論」から「理由なき殺人」まで
講談社	新作 論理パズル77 志向の「迷路」のふるこーす
講談社	神聖ローマ帝国
講談社	神道の逆襲
講談社	人類進化の700万年 書き換えられる「ヒトの起源」
講談社	人類の祖先を探る 京大アフリカ調査隊の記録
講談社	推計学のすすめ 決定と計画の科学
講談社	数学質問箱 なぜだろう? そこが知りたい!
講談社	数学的思考法 説明力を鍛えるヒント
講談社	数学トリック=だまされまいぞ! 数学発想クイズ
講談社	進め! 侍ブルー 世界の中への扉 サッカー日本代表 感動の20年ヒストリー
講談社	聖書VS. 世界史 キリスト教的歴史観とは何か
講談社	精神科にできること 脳の医学、心の治療
講談社	世界史とヨーロッパ ヘロドトスからウォーラー・ステインまで
講談社	世界に呼びかける東洋
講談社	ゼロからわかる アインシュタインの発見
講談社	戦争の日本近現代史 東大式レッスン! 征韓論から太平洋戦争まで
講談社	戦争を記録する 広島・ホロコーストと現在
講談社	創造の方法学
講談社	続・満月をわすれるな!
講談社	組織を強くする 技術の伝え方
講談社	ソシュールと言語学 コトバはなぜ通じるのか
講談社	素粒子論の世界 部屋と空間の窮極に挑む
講談社	大学でいかに学ぶか
講談社	高橋治のおくのほそ道ほか シリーズ古典(6)
講談社	タテ社会の人間関係 単一社会の理論
講談社	単位の進化 原始単位から原子単位へ
講談社	知的生活の方法
講談社	中国の大盗賊・完全版
講談社	中国文明の歴史
講談社	適応の条件 日本的連続の思考
講談社	哲学入門 一歩前 モノからコトへ
講談社	哲学の謎
講談社	鉄道ひとつばなし
講談社	鉄道ひとつばなし2
講談社	道具としての微分方程式「みようみまね」で使ってみよう
講談社	動物化するポストモダン オタクから見た日本社会
講談社	都会のトム&ソーヤ(1)
講談社	都会のトム&ソーヤ(2) <乱! RUN! ラン! >
講談社	解ければ天才! 算数100の難問・奇問 たかが算数 されど算数
講談社	泥だらけのカルテ 家族のもとに遺体を帰しつづける歯科医が見たものは?
講談社	なぜ日本人は劣化したか
講談社	謎とき本能寺の変
講談社	七三一部隊 生物兵器犯罪の真実
講談社	日本一周 ローカル線温泉旅
講談社	日本人のしつけは衰退したか「教育する家族」のゆくえ
講談社	日本を甦らせる政治思想 現代コミュニタリアニズム入門
講談社	はじめての言語学
講談社	はじめての構造主義
講談社	橋本治の古事記 シリーズ古典(7)
講談社	芭蕉=その人生と芸術
講談社	パズル・生物入門 楽しみながら学ぶために
講談社	畑村式「わかる」技術
講談社	ハブスブルク家

【資料 12：クラウド型・電子書籍収録作品リスト】

電子図書館収録作品リスト(789作品)

出版社名/作品名 五十音順

出版社名	作品名
講談社	ハブスブルク家の女たち
講談社	犯罪の心理学 なぜ、こんな事件が起こるのか
講談社	ヒトはなぜことばを使えるのか 脳と心のふしぎ
講談社	フェルマーの大定理が解けた！ オイラーからワイルズの証明まで
講談社	武士道とエロス
講談社	武士道の逆襲
講談社	武装解除 紛争屋が見た世界
講談社	物理の風景 数理物理学者が見た世界
講談社	フルメタル・ピューティー(1)！
講談社	文化大革命
講談社	文系のための数学教室
講談社	弁証法はどういう科学か
講談社	へんな虫はすごい虫 もう”虫けら”とは呼ばせない！
講談社	本はどう読むか
講談社	まるごと日本の世界遺産
講談社	丸山眞男をどう読むか
講談社	マンガ 数学小事典 基本をおさえる
講談社	まんが パレスチナ問題
講談社	満月を忘れるな！
講談社	万葉集入門 人間と風土
講談社	無限の不思議 その先に何がある！
講談社	無限論の教室
講談社	村松友視の東海道中膝栗毛 シリーズ古典(5)
講談社	森田療法
講談社	傭兵の二千年史
講談社	ヨーロッパ型資本主義 アメリカ市場原理主義との決別
講談社	欲ばり過ぎるニッポンの教育
講談社	吉村昭の平家物語 シリーズ古典(3)
講談社	世の中への扉 きみは怪物を見たか 松井、松坂、斉藤、郵政、甲子園のヒーローたちの感動物語
講談社	世の中への扉 甲子園がくれた命
講談社	世の中への扉 柴犬アイちゃんへの手紙 無謀運転でふたりの男の子を失った家族と愛犬の物語
講談社	世の中への扉 図書館のトリセツ
講談社	世の中への扉 ピアノはともだち 奇跡のピアニスト 辻井伸行の秘密
講談社	世の中への扉 ヒット商品研究所へようこそ！ 「ガリガリ君」「瞬足」「青い鳥文庫」はこうして作られる
講談社	世の中への扉 めざせ！ 給食甲子園
講談社	ラカンの精神分析
講談社	量子力学が語る世界像 重なり合う複数の過去と未来
講談社	量子力学の世界 はじめて学ぶ人のために
講談社	歴史を学ぶということ
講談社	老後がこわい
講談社	ロスチャイルド家 ユダヤ国際財閥の興亡
講談社	論語 現代に生きる中国の知恵
講談社	わが子に教える作文教室
講談社	若者殺しの時代
講談社	私・今・そして神 開闢の哲学
小学館	100回泣くこと
小学館	BE-TWINS
小学館	Black&Blue
小学館	Bullet Butlers1 ～虎は弾丸のごとく疾駆する～
小学館	Bullet Butlers2 ～黒騎士は弾丸のごとく駆け抜ける～
小学館	GJ部
小学館	GJ部2
小学館	GJ部3
小学館	GJ部4
小学館	GJ部5
小学館	GJ部6
小学館	GJ部7
小学館	GJ部8
小学館	GJ部9
小学館	RIGHT×LIGHT～空っぽの手品師と半透明な飛行少女～
小学館	RIGHT×LIGHT2～ちいさな占い師と白い部屋で眠る彼女～
小学館	RIGHT×LIGHT3～カケラの天使と囁く虚像～
小学館	RIGHT×LIGHT4～嘆きの魔女と始まりの鐘を鳴らす獣～
小学館	RIGHT×LIGHT5～求めし患者と天喰らう魔狼～
小学館	RIGHT×LIGHT6～揺れる未来と空渡る風歌～
小学館	RIGHT×LIGHT7～飢えし血鬼と夏夜の炎花～
小学館	RIGHT×LIGHT8～散りゆく雪華と赤い月を仰ぐ夜鳥～
小学館	RIGHT×LIGHT9～終わる宴と緑翼の宣告者～
小学館	RIGHT×LIGHT10～たゆたう方舟と泣かない英雄～
小学館	RIGHT×LIGHT11～黄昏の王と深緑の巨臣～
小学館	RIGHT×LIGHT12～繋がる声と届く指先～

【資料 12：クラウド型・電子書籍収録作品リスト】

電子図書館収録作品リスト(789作品)

出版社名/作品名 五十音順

出版社名	作品名
小学館	RIGHT∞LIGHT1 僕の妹は神様で、空飛ぶ少女は泣き虫でー。
小学館	RIGHT∞LIGHT2 いじわるな占い師のちいさなワガママ
小学館	RIGHT∞LIGHT3 朝焼けに飛ぶ三羽の鶴
小学館	RIGHT∞LIGHT4 夜天の頂へ、右手を伸ばす
小学館	あの夏、最後に見た打ち上げ花火は
小学館	いま、会いにゆきます
小学館	イメイザーの美術
小学館	イメイザーの美術2 泥の子どもたち
小学館	イメイザーの美術3 砂と星のあいだに
小学館	クイックセーブ&ロード
小学館	クイックセーブ&ロード2
小学館	クイックセーブ&ロード3
小学館	くちびるに歌を
小学館	スクールセイバー 学園危機一髪！
小学館	スチームヘヴン・フリークス
小学館	スチームヘヴン・フリークス2
小学館	スチームヘヴン・フリークス3
小学館	ストライクフォール
小学館	ストレンジボイス
小学館	スプリング・タイム
小学館	セカンドウィンド 1
小学館	セカンドウィンド 2
小学館	セカンドウィンド 3
小学館	そのときは彼によろしく
小学館	ダレン・シャン1 奇怪なサーカス
小学館	ダレン・シャン2 若きバンパイア
小学館	ダレン・シャン3 バンパイア・クリスマス
小学館	ダレン・シャン4 バンパイア・マウンテン
小学館	ダレン・シャン5 バンパイアの試練
小学館	ダレン・シャン6 バンパイアの運命
小学館	ダレン・シャン7 黄昏のハンター
小学館	ダレン・シャン8 真夜中の同志
小学館	ダレン・シャン9 夜明けの覇者
小学館	ダレン・シャン10 精霊の湖
小学館	ダレン・シャン11 闇の帝王
小学館	ダレン・シャン12 運命の息子
小学館	とある飛空士への追憶
小学館	とある飛空士への夜想曲 上
小学館	とある飛空士への夜想曲 下
小学館	とある飛空士への恋歌
小学館	とある飛空士への恋歌2
小学館	とある飛空士への恋歌3
小学館	とある飛空士への恋歌4
小学館	とある飛空士への恋歌5
小学館	ブック×マーク！
小学館	ブック×マーク！2
小学館	ブック×マーク！3
小学館	フリック&ブレイク
小学館	フリック&ブレイク2
小学館	フリック&ブレイク3
小学館	マクロス プラス
小学館	モップガール
小学館	レヴィアタンの恋人
小学館	レヴィアタンの恋人2
小学館	レヴィアタンの恋人3
小学館	レヴィアタンの恋人4
小学館	異世界修学旅行
小学館	異世界修学旅行2
小学館	我がヒーローのための絶対悪
小学館	我がヒーローのための絶対悪2
小学館	我がヒーローのための絶対悪3
小学館	開高 健 電子全集1 漂えど沈まずー闇三部作
小学館	開高 健 電子全集2 純文学初期傑作集／芥川賞 1958～1960
小学館	学習まんが はじめての日本の歴史1 日本のはじまり 旧石器・弥生・縄文時代
小学館	学習まんが はじめての日本の歴史2 奈良の都 古墳・飛鳥・奈良時代
小学館	学習まんが はじめての日本の歴史3 朝廷と摂関政治
小学館	学習まんが はじめての日本の歴史4 貴族と武士
小学館	学習まんが はじめての日本の歴史5 南北朝の戦い
小学館	学習まんが はじめての日本の歴史6 室町幕府と民衆
小学館	学習まんが はじめての日本の歴史7 激突する戦国大名 戦国時代
小学館	学習まんが はじめての日本の歴史8 天下の統一

【資料 12：クラウド型・電子書籍収録作品リスト】

電子図書館収録作品リスト(789作品)

出版社名/作品名 五十音順

出版社名	作品名
小学館	学習まんが はじめての日本の歴史9 江戸幕府の完成
小学館	学習まんが はじめての日本の歴史10 江戸幕府のゆらぎ
小学館	学習まんが はじめての日本の歴史11 黒船がやってきた
小学館	学習まんが はじめての日本の歴史12 近代国家への道
小学館	学習まんが はじめての日本の歴史13 絶えない戦争
小学館	学習まんが はじめての日本の歴史14 新しい日本
小学館	学習まんが はじめての日本の歴史15 別巻 その時、何が？
小学館	宮脇俊三 電子全集1「時刻表2万キロ／汽車旅12ヵ月」
小学館	九十九の空傘
小学館	空知らぬ虹の解放区
小学館	空知らぬ虹の解放区2
小学館	月光のカルネヴァーレ ～白銀のカリアティード～ I
小学館	月光のカルネヴァーレ ～白銀のカリアティード～ II
小学館	月光のカルネヴァーレ ～白銀のカリアティード～ III
小学館	江戸川乱歩 電子全集1 明智小五郎 登場編
小学館	江戸川乱歩 電子全集2 明智小五郎 活躍編
小学館	江戸川乱歩 電子全集3 明智小五郎 結婚編
小学館	江戸川乱歩 電子全集4 明智小五郎 英雄編
小学館	江戸川乱歩 電子全集5 傑作推理小説集 第1集
小学館	江戸川乱歩 電子全集6 傑作推理小説集 第2集
小学館	左京区七夕通東入ル
小学館	三浦綾子 電子全集 塩狩峠
小学館	三浦綾子 電子全集 細川ガラシャ夫人(上)
小学館	三浦綾子 電子全集 細川ガラシャ夫人(下)
小学館	三浦綾子 電子全集 残像
小学館	三浦綾子 電子全集 銃口(上)
小学館	三浦綾子 電子全集 銃口(下)
小学館	三浦綾子 電子全集 道ありき 青春編
小学館	三浦綾子 電子全集 氷点(上)
小学館	三浦綾子 電子全集 氷点(下)
小学館	時間商人 不老不死、売ります
小学館	時間商人 不老不死、二度売ります2
小学館	時間商人 トキタと命の篡奪者たち3
小学館	時間商人 トキタの死期、カナタの思恋4
小学館	自転車の教科書
小学館	七星のスバル
小学館	七星のスバル2
小学館	七星のスバル3
小学館	小学館ジュニア文庫 12歳。～おとなでも、こどもでも～
小学館	小学館ジュニア文庫 12歳。～きみのとなり～
小学館	小学館ジュニア文庫 12歳。～そして、みらい～
小学館	小学館ジュニア文庫 12歳。～だけど、すきだから～
小学館	小学館ジュニア文庫 12歳。～てんこうせい～
小学館	小学館ジュニア文庫 こむぎといつまでも ～余命宣告を乗り越えた奇跡の猫ものがたり～
小学館	小学館ジュニア文庫 さくら×ドロップ レシピ1:チーズハンバーグ
小学館	小学館ジュニア文庫 ちえり×ドロップ レシピ1:マカロニグラタン
小学館	小学館ジュニア文庫 ホルンペッター
小学館	小学館ジュニア文庫 りばーさいど ペヤングばばあ 上 ～少年さがしもの探偵とひみつの放課後～
小学館	小学館ジュニア文庫 りばーさいど ペヤングばばあ 下 ～少年さがしもの探偵とひみつの放課後～
小学館	小学館ジュニア文庫 銀色☆フェアリーテイル 1 あたしだけが知らない街
小学館	小学館ジュニア文庫 九丁目の呪い花屋
小学館	小学館ジュニア文庫 天国の犬ものがたり～夢のバトン～
小学館	小学館ジュニア文庫 動物たちのお医者さん
小学館	人生
小学館	人生 第2章
小学館	人生 第3章
小学館	人生 第4章
小学館	人生 第5章
小学館	人生 第6章
小学館	人生 第7章
小学館	人生 第8章
小学館	人生 第9章
小学館	人生 第10章
小学館	人生 えくすとら
小学館	世界からボクが消えたなら ～映画「世界から猫が消えたなら」キャベツの物語～
小学館	世界の中心で、愛をさけぶ
小学館	声優ユニットはじめました。
小学館	声優ユニットはじめました。2
小学館	青春ばんだバンド
小学館	青森ドロップキッカーズ
小学館	赤鬼はもう泣かない

【資料 12：クラウド型・電子書籍収録作品リスト】

電子図書館収録作品リスト(789作品)

出版社名/作品名 五十音順

出版社名	作品名
小学館	大人ドロップ
小学館	超時空要塞マクロス【TV版】(上)
小学館	超時空要塞マクロス【TV版】(中)
小学館	超時空要塞マクロス【TV版】(下)
小学館	謎解きはディナーのあとで
小学館	謎解きはディナーのあとで 2
小学館	謎解きはディナーのあとで 3
小学館	猫にはなれないご職業
小学館	猫にはなれないご職業2
小学館	飛べない蝶と空の鯨 ～たゆたう島の郵便箱～
小学館	飛べない蝶と空の鯨 ～蒼の彼方より、最果てへ～1
小学館	飛べない蝶と空の鯨 ～蒼の彼方より、最果てへ～2
小学館	飛べない蝶と空の鯨 ～蒼の彼方より、最果てへ～3
小学館	飛べない蝶と空の鯨2 ～たゆたう島の郵便箱～
小学館	飛べない蝶と空の鯨3 ～たゆたう島の郵便箱～
小学館	不戦無敵の影殺師
小学館	不戦無敵の影殺師2
小学館	不戦無敵の影殺師3
小学館	不戦無敵の影殺師4
小学館	不戦無敵の影殺師5
小学館	不戦無敵の影殺師6
小学館	不戦無敵の影殺師7
小学館	偏差値70の野球部 レベル1 難関合格編
小学館	偏差値70の野球部 レベル2 打撃理論編
小学館	偏差値70の野球部 レベル3 守備理論編
小学館	偏差値70の野球部 レベル4 実戦応用編
小学館	名探偵コナン推理ファイル 地球の謎 小学館学習まんがシリーズ
小学館	名探偵コナン理科ファイル デジカメで自由研究！ 小学館学習まんがシリーズ
小学館	名探偵コナン理科ファイル ものと燃焼の秘密 小学館学習まんがシリーズ
小学館	名探偵コナン理科ファイル 空気と水の秘密 小学館学習まんがシリーズ
小学館	名探偵コナン理科ファイル 昆虫の秘密 小学館学習まんがシリーズ
小学館	名探偵コナン理科ファイル 植物の秘密 小学館学習まんがシリーズ
小学館	名探偵コナン理科ファイル 人のからだの秘密 小学館学習まんがシリーズ
小学館	名探偵コナン理科ファイル 星と星座の秘密 小学館学習まんがシリーズ
小学館	名探偵コナン理科ファイル 太陽と月の秘密 小学館学習まんがシリーズ
小学館	名探偵コナン理科ファイル 天気の秘密 小学館学習まんがシリーズ
小学館	名探偵コナン理科ファイル 動物の秘密 小学館学習まんがシリーズ
小学館	名探偵コナン理科ファイル カと動きの秘密 小学館学習まんがシリーズ
小学館	憂鬱なウイルス
小学館	憂鬱なウイルス2
小学館	憂鬱なウイルス3
小学館	憂鬱なウイルス4
小学館	憂鬱なウイルス5
小学館	熾界龍皇と極東の七柱特区
小学館	熾界龍皇と極東の七柱特区2
小学館	熾界龍皇と極東の七柱特区3
小学館	熾界龍皇と極東の七柱特区4
小学館	筐底のエルピス -絶滅前線-
小学館	筐底のエルピス2 -夏の終わりの-
小学館	筐底のエルピス3 -狩人のサーカス-
小学館	筐底のエルピス4 -廃棄未来-
ポット出版	(絵本)王さまと王さま
ポット出版	【電子書籍版】僕に生きる力をくれた犬 青年刑務所ドッグ・プログラムの3か月
ポット出版	おにぎりレンビ101
ポット出版	ジャンク ジャングル キッズ
ポット出版	パパの理科実験ショー
ポット出版	同性パートナーシップ証明、はじまりました。 渋谷区・世田谷区の成立物語と手続きの方法
ポット出版	日本の漢字のプリンシプル
ポプラ社	グレッグのダメ日記
ポプラ社	グレッグのダメ日記 あ～あ、どうしてこうなるの!?
ポプラ社	グレッグのダメ日記 どうかしてるよ!
ポプラ社	グレッグのダメ日記 とんでもないよ
ポプラ社	グレッグのダメ日記 どんどん、ひどくなるよ
ポプラ社	グレッグのダメ日記 なんとか、やっていくよ
ポプラ社	グレッグのダメ日記 ボクの日記があぶない!
ポプラ社	グレッグのダメ日記 もう、がまんできない!
ポプラ社	グレッグのダメ日記 やっぱ、むいてないよ!
ポプラ社	グレッグのダメ日記 わけがわからないよ!
ポプラ社	江戸川乱歩・少年探偵シリーズ(1) 怪人二十面相
ポプラ社	江戸川乱歩・少年探偵シリーズ(2) 少年探偵団
ポプラ社	江戸川乱歩・少年探偵シリーズ(3) 妖怪博士

【資料 12：クラウド型・電子書籍収録作品リスト】

電子図書館収録作品リスト(789作品)

出版社名/作品名 五十音順

出版社名	作品名
ポプラ社	江戸川乱歩・少年探偵シリーズ(4) 大金塊
ポプラ社	江戸川乱歩・少年探偵シリーズ(5) 青銅の魔人
ポプラ社	江戸川乱歩・少年探偵シリーズ(6) サーカスの怪人
ポプラ社	江戸川乱歩・少年探偵シリーズ(7) 地底の魔術王
ポプラ社	江戸川乱歩・少年探偵シリーズ(8) 透明怪人
ポプラ社	江戸川乱歩・少年探偵シリーズ(9) 怪奇四十面相
ポプラ社	江戸川乱歩・少年探偵シリーズ(10) 宇宙怪人
ポプラ社	おしりたんてい

【資料 13 : スタンドアロン型・小学校向け電子書籍収録作品リスト】

小学校向け 電子書籍専用端末収録作品リスト(97作品)

出版社名/作品名 五十音順

出版社名	作品名
KADOKAWA / 角川書店	2年A組探偵局 ぼくらのロンドン怪盗事件(角川つばさ文庫)
KADOKAWA / 角川書店	2年A組探偵局 ラッキーマウスと3つの事件(角川つばさ文庫)
KADOKAWA / 角川書店	あしながおじさん
KADOKAWA / 角川書店	アルセーヌ探偵クラブ 怪盗は8日にあらわれる。
KADOKAWA / 角川書店	アルセーヌ探偵クラブ 探偵なら30分前に脱出せよ。
KADOKAWA / 角川書店	おれがあいつであいつがおれで(角川つばさ文庫)
KADOKAWA / 角川書店	ガリバー旅行記
KADOKAWA / 角川書店	くもの糸・杜子春 芥川龍之介作品集
KADOKAWA / 角川書店	クリスマス・キャロル
KADOKAWA / 角川書店	ごんぎつね・てぶくろを買いに
KADOKAWA / 角川書店	しあわせは子猫のかたち
KADOKAWA / 角川書店	シートン動物記 オオカミ王ロボ ほか
KADOKAWA / 角川書店	シートン動物記 クラッグ クートネーの雄ヒツジ ほか
KADOKAWA / 角川書店	シートン動物記 サンドヒルの雄ジカ ほか
KADOKAWA / 角川書店	トム・ソーヤーの冒険
KADOKAWA / 角川書店	ねこまたのおばばと物の怪たち(角川つばさ文庫)
KADOKAWA / 角川書店	プラム・クリークの土手で
KADOKAWA / 角川書店	ぼくがぼくであること(角川つばさ文庫)
KADOKAWA / 角川書店	ぼくと先輩のマジカル・ライフ (1) (角川つばさ文庫)
KADOKAWA / 角川書店	ぼくと先輩のマジカル・ライフ (2) (角川つばさ文庫)
KADOKAWA / 角川書店	モナミは世界を終わらせる?(角川つばさ文庫)
KADOKAWA / 角川書店	怪談 日本のこわい話
KADOKAWA / 角川書店	怪盗レッドー1 2代目怪盗、デビューする☆の巻
KADOKAWA / 角川書店	怪盗レッドー2 中学生探偵、あらわる☆の巻
KADOKAWA / 角川書店	怪盗レッドー3 学園祭は、おおいそがし☆の巻
KADOKAWA / 角川書店	宮沢賢治童話集 銀河鉄道の夜
KADOKAWA / 角川書店	宮沢賢治童話集 注文の多い料理店 セロひきのゴージュ
KADOKAWA / 角川書店	宮沢賢治童話集 風の又三郎
KADOKAWA / 角川書店	新訳 オズの魔法使い
KADOKAWA / 角川書店	新訳 フランダースの犬
KADOKAWA / 角川書店	新訳 賢者の贈り物・最後のひと葉
KADOKAWA / 角川書店	新訳 若草物語
KADOKAWA / 角川書店	大きな森の小さな家
KADOKAWA / 角川書店	大草原の小さな家
KADOKAWA / 角川書店	鉄研ミステリー事件簿(1) 山手線パズルの巻
KADOKAWA / 角川書店	鉄研ミステリー事件簿(2) 地下鉄ラビリンスの巻
KADOKAWA / 角川書店	東京キャッツタウン おばけアパートの秘密
KADOKAWA / 角川書店	東京キャッツタウン おばけカラス大戦争
KADOKAWA / 角川書店	東京キャッツタウン 白いプリンスとタイガー
KADOKAWA / 角川書店	南総里見八犬伝
KADOKAWA / 角川書店	秘密の花園
KADOKAWA / 角川書店	坊っちゃん(角川つばさ文庫)
KADOKAWA / 角川書店	僕とおじいちゃん魔法の塔(角川つばさ文庫)
KADOKAWA / 角川書店	魔女犬ボンボン ナコと運命のこいぬ
KADOKAWA / 角川書店	魔女犬ボンボン ナコと奇跡の流れ星
KADOKAWA / 角川書店	魔女犬ボンボン ナコと金色のお茶会
KADOKAWA / 角川書店	名探偵シャーロック・ホームズ 赤毛連盟 まだらのひも
偕成社	神の守り人 上 来訪編
偕成社	神の守り人 下 帰還編
偕成社	虚空の旅人
偕成社	蒼路の旅人
偕成社	流れ行く者
偕成社	夢の守り人
偕成社	闇の守り人
偕成社	金の月のマヤ1 黒のエルマニオ
偕成社	金の月のマヤ2 秘密の図書館
偕成社	金の月のマヤ3 対決! 暗闇の谷
偕成社	精霊の守り人
講談社	世の中への扉 きみは怪物を見たか 松井、松坂、斉藤、郵政、甲子園のヒーローたちの感動物語
講談社	世の中への扉 甲子園がくれた命
講談社	世の中への扉 柴犬アイちゃんへの手紙 無謀運転でふたりの男の子を失った家族と愛犬の物語
講談社	世の中への扉 図書館のトリセツ
講談社	世の中への扉 ピアノはともだち 奇跡のピアニスト 辻井伸行の秘密
講談社	世の中への扉 ヒット商品研究所へようこそ! 「ガリガリ君」「瞬足」「青い鳥文庫」はこうして作られる
講談社	世の中への扉 めざせ! 給食甲子園
講談社	世の中への扉 進め! 侍ブルー 世界の中への扉 サッカー日本代表 感動の20年ヒストリー
講談社	世の中への扉 泥だらけのカルテ 家族のもとに遺体を帰しつづける歯科医が見たものは?
講談社	世の中への扉 まるごと日本の世界遺産
小学館	ダレン・シャン1 奇怪なサーカス

【資料 13 : スタンドアロン型・小学校向け電子書籍収録作品リスト】

小学校向け 電子書籍専用端末収録作品リスト(97作品)

出版社名/作品名 五十音順

出版社名	作品名
小学館	ダレン・シャン2 若きバンパイア
小学館	ダレン・シャン3 バンパイア・クリスマス
小学館	ダレン・シャン4 バンパイア・マウンテン
小学館	ダレン・シャン5 バンパイアの試練
小学館	ダレン・シャン6 バンパイアの運命
小学館	ダレン・シャン7 黄昏のハンター
小学館	ダレン・シャン8 真夜中の同志
小学館	ダレン・シャン9 夜明けの覇者
小学館	ダレン・シャン10 精霊の湖
小学館	ダレン・シャン11 闇の帝王
小学館	ダレン・シャン12 運命の息子
小学館	小学館ジュニア文庫 ホルンベッター
小学館	小学館ジュニア文庫 動物たちのお医者さん
小学館	世界からボクが消えたなら ～映画「世界から猫が消えたなら」キャベツの物語～
小学館	偏差値70の野球部 レベル1 難関合格編
小学館	偏差値70の野球部 レベル2 打撃理論編
小学館	偏差値70の野球部 レベル3 守備理論編
小学館	偏差値70の野球部 レベル4 実戦応用編
ポプラ社	江戸川乱歩・少年探偵シリーズ(1) 怪人二十面相
ポプラ社	江戸川乱歩・少年探偵シリーズ(2) 少年探偵団
ポプラ社	江戸川乱歩・少年探偵シリーズ(3) 妖怪博士
ポプラ社	江戸川乱歩・少年探偵シリーズ(4) 大金塊
ポプラ社	江戸川乱歩・少年探偵シリーズ(5) 青銅の魔人
ポプラ社	江戸川乱歩・少年探偵シリーズ(6) サーカスの怪人
ポプラ社	江戸川乱歩・少年探偵シリーズ(7) 地底の魔術王
ポプラ社	江戸川乱歩・少年探偵シリーズ(8) 透明怪人
ポプラ社	江戸川乱歩・少年探偵シリーズ(9) 怪奇四十面相
ポプラ社	江戸川乱歩・少年探偵シリーズ(10) 宇宙怪人

【資料 14：スタンドアロン型・中学校向け電子書籍収録作品リスト】

中学校向け 電子書籍専用端末収録作品リスト(111作品)

出版社名/作品名 五十音順

出版社名	作品名
偕成社	虚空の旅人
偕成社	神の守り人 上 来訪編
偕成社	蒼路の旅人
偕成社	神の守り人 下 帰還編
偕成社	流れ行く者
偕成社	夢の守り人
偕成社	闇の守り人
偕成社	精霊の守り人
偕成社	金の月のマヤ1 黒のエルマニオ
偕成社	金の月のマヤ2 秘密の図書館
偕成社	金の月のマヤ3 対決! 暗闇の谷
講談社	都会のトム&ソーヤ(1)
講談社	都会のトム&ソーヤ(2) <乱! RUN! ラン! >
講談社	満月を忘れるな!
講談社	続・満月をわすれるな!
講談社	嵐山光三郎の徒然草・三木卓の方丈記 シリーズ古典(2)
講談社	吉村昭の平家物語 シリーズ古典(3)
講談社	大庭みな子の枕草子 シリーズ古典(4)
講談社	村松友視の東海道中膝栗毛 シリーズ古典(5)
講談社	高橋治のおくのほそ道ほか シリーズ古典(6)
講談社	橋本治の古事記 シリーズ古典(7)
講談社	栗本薫の里見八犬伝 シリーズ古典(8)
講談社	怪談の科学 幽霊はなぜ現れる
講談社	素粒子論の世界 物質と空間の窮極に挑む
講談社	パズル・生物入門 楽しみながら学ぶために
講談社	犯罪の心理学 なぜ、こんな事件が起こるのか
講談社	哲学の謎
講談社	「時間」を哲学する 過去はどこへ行ったのか
講談社	「欲望」と資本主義 終わりになき拡張の論理
講談社	<じぶん>を愛するといふこと 私探しと自己愛
講談社	相手に「伝わる」話し方
講談社	いきいきと生きよ ゲーテに学ぶ
講談社	インタビュー術!
講談社	運動神経の科学 誰でも足は速くなる
講談社	江戸の性風俗 笑いと情死のエロス
講談社	演劇入門
講談社	家族関係を考える
講談社	キリストとイエス 聖書をどう読むか
講談社	これがニーチェだ
講談社	失敗を生かす仕事術
講談社	人類の祖先を探る 京大アフリカ調査隊の記録
講談社	戦争を記録する 広島・ホロコーストと現在
講談社	大学でいかに学ぶか
講談社	知的生活の方法
講談社	鉄道ひとつばなし
講談社	動物化するポストモダン オタクから見た日本社会
講談社	畑村式「わかる」技術
講談社	ヒトはなぜことばを使えるのか 脳と心のふしぎ
講談社	武装解除 紛争屋が見た世界
講談社	万葉集入門 人間と風土
講談社	歴史を学ぶということ
講談社	論語 現代に生きる中国の知恵
講談社	世の中への扉 甲子園がくれた命
講談社	世の中への扉 柴犬マイちゃんへの手紙 無謀運転でふたりの男の子を失った家族と愛犬の物語
講談社	世の中への扉 進め! サムライブルー サッカー日本代表 感動の20年ヒストリー
講談社	世の中への扉 図書館のトリセツ
講談社	世の中への扉 泥だらけのカルテ 家族のもとに遺体を帰しつづける歯科医が見たものは?
講談社	世の中への扉 ピアノはともだち 奇跡のピアニスト 辻井伸行の秘密
講談社	世の中への扉 ヒット商品研究所へようこそ! 「ガリガリ君」「瞬足」「青い鳥文庫」はこうして作られる
講談社	世の中への扉 まるごと日本の世界遺産
講談社	世の中への扉 めざせ! 給食甲子園
小学館	クイックセーブ&ロード
小学館	クイックセーブ&ロード2
小学館	クイックセーブ&ロード3
小学館	ストライクフォール
小学館	ストレッチボイス
小学館	スプリング・タイム
小学館	とある飛空士への追憶
小学館	ブック×マーク!

【資料 14：スタンドアロン型・中学校向け電子書籍収録作品リスト】

中学校向け 電子書籍専用端末収録作品リスト(111作品)

出版社名/作品名 五十音順

出版社名	作品名
小学館	ブック×マーク! 2
小学館	ブック×マーク! 3
小学館	フリック&ブレイク
小学館	フリック&ブレイク2
小学館	フリック&ブレイク3
小学館	異世界修学旅行
小学館	異世界修学旅行2
小学館	空知らぬ虹の解放区
小学館	空知らぬ虹の解放区2
小学館	七星のスバル
小学館	七星のスバル2
小学館	七星のスバル3
小学館	声優ユニットはじめました。
小学館	声優ユニットはじめました。2
小学館	猫にはなれないご職業
小学館	猫にはなれないご職業2
小学館	三浦綾子 電子全集 塩狩峠
小学館	三浦綾子 電子全集 残像
小学館	三浦綾子 電子全集 銃口(下)
小学館	三浦綾子 電子全集 銃口(上)
小学館	三浦綾子 電子全集 道ありき 青春編
小学館	三浦綾子 電子全集 氷点(上)
小学館	三浦綾子 電子全集 氷点(下)
小学館	100回泣くこと
小学館	いま、会いにゆきます
小学館	くちびるに歌を
小学館	セカンドウィンド 1
小学館	セカンドウィンド 2
小学館	セカンドウィンド 3
小学館	そのときは彼によろしく
小学館	モップガール
小学館	世界からボクが消えたなら 映画「世界から猫が消えたなら」キャベツの物語
小学館	世界の中心で、愛をさけぶ
小学館	謎解きはディナーのあとで
小学館	謎解きはディナーのあとで 2
小学館	謎解きはディナーのあとで 3
小学館	偏差値70の野球部 レベル1 難関合格編
小学館	偏差値70の野球部 レベル2 打撃理論編
小学館	偏差値70の野球部 レベル3 守備理論編
小学館	偏差値70の野球部 レベル4 実戦応用編
ポット出版	ジャンク ジャングル キッズ
ポット出版	同性パートナーシップ証明、はじまりました。 渋谷区・世田谷区の成立物語と手続きの方法

【執筆担当者】

- 第1章 植村八潮（専修大学）
野口武悟（専修大学）
- 第2章 植村八潮（専修大学）
竹村和子（全国学校図書館協議会）
鈴木直人（電子出版制作・流通協議会）
山口陽平（専修大学4年生）
東山美穂（専修大学3年生）
永澤洸太（専修大学3年生）
- 第3章 野口武悟（専修大学）
花田一郎（大日本印刷）
有山裕美子（工学院大学附属中学・高等学校）
植村八潮（専修大学）

学校図書館における電子書籍利用モデルの構築 報告書

公益財団法人図書館振興財団

平成28年度振興助成事業

平成29年3月31日（PDF版）

一般社団法人電子出版制作・流通協議会

専修大学 電子書籍研究プロジェクト

発行者：一般社団法人電子出版制作・流通協議会

〒102-0082 東京都千代田区一番町25番地

印刷・製本：株式会社デジタル・オンデマンド出版センター
